

第50回 日本生態学会大会プログラム (日本生態学会創立50周年記念大会)

会 期 2003年3月19日(水)~23日(日)
会 場 つくば国際会議場(エポカルつくば)

学会会長 巖佐 庸
大会会長 椿 宜高
実行委員長 竹中明夫

目 次

巻頭言(50周年記念大会について).....	2
大会日程	4
注意事項	5
交通案内	6
会場周辺地図	7
会場内案内図	8
企画シンポジウム・自由集会一覧	9
大会日程一覧表	10
記念式典・授賞式・受賞記念講演	12
全体シンポジウム.....	13
企画シンポジウム.....	17
自由集会	25
ポスター発表一覧.....	34
事前登録者名簿	59
第51回大会の案内.....	70

大会本部(会期中)

〒305-0032 茨城県つくば市竹園2-20-3
つくば国際会議場 4階小会議室401室

日本生態学会50回大会実行委員会

〒305-8506 茨城県つくば市小野川 16-2
国立環境研究所 生物多様性プロジェクト 上席研究官室
Tel./Fax. 029-850-2482
E-mail: jes50@cool.ne.jp

大会ホームページ : <http://jes50.cool.ne.jp/> (最新情報はこちらで)

(注) 従来の0298地域の市内局番は2003年1月11日から広域化により3桁になっています。

日本生態学会50周年記念大会について

日本生態学会は2003年で創立50周年を迎えました。この節目の年にあたって過去の歴史を総括し、今後の方向について議論をしておこうというのが50周年記念事業の大きな意義です。この50年の歴史の流れには、大きな二つの潮流があるように思われます。一つは国際化の方向、もう一つは生態学が社会の中で重要性を増していく方向かと思われます。

50年前の日本は、経済発展とともに諸外国との情報のやりとりがスムーズになり、学問世界も急速に発展し始めた時期でありました。その後、それまでに準備された諸研究が花開き、世界的に著名になってきています。日本生態学会もまさにこうした学問発展の一端を担ってきたと言えます。現在では多くの研究者が国際学会に出席して発表し、国際雑誌にも論文を投稿しており、国際化が進んできたといつてよいでしょう。この国際化の流れは直線的に進んで来たのではなく、17年前の英文誌の発行、13年前の国際生態学会（INTECOL）の横浜での開催などを期に一気に高まってきたことができます。今回の50周年における各種のイベントもまた、新しい機運を盛り上げる機会になり、後に評価されるものとなることが期待されます。

国際化は個人のレベルだけでなく、大型の国際共同計画への参画というかたちでも進んできています。すでに30年前のIBP（国際生物学事業計画）によって日本の生態学者は共同研究推進の訓練を受け、国際的な責任を果たしました。最近では、地球環境問題に関連して、IGBP、DIVERSITASなどの国際共同計画が進行しています。国際計画に対する日本国政府の対応を十分ならしめるためにも、日本生態学会が力をつける必要があります。

もう一つの大きな潮流として、公害問題、環境問題を契機として生態学の社会への発言力が増してきたことがあげられます。それ以前は、生態学者は環境破壊に力を貸すような開発にはいっさい係わってはならないというのが生態学会の多くの会員の了解事項であったように思われます。しかし、それだけでは自分の研究フィールドも奪われかねないことになってしまいます。そこで、開発反対の声明を出すというのがひとつのパターンになっていましたが、開発の大きな力の前にはこのような声明は無力であることが多かったわけです。けれども最近は状況が変わってきています。それはわれわれの力が強くなったというよりは、環境問題の深刻化とともに、多くの人たちが危機感を持ち始めたことによるものと思われます。それとともに、では自然を守るにはどうすればよいのかと生態学者が問われることになってきています。ずっと以前のように、いっさい関与しない、反対だけはする、という態度をとり続けることはもはやできないでしょう。

では、われわれはどうすればよいのか。保全のための研究が、生態学の立場から新しい提言を出しうるほどに進んできているのか、さらに進めるにはどのように研究者と技術者、政策担当者が連携すべきかについて大いに議論がおこる必要があります。環境問題がなくなる限り、研究を終了させるわけにはいかないでしょう。生態学者が研究費獲得のために環境問題を利用するのではなく、本当に環境問題にコミットしようとするのなら、独自に計画を立案し、予算を獲得して研究を推進しなければなりません。そのためにも学会が力をつけることが必要となるでしょう。21世紀における生態学の新しい方向づけを行うなどということは、学会の役員がいくら知恵を絞っても出てくるものではありません。それはまったく思いもよらぬところで、誰かの頭のなかに浮かんでくるのでしょうか。しかし、環境問題のように与えられた応用問題をどのように解いていくかということであれば、現在の学会首脳でもある程度の方向付けができることでしょう。

このような方向付けがこの節目の時期にぜひ必要と考え、50周年記念事業委員会では、栄えある50周年記念大会を「つくば国際会議場」で開催し、海外からも5人の講演者を招聘して全員参加型の「全体シンポジウム」を企画するなど工夫させていただいた次第です。皆様方のご理解とふっつのご参加をお願い申し上げます。

日本生態学会50周年記念事業委員会
委員長 松本忠夫



1954年5月2日に東京都港区の国立科学博物館・附属自然教育園で行われた生態学会創立総会。

第1回大会時の参加者全員の写真（故沼田眞先生提供）。生態学会はこの前年に創立されましたが、総会は翌年に行われています。このときの参加者はおよそ130人でした。今回の50回大会では、この10倍以上の参加が見込まれています。



1990年8月に横浜で開催された第5回国際生態学会（INTECOL）のシンボルマーク。

『(前略) 最初デザイナーが画いてきたのはカモメだけだったが、「植物の絵もほしい」という要望からカモメが小枝をくわえることになったと聞く。デザイン的にはひどくダサイものになってしまったという評もある。そうだとしても一向にかまわない。生態学はもともとダサイ学問であることを誇りにしているのである。いったいかモメが枝をくわえて飛ぶかという疑問も聞こえる。これも生態学的にみれば短絡的な見方でしかない。この図は、植物体が水中に落ち、分解されてバクテリアのからだになり、動物プランクトン、魚を経て水鳥へとつながるエネルギー流を凝縮して表現したものなのである。(後略)』(木村允(1987)「第5回国際生態学会議について」生態学会関東地区会報 36、p20より引用)

第8回国際生態学会議の報告

2002年8月に韓国・ソウルで行われた第8回国際生態学会議 (INTECOL)は、日本からも多くの研究者が参加しました。成功裡に行われた本会議の報告を日本生態学会大会で行いたいとの申し出が韓国生態学会からあり、ポスター会場前のロビーに場所を設けて3日間にわたって特別ポスターを展示していただくことにいたしました。

PS-001 **The Success Story of the VIII Seoul INTECOL Congress and the Promoting of Asian Ecological Society Network.** Byung-Sun Ihm (Mokpo National University, Mokpo), Eun-Shik Kim (Kookmin University, Seoul), Jae C. Choe (Seoul National University), Sei-Woong Choi (Mokpo National University) and Sun-Kee Hong (Seoul National University)

大会日程

各種委員会 3月19日(水) つくば国際会議場4階

外来種問題検討作業部会	9:00 ~ 11:30	402室
自然保護専門委員会	12:00 ~ 15:00	402室
生態学教育専門委員会	9:00 ~ 12:00	403室
和文誌編集委員会	13:30 ~ 15:30	403室
将来計画専門委員会	9:30 ~ 12:00	404室
英文誌編集委員会	13:00 ~ 15:00	404室
全国委員会	16:00 ~ 19:00	405室

総会 3月23日(日) 14:00 ~ 15:00 つくば国際会議場201室

授賞式・受賞記念講演 3月21日(金)14:50 ~ 17:50 つくば国際会議場大ホール

全体シンポジウム つくば国際会議場大ホール

(生態学会50周年記念事業委員会企画)

- L1 個体群生態学の新しい展望：ダイナミクスから進化まで (3月20日(木) 14:50 ~ 17:50)
- L2 分子生態学：分子生物学的アプローチが拓く生態学の新たな展開 (3月21日(金) 9:00 ~ 12:00)
- L3 生態系のなかの生物群集：生物多様性と生態系機能の視点から (3月22日(土) 14:50 ~ 17:50)

公開講演会(兼全体シンポジウム) 3月23日(日) 10:00 ~ 13:00 つくば国際会議場大ホール

日本生態学会 第6回公開講演会(日本生態学会公開講演会実行委員会)

- L4 21世紀/協働の時代の生態学を語る：環境保全と自然再生

一般講演・シンポジウム・自由集会 つくば国際会議場

一般講演(ポスター発表)	3月20日(木)・3月21日(金)・3月22日(土)
	9:00 ~ 18:00 (説明は 12:40-14:40)
企画シンポジウム	3月20日(木)・3月22日(土) 9:00 ~ 11:50
自由集会	3月20日(木)・3月22日(土) 18:00 ~ 20:00

懇親会 3月21日(金) 18:30 ~ 20:30 ホテルグランド東雲

ホテルグランド東雲は、国際会議場から徒歩15分。無料送迎バスあり。

エコカップ2003のご案内

生態学会のサテライト企画として、今年も親善フットサル大会(5人制のミニサッカー)を3月19日に開催致します。会場、大会要項(試合開始時刻、チーム集合時間など)、参加チームリスト、会場へのアクセス方法につきましては、下のホームページをご覧ください。

<http://www.ies.life.tsukuba.ac.jp/EcoCup/>

注 意 事 項

受 付

- ・ 3月19日(水)13時より行います。事前申し込みのない方も参加可能です(一般・学生とも6,000円)。
- ・ シンポジウムならびにポスター発表の開始される20日(木)の午前中から昼頃までは、受付の混雑が予想されます。お早めに受付を終えられることをお勧めします。なお、事前申し込みはすでに締め切りました。

一般講演(ポスター発表)

- ・ ポスター発表者は当日の8:45~12:40の時間帯に展示を完了し、当日の18:00までに撤去してください。
- ・ 展示場所は、ポスター会場(A・B会場)の展示パネルに講演番号で指示されています。講演番号は、「P」と会場名、発表日、3桁の通し番号から構成されています。例えば、PA1-001は、ポスター発表のA会場における第1日目(3月20日)001番の講演です。会場の展示パネルには、会場名と通し番号のみ(この例ではA001)が示されていますので、ご注意ください。
- ・ 展示パネルのサイズは、90cm×180cm(縦長)です。なお、展示パネル間には講演番号が貼られていないパネルが挿入されます。このパネルは議論のスペース用ですからポスター等を貼らないでください。
- ・ ポスター貼付用のピンや画鋏は、各自でご用意ください(セロテープも使用可能です)。
- ・ 12:40~14:40の時間帯は、必ずポスターの前で発表をお願いします。
- ・ 非日本語話者の参加者も少なくないことを考慮して、ポスターのタイトルにはなるべく英語も併記してください。タイトル以外の部分にもご配慮をお願いします。
49回大会の総会の議を経て、日本生態学会の大会は国際化を基本方針とすることが決まっています(参考：<http://jes50.cool.ne.jp/arikata.html>)。

懇 親 会

- ・ 懇親会は3月21日(金)18:30から「ホテルグランド東雲」で開催されます。
- ・ 18:00に大会会場「つくば国際会議場」より「ホテルグランド東雲」行きの送迎バス(無料)を運行いたします。なお、大会会場から懇親会会場まで徒歩では約15分です(地図参照)。
- ・ 懇親会の参加申し込みはすでに締め切りました。
- ・ つくば市内は夜分になりますと大変暗く、道がわかりにくくなります。また通常、流しのタクシーも走行しておりません。歩いてお帰りの際はくれぐれも方角を間違われぬようご注意下さい。タクシーおよびバスはつくばセンターより発着しております(地図参照)。

講演要旨

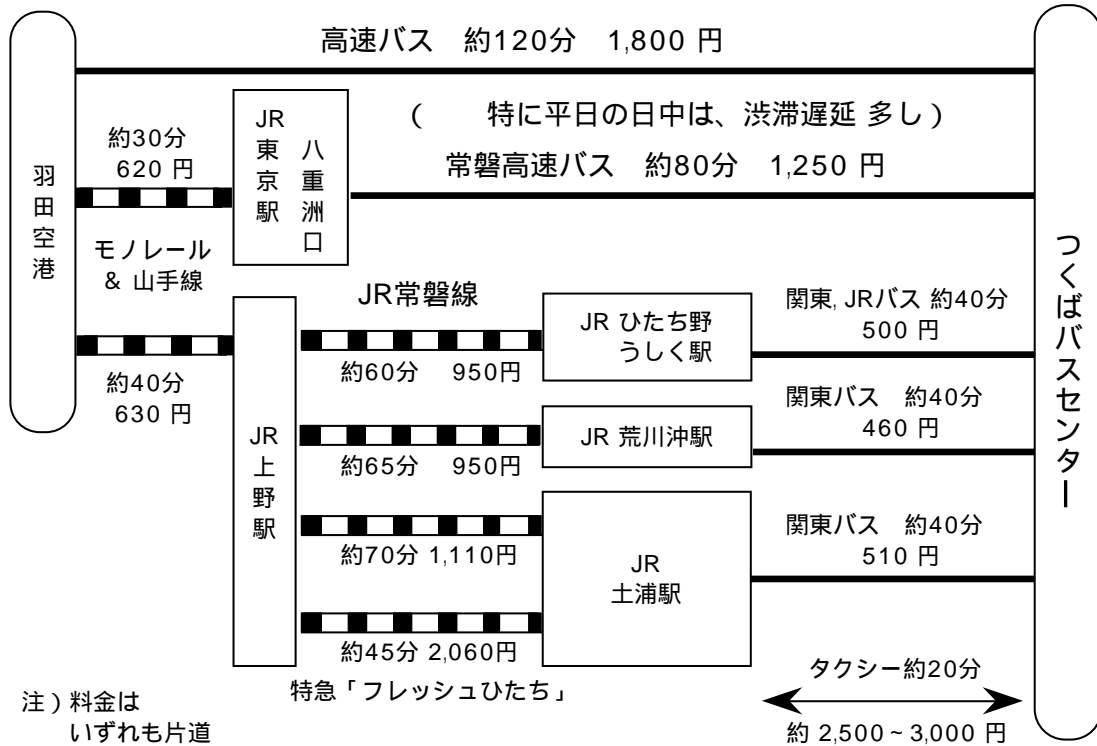
- ・ 講演要旨のみをご希望の方は、大会事務局へ申し込みのうえ、郵便振替口座(00-140-4-17508,口座名 JES50)に代金3000円(送料込み)をお振り込みください。振替用紙の通信欄に送付先と「講演要旨希望」と明記のこと。大会終了後に郵送します。

託児所のご案内

参加者が同伴されるお子さんの託児を行います(要事前申込み)。託児を希望される方は、申込書と同意書に必要事項を記入し、捺印の上、大会事務局までご郵送ください。申込書は大会ホームページからコピーをとるか、大会事務局までご請求ください。

- ・ 対象年齢：1歳~小学校1年生まで(ご相談に応じます)
- ・ 託児期間：2003年3月20日(木)~3月22日(土)の9:00~17:30
- ・ 託児場所：大会会場内(会場案内図をご覧ください)
- ・ 利用料金：1人につき1時間800円(兄弟の場合は2人目から半額)
- ・ 申込締切：2003年3月10日(月)

つくばバスセンターへのアクセス



1. JR東京駅 八重洲南口 つくばバスセンター (常磐高速バス) 始発 6:00 最終 23:00
 つくばバスセンター 東京駅八重洲北口 (月-土は上野駅経由) 始発 5:15 最終発 21:30
 (約10分間隔)
2. 羽田空港 つくばバスセンター (高速バス) 始発 8:40 最終発 21:20
 つくばバスセンター 羽田空港 始発 5:30 最終発 17:40
 (約1時間隔)
3. JRひたち野うしく駅 東口1番 つくばバスセンター (関東, JRバス) 始発 6:55 最終発 21:25
 つくばバスセンター JRひたち野うしく駅 始発 6:20 最終発 20:52
 (約20分間隔)
4. JR荒川沖駅 東口 つくばバスセンター (関東バス) 始発 6:55 最終発 22:11
 つくばバスセンター JR荒川沖駅 東口 始発 6:18 最終発 21:37
 (約20分間隔)
5. JR土浦駅 西口2番 つくばバスセンター (関東バス) 始発 5:43 最終発 22:12
 つくばバスセンター JR土浦駅 始発 6:03 最終発 22:37
 (約15分間隔)

注) 土日祝日は、バス運行時刻に変更あり。

タクシーは、JR駅もしくは、つくばバスセンターか、直接タクシー会社にてご利用ください。

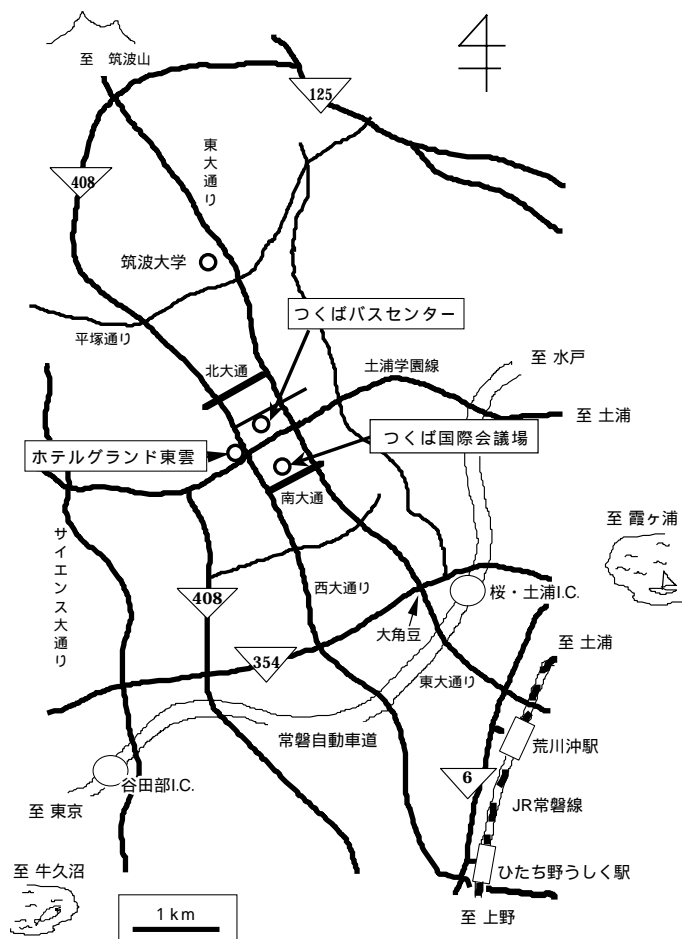
最寄りのタクシー会社

松見タクシー 029-851-1432,

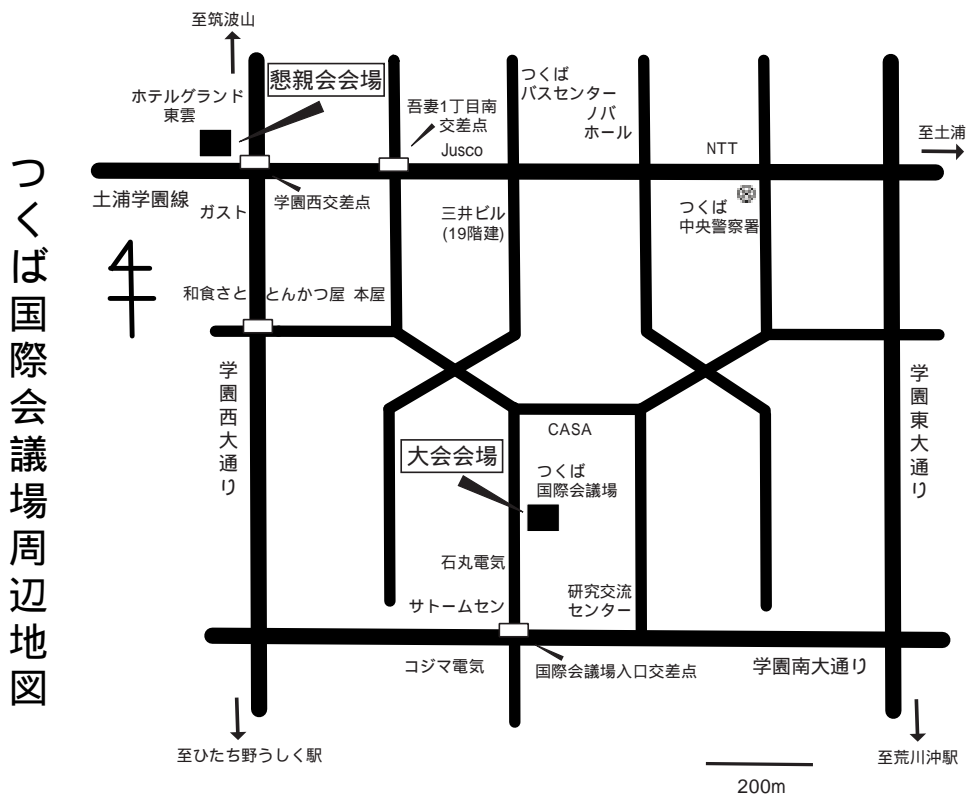
中央タクシー 0120-39-0184

天川タクシー・学園並木営業所 029-851-6500,

土浦タクシー 029-821-5324



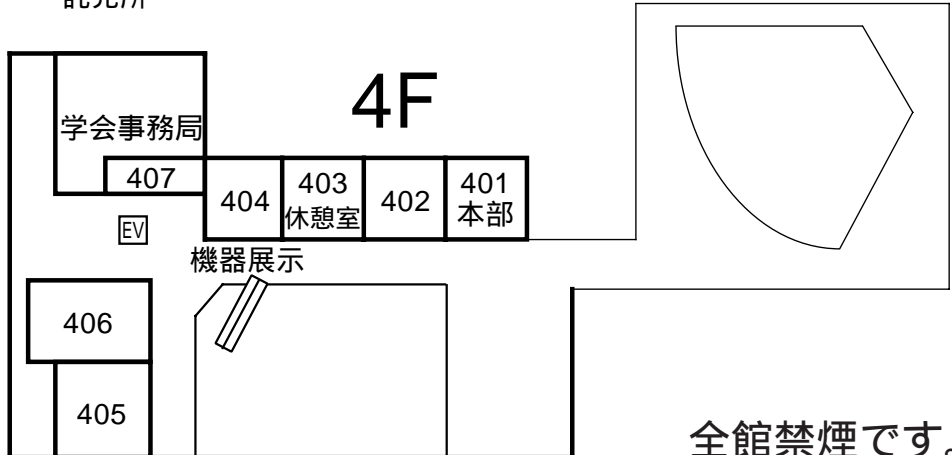
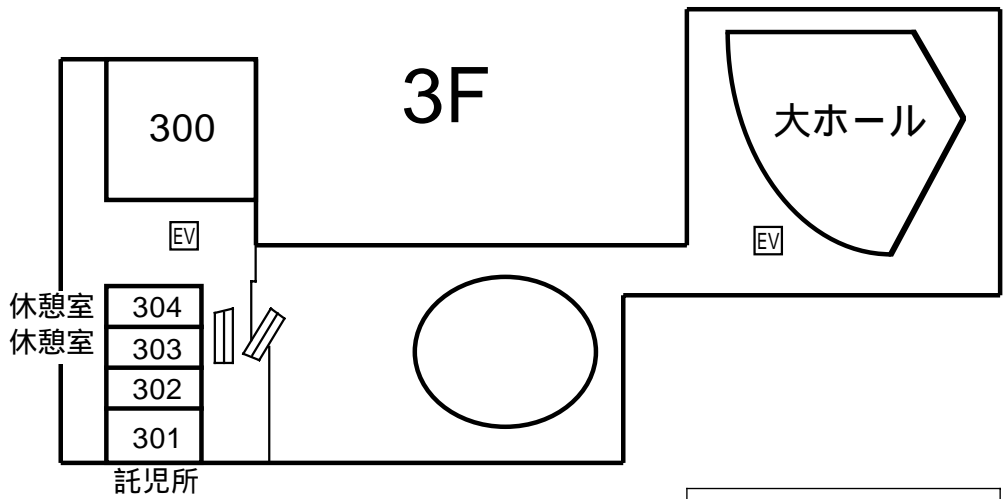
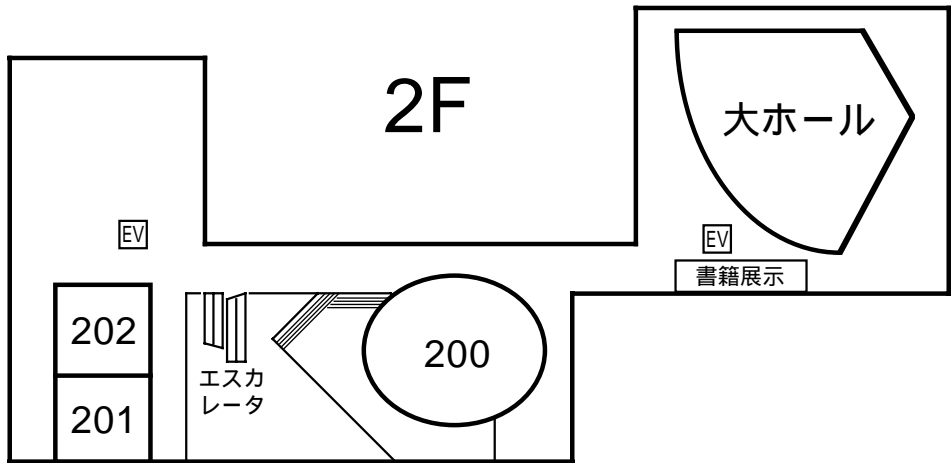
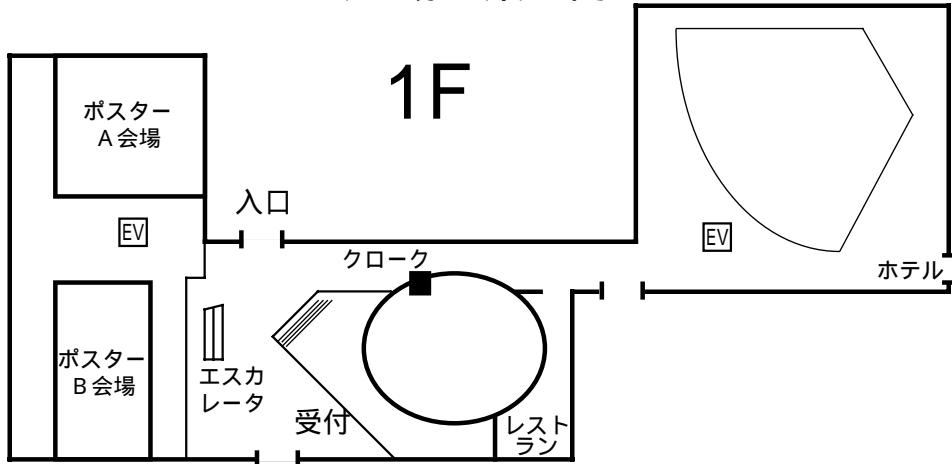
つくば市広域地図



つくば国際会議場周辺地図

つくば国際会議場のホームページでも交通案内・地図が提供されています。http://www.epochal.or.jp/
 近隣の駐車場はすべて有料で、かつ特に休日には混雑します。また、つくばでは違法駐車を取り締まりがきびしいので、バス・タクシーなどをご利用ください。

会場案内



全館禁煙です。

企画シンポジウム・自由集会一覧

3月20日（木）

企画シンポジウム（9:00～11:50）		場所	頁
S1-1	景観の構造と機能 - 日本における景観生態学の総括と展望	大ホール	17
S1-2	熱帯植物特有の生活史戦略を通じた多様性の創出・維持 相互作用とその物質的基盤からのアプローチ	200	17
S1-3	生物多様性・人間活動・土地利用	201	18
S1-4	「森林衰退」とは何か？	202	19
S1-5	日本における湿地の保全生態学を振り返って - ベ - スラインはどこに、そして再生の方策は？ -	300	19
S1-6	地球生態系と生物地球化学	406	20
自由集会（18:00～20:00）		場所	頁
W1-1	Introgressive hybridization(浸透交雑)問題を考える -B. Rosemary Grant を囲んで-	200	25
W1-2	こんな法案つくってみました - 生態学はどのように貢献できるのか -	201	25
W1-3	動物行動映像の登録型データベースの構築をめざして	202	26
W1-4	2000年噴火後の三宅島の生態系	300	26
W1-5	Matter Flow and Ecosystems ~物質循環の遷移を考える~	303	27
W1-6	Soil Ecology：土壌のキーストン種3 - ミミズの生活史と生態系機能	304	27
W1-7	四次元の生態学：火はどのように植生を変えるのか？	405	28
W1-8	群落談話会：河川の自然再生 - 河川水辺の国勢調査を如何に生かすか -	406	28

3月22日（土）

企画シンポジウム（9:00～11:50）		場所	頁
S3-1	門司・佐伯論文50周年：物質生産生態学の発展	大ホール	21
S3-2	長期モニタリングサイトと分子生態遺伝学：森林の遺伝的構造と動態	200	21
S3-3	内湾湿地（塩生草原・マングローブ林）の生物群集の構造と機能	201	22
S3-4	どこまで解明されたか、水辺林の生態	202	23
S3-5	群集のプロセスを考慮した生態系管理	300	23
自由集会（18:00～20:00）		場所	頁
W3-1	デ - タ解析の落とし穴、穴から脱出する計算機ワザ	200	29
W3-2	植物の生理生態：生理生態学における遺伝情報や分子生物学の手法の活用	201	29
W3-3	行列のできるIBM相談所	202	30
W3-4	保全生態学研究会自由集会：「自然再生」を支える保全生態学の理論と技術	300	30
W3-5	第8回植生地理学の視点：照葉樹林の分布限界をさぐる	303	31
W3-6	ダム下流の河川環境回復をめざして 文理融合の視点から	304	31
W3-7	新しい生命共同体思想を求めて - 新今西進化論とネオダ - ウィニズムとの対話	402	32
W3-8	大台ヶ原における生物間相互作用ネットワークとニホンジカの個体数管理	405	32
W3-9	水田生物多様性ホットスポットを保全・再生する方法を探る： アグロエコロジー研究会第6弾	406	33

3月23日（日）

自由集会（19:30～22:00）		場所	頁
W4-1	フェノロジー研究会「芽ばえのナチュラルヒストリー」	別会場	33

W4-1は、3kmほど離れた筑波研修センターで行われます。詳しくは主催者にお問い合わせください。

大会日程一覧表

3月19日(水)

	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
402	外来種問題		自然保護委								402	
403	生態学教育委			和文誌編集								403
404	将来計画			英文誌								404
405								全国委員会			405	

3月20日(木)

	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
企画シンポは9:00-11:50						全体シンポは14:50-17:50						
大ホール	S1-1 景観生態学			L1 個体群生態								大ホール
ポスター-A	ポスター展示PA1(説明は12:40-14:40)											ポスター-A
ポスター-B	ポスター展示PB1(説明は12:40-14:40)											ポスター-B
200	S1-2 熱帯植物と多様性						W1-1 浸透交雑		200			
201	S1-3 多様性・人間活動						W1-2 法案		201			
202	S1-4 森林衰退						W1-3 行動映像		202			
300	S1-5 湿地の保全生態						W1-4 三宅島		300			
303							W1-5 物質循環		303			
304							W1-6 ミミズ		304			
405							W1-7 火と植生		405			
406	S1-6 生物地球化学						W1-8 河川自然		406			

3月21日(金)

	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
全体シンポは9:00-11:50						表彰・受賞講演は14:50-17:50						
大ホール	L2 分子生態			表彰式・受賞講演								
ポスター-A	ポスター展示PA2(説明は12:40-14:40)											
ポスター-B	ポスター展示PB2(説明は12:40-14:40)											
										懇親会 18:30- (グランド東雲)		

3月22日(土)

9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

企画シンポは9:00-11:50

全体シンポは14:50-17:50

大ホール	S3-1 物質生産生態		L3 生態系・生物群集		大ホール
ポスター-A	ポスター展示PA3(説明は12:40-14:40)				ポスター-A
ポスター-B	ポスター展示PB3(説明は12:40-14:40)				ポスター-B
200	S3-2 森林の遺伝構造			W3-1 データ解析	200
201	S3-3 内湾湿地			W3-2 生理生態	201
202	S3-4 水辺林の生態			W3-3 IBM	202
300	S3-5 群集プロセス			W3-4 自然再生	300
303				W3-5 照葉樹林	303
304				W3-6 ダム下流	304
402				W3-7 新今西	402
405				W3-8 ニホンジカ	405
406				W3-9 水田	406

3月23日(日)

9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

大ホール		L4 環境保全									大ホール
201					総会						201

50周年記念式典・授賞式・受賞記念講演

日 時：3月21日(金) 14:50 ~ 17:50

場 所：つくば国際会議場 大ホール

生態学会創立50周年を記念して式典を執り行います。式典に引き続き、各種授賞式、日本生態学会賞・宮地賞の受賞講演を行います。

授賞式

- ・日本生態学会賞
- ・日本生態学会功労賞
- ・日本生態学会宮地賞
- ・Ecological Research 論文賞
- ・感謝状

受賞記念講演

第1回日本生態学会受賞者あいさつ

巖佐 庸

菊沢喜八郎

第7回日本生態学会宮地賞受賞記念講演

工藤 慎一（鳴門教育大・学校教育）

「昆虫におけるParental careの進化生態学：統合的な理解に向けて」

三浦 徹（東京大学・総合文化）

「社会性昆虫における表現型多型の制御機構と進化～社会生態から遺伝子へ～」

全体シンポジウム 3月20日（木）14:50～17:50 会場：大ホール

L1 個体群生態学の新しい展望：ダイナミクスから進化まで

New Perspectives of Population Ecology: Dynamics and Evolution

個体の行動や生活史が、どのように広い地域の個体群のダイナミクスや進化を規定するか？この問いは、個体と個体群、局所と広域など、レベルとスケールを横断した新しいテーマである。この問いに対して、生態学者がたどり着いた理解の地平とその将来像を、この方面の第一人者を集めて解説してみたい。

ダイナミクスの面では、広い地域にまたがる大きな空間スケールの中で、局所個体群はそれぞれどのような特性をもつのか、さらに全体を集合するとどのようなパターンが見えてくるのかという広域スケールのダイナミクス・パターンの研究を取り上げる。齊藤隆氏は、北海道のエゾヤチネズミの個体群動態パターンにおいて、北海道全体で見たときに、変動の小さい南西地域から大きな振幅の振動となる北東地域に至る地理的勾配をもたらす気候や生物的要因について講演する。さらに、グランヴィルヒョウモンモドキをモデル生物として、Ilkka Hanski氏とそのグループは、広域に広がるメタ個体群ダイナミクスのさまざまな側面、その持続性の閾値条件や分断化された生息地域における移住率の進化などを解明してきた。

また、進化の面では、個体ごとの行動・遺伝的特性がどのように集団全体の進化パターンを規定するかを取り上げる。河田雅圭氏は、生物の持つ現実性をボトムアップ的に取り込んだ個体ベースモデルによって、個体の分散がいかに近縁種のニッチ分化や、生殖隔離と種分化による生物多様性の増進をもたらすかを、理論的に解説する。そして、Peter Grant氏は、長年にわたるガラパゴス諸島のダーウィン・フィンチの調査を通じて、嘴などの形態にかかる自然選択圧の推定から、さえずりによる交雑の妨げと生殖隔離、適応放散の系統解析、さらには、過去のガラパゴス諸島の環境の推定など、種分化と適応放散の全ての過程を明らかにした実証研究を取り上げる。

これら4講演から、多くの研究者による労力が集中した「モデル生物」を持つことは、その分野全体にとっていかに重要かが分かるだろう。さらに、個体と個体群、局所と広域という軸の中で、レベルやスケールを横断した研究の魅力を、ぜひ汲み取ってもらいたい。

企画責任者：嶋田 正和（東京大学）

プログラム

Geographic gradient of vole dynamics: pattern and process of density dependence

(野ネズミの個体数変動における地理的勾配：密度依存性のパターンとプロセス)

齊藤 隆 (北海道大学・フィールド科学センター)

The *Glanville fritillaria* butterfly: a model system for the ecology and evolution of species living in highly fragmented landscapes

(グランヴィルヒョウモンモドキ：分断化された景観に生息する生物種の生態と進化のモデル系として)

Ilkka Hanski (University of Helsinki, Finland)

The effects of individual dispersal on the evolution of niche width and the patterns of biological diversity

(個体の分散がニッチ幅と生物多様性の進化に与える効果)

河田 雅圭 (東北大学大学院・生命科学研究所)

Seeking the origin of biodiversity- Darwin's finches

(生物多様性の起源を求めて - ダーウィン・フィンチ)

Peter R. Grant (Princeton University, USA)

全体シンポジウム 3月21日（金）9:00～12:00 会場：大ホール

L2 分子生態学：分子生物学的アプローチが拓く生態学の新たな展開

Molecular Ecology: Molecular Biology Techniques Open New Windows into Ecological Studies

革新的な技術の導入によって、生態学にも新しく刺激的な進展の波がおしよせている。ここ10年ほどの分子生物学的技術を利用した解析により、これまでの生態学的なアプローチだけでは見えなかった部分が続々と明らかになってきた。分子生態学には種分化、浸透交雑、集団の歴史、交配様式、遺伝子流動、共進化、遺伝子のゲノム内闘争などの様々な研究要素が含まれる。こうした技術が適切に使われることにより、生態学への理解はいちだんと深まるであろう。また将来的には、環境適応形質の遺伝的な背景及びその役割と機能までも理解することも可能になると期待される。本シンポジウムでは、分子生物学的手法を用いて様々なスケールの生物現象の解明にとりくんでいる気鋭の研究者の方々を演者として、分子生態学およびその関連分野の最先端の研究成果について紹介していただく。

企画責任者：津村 義彦（森林総合研究所）・深津 武馬（産業技術総合研究所）

プログラム

Concomitant postglacial migration and introgression in oaks

（ナラ類の氷河期後の随伴移動と浸透交雑）

Remy J. Petit (INRA, Unite de Recherches Forestieres, France)

Molecular approaches to the analysis of regeneration process of forest trees

（森林の更新過程解析のための分子生態学的アプローチ）

陶山 佳久（東北大学・農学部）

Conservation genetics of an endangered species, *Primula sieboldii*

（希少種サクラソウの保全遺伝学）

津村 義彦（森林総合研究所・森林遺伝研究領域）

Aphid and its endosymbiotic bacteria as a compact ecosystem

（アブラムシと共生細菌：コンパクトな生態系における相互作用の諸相）

深津 武馬（産業技術総合研究所・生物機能工学研究部門）

Horizontal gene transfer from *Wolbachia endosymbiont* to insect host: insights from ecological points of view

（共生細菌 *Wolbachia* から昆虫への遺伝子水平転移：なにが見えてくるのか）

今藤 夏子（東京大学・広域システム）

Genome as a community of selfish genes, or, why restriction enzymes are present

（利己的な遺伝子の社会としてのゲノム、あるいは、制限酵素はなぜあるのか）

小林一三（東京大学医科学研究所・遺伝子動態分野）

全体シンポジウム 3月22日(土) 14:50~17:50 会場:大ホール

L3 生態系のなかの生物群集:生物多様性と生態系機能の視点から

Unifying Community Ecology and Ecosystem Ecology

生物群集のなかでは、環境も含めた多様な構成要素のあいだでさまざまな相互作用が営まれている。生態系の機能と呼ばれるものは、そうした相互作用の総体を定量的に捉えたものである。その意味で、群集生態学と生態系生態学のあいだに垣根はない。このシンポジウムでは、群集の構成要素である生物の多様性と生態系プロセスとの関係を中心に据え、陸域と水域で平行して進められている研究を概観し、それらが生態学全体に与えるインパクトについても考える。前半では、おなじ栄養段階での種多様性と生態系機能の関係に焦点を当てた野外操作実験による仮説検証について、後半では、栄養段階間の群集相互作用系の定量的解明について、植物・植食性昆虫・寄生者系と湖沼の相互作用系をとりあげて議論する。

企画責任者: 可知 直毅(東京都立大学)・甲山 隆司(北海道大学)

プログラム

Introduction (はじめに)

酒井 章子(筑波大学生物科学系)

Assembly, diversity, and functioning of terrestrial ecosystems

(陸上生態系の構成、多様性、機能)

David Tilman (University of Minnesota, USA)

Interactive effect of nutrient and grazing on algal diversity in a rocky intertidal habitat

(岩礁潮間帯における海藻の種多様性に及ぼす栄養塩と植食の複合的影響)

野田 隆史(北海道大学・水産科学研究科)

Indirect effects and the structure of invertebrate food webs

(無脊椎動物の食物網の構造と間接効果)

Charles Godfray (NERC Centre for Population Biology, UK)

Stoichiometric impacts of environmental disturbances on lake ecosystems

(湖沼生態系に及ぼす環境攪乱の生態化学量効果)

占部 城太郎(京都大学・生態学研究センター)

生態学会創立50周年記念全体シンポジウム兼第6回公開講演会

L4 21世紀/協働の時代の生態学を語る：環境保全と自然再生

3月23日(日) 10:00~13:00 会場：大ホール

今日、生物多様性の保全、自然再生、地球環境や地域環境の変化が生態系に及ぼす影響の評価などにおいて、生態学への社会的な期待はきわめて大きなものとなっている。生態学が社会から期待される役割を果たしながら、その健全な内在的發展をはかるにはどうすればよいのだろうか、また、これまでどのような成果をあげてきたのだろうか。本シンポジウムでは、行政やNPO法人の方々と交えたパネルディスカッションで議論を深めます。

企画責任者：鷲谷いづみ（東京大学）

パネラー

飯島博（NPOアサザ基金）
吉田正人（日本自然保護協会）
小野寺浩（環境省）
岡山和生（国土交通省）
巖佐庸（九州大学）
中静透（総合地球環境研）
粕谷英一（九州大学）
田中健太（北海道大学）

司 会：鷲谷いづみ

後 援：つくば市・茨城県教育委員会・日本自然保護協会・環境省・国土交通省

企画シンポジウム 3月20日(木) 9:00~11:50 会場:大ホール

S1-1 景観の構造と機能 - 日本における景観生態学の総括と展望

企画責任者: 中越信和(広島大学)・鎌田磨人(徳島大学)

景観生態学は、健全な生態学的機能を発揮し得る景観構造についての科学的な基礎を提供し、また、それに基づいた施策・計画を実際に展開してゆくための架橋となる学問分野として期待されている。ただ、景観が持つ機能を把握することは、それが広域的なスケールを対象とすること、また、異なった系間の相互作用を確認しなくてはならないこと等の理由により、多大な労力が必要であり、その研究成果はなかなか蓄積されてこなかった。

しかし、近年になって、釧路湿原を始めとし、景観生態学の研究成果に基づいた景観機能回復のための事業も各地で展開されるようになってきている。本シンポジウムでは、景観の機能を把握するために展開されてきた研究の道筋を総括するとともに、景観の機能回復を実現させてゆくために必要とされていることを展望する。

プログラム:

景観構造の機能評価 - アプローチと展望

中越信和(広島大・院・国際協力研究科)・鎌田磨人(徳島大・工)

森林管理と植物種の多様性 - 景観生態学の視点から

紙谷智彦(新潟大・院・農学研究科)

大型哺乳類の土地利用から見た景観構造 - コリドールの機能評価

三浦慎悟・岡輝樹(森林総合研究所・東北支所)

流域の景観構造と物質移動

中村太士(北大・院・農学研究科)

「景観」の機能再生に向けて

森本幸裕(京大・院・地球環境学堂)・

夏原由博(大阪府大・院・農学生命科学研究科)

コメント:

横張 真(筑波大・院・社会工学系):ランドスケーププランニングの立場から

Hong, S-K (Environmental Planning Institute, Seoul National University)

企画シンポジウム 3月20日(木) 9:00~11:50 会場:200

S1-2 熱帯植物特有の生活史戦略を通じた多様性の創出・維持 相互作用とその物質的基盤からのアプローチ

企画責任者: 中静透(総合地球環境学研究所)・百瀬邦泰(京都大学)

これまでに熱帯植物に特有の生活史戦略が数多く報告されてきた。生物間の相互作用はそれらに深く関わっている。しかもその相互作用は、1. 豊富な日射により糖の余剰生産が多く生じる、2. 季節性が欠如し、予測性の乏しい一年より長い時間スケールの環境変動が支配的である、3. 湿地では高い生産力に分解が追いつかない場所が局所的に発生する、といった、熱帯林に特有の事情と深く結びついている。熱帯林の生物多様性は、これら熱帯林に特有の事情から説明できる可能性がある。このシンポジウムの特徴は、相互作用を物質の生産、貯蔵、分配、循環といった過程から基礎付けた上で、共存や多様化への貢献を評価しようとする点にある。そして、物質分配等に関する測定を主体とした研究や、相互作用に関する観察や操作実験を主体にした研究、さらに多様化を跡付ける系統解析、といった異なる手法による研究を結びつけるための視点を探ることをシンポジウムの目的とする。

海外の研究者も招くためシンポジウムでは英語をしますが、質問は日本語も受け付けることにします。気軽に参加し、発言してください。

プログラム：

第一部 防衛

オオバギ属における被食防衛戦略の多様性

畑田彩（京大・生態研）、野村昌弘（科学技術振興事業団）、市岡孝朗（名大院・生命農）、中静透（総合地球環境学研究所）

オオバギ属-シリアゲアリ共生系における種特異性の維持機構

村瀬香（名大院・生命農）、市野隆雄（信州大・理）、市岡孝朗

*Shorea*属の防衛戦略を通じた多様性創出・維持機構

野村昌弘、市岡孝朗、市栄智明（北大・生物圏FSC）、中静透

第二部 繁殖

フタバガキ科巨大高木の繁殖に対する資源投資

市栄智明・小池孝良（北大・生物圏FSC）、二宮生夫（愛媛大・農）

種子捕食と植物の繁殖フェノロジー

中川弥智子（京大・生態研）、箕口秀夫（新潟大・農）、市岡孝朗、中静透

重要な送粉者であるオオミツバチの個体数変動と植物の繁殖フェノロジー

H.カリアン（サラワク森林研究所）、酒井章子（京大院・人環）、市岡孝朗

熱帯高木は近親交配が嫌い - 近交弱勢発現の経時パターンと二親性近交弱勢の検討 -

田中健太（北大・生物圏FSC）、井鷲裕司（広島大・総合科学）、中川弥智子、中静透

絶対送粉共生の起源と共種分化

川北篤・加藤真（京大院・人環）

第三部 ハビタット創出

泥炭湿地林の物質循環の不均一性に起因するエレベーションダイナミクスと多種共存

嶋村鉄也・百瀬邦泰（京大院・アジア・アフリカ）

コメンテーター：H.S.リー（サラワク森林局、京大・東南ア研）ほか

企画シンポジウム 3月20日（木） 9:00～11:50 会場：201

S1-3 生物多様性・人間活動・土地利用

企画責任者：佐竹暁子（九大）・谷内茂雄（総合地球環境学研究所）

自然・ヒト・社会のインタラクションを含むマクロスケールで生じる現象の理解に、生態学で得られた知見をどのように生かせるかを考えたい。議論の材料として土地利用の問題をとりあげる。

ヒトが目的に応じて土地を利用することで、森林、畑地、都市などが混在した特有の空間配置がえられる。土地の利用の仕方は生態系の物質循環や生物多様性に大きな影響を与えることから、土地利用は人間活動の生態系へのインパクトを評価するよい指標といえる。また、空中写真や衛星写真などの地図データの蓄積にともなった土地利用モデルの開発によって、人間活動のインパクトを土地利用の変化と結びつけることが可能になってきた。

本シンポジウムでは、工学、生態人類学、森林管理学、理論生態学の立場から土地利用の問題にアプローチする。国策や経済動向に左右されるヒトの行動に着目した分析をはじめに、伐採後の森林生態系の自然再生プロセス、さらに生態系を土地の状態とその変化としてとらえたランドスケープダイナミクスの話題を中心に、各分野での成果を関連づけ、新しい研究の方向性を探りたい。

プログラム：

エージェント概念による土地利用変化モデル

柴崎亮介（空間情報解析センター）

焼畑民の土地利用変化とその要因 エチオピアの事例を中心に

佐藤廉也（九大）

植物種多様性の評価から見た生態的森林管理

長池卓男（山梨県森林総合研究所）

空間生態学とランドスケープダイナミクス

巖佐 庸（九大）

人間の土地利用とその生物多様性への影響

谷内茂雄（総合地球環境学研究所）

企画シンポジウム 3月20日（木） 9:00～11:50 会場：202

S1-4 「森林衰退」とは何か？

企画責任者：小林 剛（香大・農）・中村克典（森総研・九州）・久米 篤（九大・農院）

「森林衰退」は生態学や環境科学とその関連分野における重要な研究対象となってきました。しかし、その現象の定義と研究アプローチ、そしてデータ解釈の仕方は分野や研究者の哲学あるいは研究機関などによって多岐にわたっており、情報が十分に整理されきっていないのが現状です。とくに、「森林衰退」という事象の時空間的な位置づけは、分野や研究者ごとの（無意識の）前提や対象とするスケールによって様々であるようです。本シンポジウムは野外で観察される「森林衰退」の認識の仕方と研究の取り組み方について、生態学的な観点から姿勢を整理し、提言をまとめることを目的とします。

以下のキーワードで総合討論を行います。「森林衰退」を定義できるか？、「樹木衰退」との違い、「森林衰退」の発生要因：要因間の相互作用と「主因」の整理、「森林衰退」と生態系の機能：物質・エネルギー循環、「森林衰退」の抑制技術：多様な価値観と共に

プログラム：

森林の植生動態と更新過程における「森林衰退」

井田秀行（信大・教育）

森林病虫害による森林衰退の現状

鎌田直人（金大院・自然）

樹木集団の長期モニタリングと生理・生化学的解析による「森林衰退」の解析

河野昭一（京大名誉教授）・加藤輝隆（富山医薬大・医）

コメンテータ：伊藤進一郎（三重大・生物資源）・矢原徹一（九大・理院）

企画シンポジウム 3月20日（木） 9:00～11:50 会場：300

S1-5 日本における湿地の保全生態学を振り返って

- ベー スラインはどこに、そして再生の方策は？ -

企画責任者：日鷹一雅（愛媛大学）・松田裕之（東京大学）

我が国は、昔から高温多湿なモンスーン気候が生み出した湿地の風土であった。現在では多く湿地が水田に形を変えたが、そのような二次的自然を含め、湿地生態系はかけがえのない自然の一つである。ラムサール条約以降、1990年代から我が国における湿地生態系の保全はその重要度を増し、生態学の応用場面として各方面から注目されている。このような視点から、自然湿地、水田、河川後背湿地など多様な湿地環境について、種生物学、個体群、群集、共生系など様々な視点から保全を意識して探求してきた研究者を一堂に集め、そもそも湿地保全のベースラインの生態系構造

はどんなものなのか？ また湿地の保全はどうあるべきか？ といった課題について、冬期湛水、中池見におけるミチゲーション、生態工学的な農村環境整備事業など具体的な保全現場の事例を交えながら議論を深めたい。

プログラム：

鳥類の生息地としての水田環境 - 特徴・問題点・活用 -

吉田保志子・藤岡正博（中央農業総合研究センター・鳥獣害研究室）

湿地の生物多様性の現状と保全の試み：水田とかかわりのある湿地を中心として

下田路子（東和科学）

止水性レッドリスト個体群から見た湿地生態系の現状と再生方法

日鷹一雅（愛媛大学農学部附属農場）

湿地における共生系の保全

角野康郎（神戸大理）

湿地生態系の多様性と再生の道を探る

松田裕之（東大海洋研）・波田善夫（岡山理大）

自然再生推進法と湿地生態系の保全

鷺谷いづみ（東大院農）

企画シンポジウム 3月20日（木） 9:00～11:50 会場：406

S1-6 地球生態系と生物地球化学

企画責任者：小島覚（東京女子大学）・佐竹研一（国立環境研究所）

近年、生物地球化学(Biogeochemistry)に対する関心が、さまざま所で高まっています。生物地球化学は、生態系の性格と挙動を、機軸となる物質の流れとして捉え、それを統合的に把握し説明するために、きわめて有効な概念と思われます。そのため生物地球化学的視点は、たとえば環境問題発生メカニズムを自然科学的に解明するさいに、効果的な手がかりを与えてくれるものと思われます。しかしこの概念のとらえ難さは、たとえば“生態系”と同様、それが大は地球全域から小は局地生態系にいたるまで異なる階位にまたがり得るものであること、そのために分野により、あるいは個人によって理解の仕方が大きく異なり、これがコミュニケーション・ギャップとなって、相互理解を妨げているところにあります。

このシンポジウムでは、まずはそれぞれの立場で“生物地球化学”をどのように考えているかというところから始まって、生物地球化学的手法で何が把握できるのか実践的な研究事例について討議し、生物地球化学は生態学の発展にどのように貢献できるか等について、関心のある皆さんとともに考えてみたいと思っています。

プログラム：

窒素循環・炭素循環から地球生態系を考える

八木一行（農業環境技術研究所）

カルシウム循環から地球生態系を考える

中野孝教（筑波大学地球科学系）

陸と海のエコトーン-干潟生態系の構造と機能から物質循環を考える

野原精一（国立環境研究所）

地球生態系研究と生物地球化学研究のリンク、その展望

佐竹研一（国立環境研究所）

企画シンポジウム 3月22日(土) 9:00~11:50 会場:大ホール

S3-1 門司・佐伯論文50周年:物質生産生態学の発展

企画責任者:寺島一郎(大阪大学)

門司と佐伯(1953)の論文「植物群落内の光環境およびその物質生産における意義」は、葉群の光合成生産の分野における記念碑的な論文である。門司と佐伯は、葉群を、一定の傾きをもつ小さな葉がランダムに配置したものとして捉え、葉面積指数、葉の傾き、葉群上部の光強度、個葉の光合成曲線から葉群の光合成生産を計算することに成功した。また、層別刈取法によって葉群の生産構造を解析した。

このシンポジウムは、この論文の出版50周年を記念して、この分野の発展をふりかえり将来を展望するものである。

なお、Farquhar教授の講演はAnnals of Botany Lectureである。(当初講演予定であったBaldocchi教授は、都合により来日不可能となりました。ご了承下さい。)

プログラム:

Overview of development of the Monsi-Saeki theory.

HIROSE, Tadaki (Tohoku University)

Analysis of competition and coexistence among plants with an individual-based photosynthesis model.

ANTEN, Niels P.R. (Utrecht University)

Construction and maintenance of optimum photosynthetic systems of a single leaf and a whole plant.

TERASHIMA, Ichiro (Osaka University)

Incorporating the effects of diffuse light in simple models of photosynthesis and evaporation: implications for a canopy and the globe.

FARQUHAR, Graham D. (Australian National University)

企画シンポジウム 3月22日(土) 9:00~11:50 会場:200

S3-2 長期モニタリングサイトと分子生態遺伝学:森林の遺伝的構造と動態

企画責任者:山本進一(名大院・生命農)・吉丸博志(森林総研・森林遺伝)

森林の更新メカニズムについて、1970年代後半からの世界的な森林動態研究により従来から考えられていたよりもはるかに複雑な更新メカニズムが存在することが明らかになってきた。一方、集団遺伝学の分野では、多くのDNAマーカーの利用により、種内の遺伝的多様性や集団内の遺伝的組成・構造の様相が分子レベルで解明できるようになってきた。このような進展は、森林の動態を個体レベルのデモグラフィとしてだけでなく、遺伝子レベルのデモグラフィとして捉える方向を可能にしつつある。

近年の進展が著しい分子生態学では、花粉飛散、交配、種子散布のプロセスなどがDNAマーカーの利用により詳細に研究されるようになってきたが、このような短期的な動態の蓄積としての長期的な森林の動態は、まだ分子生態学の成果や取り組みが不十分な分野として残されている。主要な森林タイプにおいてモニタリングされている長期プロットを研究サイトとして、短期・長期を織り交ぜながら、構成樹種個体群の遺伝的構造とその動態を解析しつつある研究の現状と課題について検討する。

プログラム:

長期モニタリングサイトの現状と分子生態遺伝学におけるメリット

山本進一(名大院・生命農)

ブナ林の構造と動態

西村尚之（佛教大・通信教育）

ブナの遺伝的構造と動態

山下飛鳥・宗原慶恵・戸丸信弘（名大院・生命農）

照葉樹林の構造と動態

三浦真弘（名大院・生命農）

照葉樹林の樹種における遺伝的構造と動態

吉丸博志・上野真義（森林総研・森林遺伝）・三浦真弘（名大院・生命農）

熱帯雨林の樹種における遺伝的構造と動態

小沼明弘（新潟大院・自然科学）

低頻度出現樹種における遺伝的構造と動態

井鷲裕司（広島大・総合科学）・金指達郎（森林総研・東北）・

川口英之（島根大・生物資源）・金子有子（琵琶湖研）・

崎尾均（埼玉県農林総合研究センター）・大住克博（森林総研・関西）

森林の空間パターンの時間発展を見たい - 群集及び遺伝 構造

島谷健一郎（統数研）

企画シンポジウム 3月22日（土） 9:00～11:50 会場：201

S3-3 内湾湿地(塩生草原・マングローブ林)の生物群集の構造と機能

企画責任者：和田恵次（奈良女子大）

沿岸の内湾・河口域に発達する塩生植物群落 温帯域の塩生草原と熱帯域のマングローブ林は、陸と海の狭間に位置し、陸と海の両方に由来する固有の生物群集を形作っている。この生物群集の成り立ちを、植物群落のもつ特性、立地条件としての特性、植物に依存する動物の特性と、これらの動物の植物との関係から明らかにすべく、植物の生産生態学、景観生態学、地形生態学、ベントス生態学の各方面からの演者の発表を集約させて論議する。本企画により、近年世界各地で破壊が進んでいるこの内湾湿地生態系の保全に寄与したい。

プログラム：

吉野川河口域の地形変動と植物群落の分布変動

鎌田磨人（徳島大学工学部）

カワザンショウガイ科巻貝の生息場所としてのヨシ湿地～空間利用と餌利用～

倉田健悟（島根大学汽水域研究センター）・

菊池永祐（東北大学東北アジア研究センター）

マングローブ林の現存量と一次生産過程

小見山章（岐阜大学農学部）

マングローブ立地の形成過程と地下部炭素蓄積機能

藤本 潔（南山大学総合政策学部）

棲み込み連鎖からみたマングローブ湿地の生物群集

西平守孝（東北大学大学院生命科学研究科）

シオマネキ類の生息がマングローブの生育に与える影響

和田恵次（奈良女子大学理学部）・

Anson H. Hines (Smithsonian Environmental Research Center) ・

SherryReed (Smithsonian Marine Station)

河口域における植物とカニ類の相互作用

大森浩二・柳雅之・堂浦旭（愛媛大学沿岸環境科学研究センター）

企画シンポジウム 3月22日(土) 9:00~11:50 会場:202

S3-4 どこまで解明されたか、水辺林の生態

企画責任者: 崎尾均(埼玉県農林総合研究センター)・山本福壽(鳥取大学農学部)

近年、開発や保全をめぐる生態学的に話題になっている水辺林の生態を取り上げる。河川や湿地に分布する水辺林は、生活史をとおして自然攪乱に適応して更新を行なっている。上流域では山腹からの崩壊や土石流、中・下流域では氾濫による流路変動など多様な種類・規模の攪乱が見られる。これらの攪乱によって様々な立地が生じたために、多くの生物種が進入することができる。また、水辺の樹木は、水辺域に特徴的な水分や土壌環境に形態的・生理的に適応している。不定根や萌芽の発生、幹の肥大などが特徴的である。これらの水辺林の生態について、溪畔林・河畔林・湿地林の更新機構や生物多様性について研究成果の報告を行なう。また、水辺林の中でも、特に生理生態的研究の進んでいる湿地林の樹木については、Memphis UniversityのPezeshki教授を招いて、講演を行なってもらう予定である。

プログラム:

溪畔林の生態

崎尾均(埼玉県農林総合研究センター森林支所)

河畔林の生態

新山馨(森林総合研究所)

湿地林の生態

富士田裕子(北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園)

水辺林の生物多様性

鈴木和次郎(森林総合研究所)

湿地林樹木の適応戦略

山本福壽(鳥取大学農学部)

湿地林樹木の生態生理

Pezeshki (Memphis University, USA)

企画シンポジウム 3月22日(土) 9:00~11:50 会場:300

S3-5 群集のプロセスを考慮した生態系管理

企画責任者: 石田 健(東京大学)・宮下直(東京大学)

生態系は、動的であり可塑性がある。自然環境管理に生物多様性保全が加わった社会的要請によって、生態学者がこれらつきつけられる根本的な課題は、生態系全体の動態予想と制御手法への提言、いわゆる、生態系管理である。希少種の保護と生物多様性保全、外来種駆除など、特定の種の駆除や個体群管理を行う必要性は行政においても認識され、実践もされつつある。こうしたキーストーン種・旗艦種・系外(外来)種などの個別の個体群管理にくらべて、生態系管理は着想段階であり、まだ明解な指針も実践例もないだろう。この課題にとって日本における顕著な例の1つとして、多くの固有種が生息し独特の生態系が進化している、南西諸島の奄美大島や沖縄島の森林がある。ここでも、20世紀後半の開発による森林の分断化と系外(外来)種の侵入とによって、固有生態系の保存は絶望的である。固有種の保護に取り組む研究者や活動家が集まりつつあり、マングースの駆除事業も実施されている。ここでも、生態系管理の方向性を明らかにし、固有生物群集の最大限の保存や回復を模索することが、生態学者の役割だろう。例えば、マングースの駆除は、別の系外種であるクマネズミの一時的、部分的な増加をもたらし、固有群集に負の効果(個体群密度低下)をもたらす恐れもあることが指摘され始めた。また、森林生態系の一次消費者や雑食者の動

態に大きな影響を与えると考えられる堅果類の豊凶がもたらす効果も考慮する必要がある。

私たちは、以下の視点からこの課題を原則から議論する。(1) マングースなどの外来種の侵入と増加、拡大防止および個体数抑制を緊急の行政課題としてとらえ、有効な駆除方針を探る。その場合、(2) 系外種を含む生物群集の構造(種間ネットワーク)を明らかにし、系外種の拡大および減少が、どのようなプロセスを経て奄美大島や沖縄島の固有生物相に影響を与えるかを把握する。(3) そのために必要なモニタリング体制を提案し、その必要性と実現可能性を検討する。総じて、理念としての生態系管理と緊急な行政課題としての個体群管理のあり方を突き合わせ、理論サイドと現場サイドとの融合を図る布石としたい。

プログラム：

趣旨説明：石田健(東京大学)

奄美大島の森林生態系と保全 - マングースをめぐる問題

山田文雄(森林総合研究所)・石田健

コメンテータ：杉村乾(森林総合研究所)

複数の外来種存在下での外来種問題：理論と実際

宮下直・前園泰徳(東京大学)・深見理(テネシー大)

コメンテータ：難波利幸(大阪女子大学)

総合討論コメンテータ：

石井信夫(自然環境研究センター):保全行政と生態学理論の応用可能性

松田裕之(東京大学):個体群管理と生態系管理の効能と限界

自由集会 3月20日(木) 18:00~20:00 会場:200

W1-1 Introgressive hybridization(浸透交雑)問題を考える -B. Rosemary Grantを囲んで-

企画責任者: 上田恵介(立教大学)・永田尚志(国立環境研)

B. Rosemary Grantは、Peter R. Grantとともに、ガラパゴス諸島において、ダーウィンフィンチの長期にわたる個体群研究を行って来た。かれらの研究は、邦訳『フィンチの嘴』で紹介されたように、環境変動がフィンチの形質を変化させる、目に見える進化の実例として、世界的にも大きな注目を集めている。今回、私たちは近縁種の侵入によるIntrogressive hibridazation (浸透交雑)問題についてのミーティングを企画した。Grantさんからは、ガラパゴスフィンチにおける浸透交雑の話題を提供していただき、日本でさまざまな動物で、浸透交雑問題を扱っている研究者からの話題提供を受ける。

Introgressive Hybridization in Darwin's Finches

B. Rosemary Grant

カワトンボ属近縁種間の多所的浸透交雑と生殖的隔離の強化

林文男(都立大・理・生物)

魚類の遺伝子浸透と生殖隔離

向井貴彦(東大新領域)

非対称な交雑を通じた魚種の置きかわり

北野 聡(長野県自然保護研究所)

自由集会 3月20日(木) 18:00~20:00 会場:201

W1-2 こんな法案つくってみました -生態学はどのように貢献できるのか-

企画責任者: 三橋弘宗(兵庫県立人と自然の博物館)・

坂田宏志(姫路工大/兵庫県立人と自然の博物館)

自然環境を保全するためには、法律によって保全の方針を保証する必要があります。どんなに優れた自然であっても、法としてその行為が規制されていないならば、自然の公益的機能を破壊しても罪には問われません。また、全国一律に人間の生産活動や開発に対する厳しい規制を設けるとすれば、社会的にも経済的にも著しい混乱を招くこととなります。このような状況のもとで、自然環境の保全と人間活動のコンフリクトを解消するためには、生態学の研究成果に基づいたルールを明文化し、このルールに沿って事業を実施する必要があります。この自由集会では、来るべき未来を想定した実験的な試みとして、仮想的に作成された法案の一部を二人の演者に発表してもらい、皆さんと検討したいと思います。

趣旨説明: 中越 信和(広島大学総合科学部)

『田園生態系保全法』日鷹 一雅(愛媛大学農学部)

代表質問: 三橋 弘宗(兵庫県立人と自然の博物館)

『野生動物の保護および個体数調整に関する法律』

坂田 宏志(姫工大/兵庫県立人と自然の博物館)

代表質問: 草刈 秀紀(WWF)

自由集会 3月20日(木) 18:00~20:00 会場:202

W1-3 動物行動映像の登録型データベースの構築をめざして

企画責任者:桑村 哲生(中京大学教養部)

おもしろい行動のビデオをお持ちの方はいらっしゃいませんか? 動物行動学会では動画デジタルアーカイブズの構築について検討を重ねてきた結果,学会横断的な管理運営組織を設けるべきだということになり,その準備委員会としてMOMO委員会(仮称)を発足させました。MOMOとは Make Our Movies Openの頭文字をとったものです。この自由集会では試験データベース(<http://zoo.zool.kyoto-u.ac.jp/ethol/>で試験運用中)の閲覧・登録方法をデモンストレーションし,より利用しやすいシステムに改良するため,みなさんのご意見をお聞きしたいと考えています。また,行動映像データベースの利用可能性についても議論します。たとえば生物教育においては,映像を見ることで理解が格段に促進されます。教科書では静止画しか利用できませんので,無償で利用できる行動映像動画データベースの利用価値は非常に高いと考えられます。すでに試験データベースの映像を用いた授業が実験的に行われており,その効果についても紹介していただく予定です。

動物行動映像の登録型データベースのデモンストレーション

藪田慎司(帝京科学大学)・中田兼介(長崎総合科学大学)

総合討論:コメンテーター:中嶋康裕(宮城大学)ほか

自由集会 3月20日(木) 18:00~20:00 会場:300

W1-4 2000年噴火後の三宅島の生態系

企画責任者:樋口広芳(東大・農学生命)・上條隆志(筑波大・農林)

三宅島は2000年7~8月に大噴火した。また,9月以降は大量の火山ガスを放出し続け,生態系に大きな影響を与えている。本自由集会では,噴火後の三宅島で行われている研究成果を,幅広い分野から紹介して頂くとともに,大スケールでの島生態系の破壊と回復,島生態系の保全について論議する場を設けることを目的とする。

2000年噴火後の三宅島の生態系に関する現況調査について

樋口広芳(東大・農・生物多様性)

噴火が三宅島の植生に与えている影響と植生復元に向けた課題

上條隆志(筑波大・農林)・山西亜希・恒川篤史(東大・農・緑地創成)

2000年噴火後の三宅島の鳥類群集

加藤和弘(東大・農・緑地植物実験所)・樋口広芳(東大・農・生物多様性)

三宅島2000年噴火が生成年代の異なる土壌に与えた影響

加藤 拓(筑波大・生命環境)・田村憲司・東 照雄(筑波大・応用生物)

自由集会 3月20日(木) 18:00~20:00 会場:303

W1-5 Matter Flow and Ecosystems ~物質循環の遷移を考える~

企画責任者:鞠子 茂(筑波大・生物科学系)

Matter Flow and Ecosystemsが今回取り上げるテーマは「物質循環の遷移を考える」です。物質循環研究が対象としてきた生態系は様々なものがあります。研究サイトとしての生態系は、アカマツ林、ススキ草原など優占種別に分類され、いろいろな目的で別個に研究がなされてきました。従来の研究サイトを統合すれば、多様かつ異なる空間での生態系機能の変異を評価することはできますが、時間的变化、すなわち遷移に伴う生態系機能の変異を評価するのは困難な状況です。しかし、最近の研究の動向の一つとして、生態系の時間変化に伴う物質循環機能の変化を明らかにしようとする傾向があり、今後の物質循環研究の発展のためには、遷移に伴う物質循環機能の変化について研究していくことが求められます。そこで、遷移をキーワードにして研究を行っている3人の研究者に以下のような話題を提供していただき、遷移と物質循環に関する研究の展望について議論したいと思います。

遷移の生態学

林 一六(筑波大学・生物科学系)

遷移に伴う炭素循環機能の変化 ~研究の新しい方向性~

大塚俊之(山梨環境科学研究所)

分解者の遷移 ~菌類を例として~

徳増征二(筑波大学・生物科学系)

自由集会 3月20日(木) 18:00~20:00 会場:304

W1-6 Soil Ecology: 土壌のキーストン種3 - ミミズの生活史と生態系機能

企画責任者:金子信博・伊藤雅道(横浜国大)

土壌生態系のキーストン種である大型ミミズ, とくにフトミミズ類の生活史および生活型に関する最新情報の提供と, 安定同位体を用いた食性解析研究の紹介を行い, 生活型の生態学的意味とともに日本のミミズファウナの進化史的把握を試みる.

日本産ミミズの生活型と安定同位体比

内田智子(横浜国大)

ヤンバルオオフトミミズの生活史(仮題)

二神和靖・佐々木健志(琉球大)

土壌動物の存在が作物(植物)の窒素同位体比に与える影響(仮題)

藤田正雄(自然農法国際研究開発センター)

フトミミズ類の系統分類と生活型の進化を繋ぐ

伊藤雅道(横浜国大)

コメンテーター

陀安一郎(総合地球環境学研究所), Rob Blakemore(杏林大学)

自由集会 3月20日(木) 18:00~20:00 会場: 405

W1-7 四次元の生態学: 火はどのように植生を変えるのか?

企画責任: 高原 光(京都府大院・農)・佐々木尚子(京大院・農)

「火」は植生に影響を与える攪乱要因のひとつであり、たとえば北米では、生態系を維持する機構の重要な要素として位置づけられている。この「火」と植生との関係について、日本ではこれまで、100年以内の比較的短い時間スケールでの研究がすすめられてきた。また、100年 - 1000年の長い時間スケールでは、堆積物中に含まれる炭化片の量と植生との関係について、研究がすすめられつつある。この集会では、「火は植生をどう変えるのか?」をテーマに、異なった時間・空間スケールでの研究成果について話題提供していただき、「火」に対する植生の応答を、異なる時間スケールでとらえると何がみえてくるのか? という、分野を越えた議論の場をつくりたい。

炭からわかる火と植生の歴史 - 堆積物中の微粒炭分析による

小椋 純一(京都精華大・人文)

火事跡における植生の回復過程

津田 智(岐阜大・流域圏科学研究センター)

自由集会 3月20日(木) 18:00~20:00 会場: 406

W1-8 群落談話会: 河川の自然再生 - 河川水辺の国勢調査を如何に生かすか -

企画責任者: 武田義明(神戸大学発達科学部)

国土交通省の環境を内部目的化する施策が平成9年にスタートし、「多自然型川づくり」他多数の環境関連の事業が進められてきており、今日の「自然再生事業」に受け継がれている。こうした事業を進める上で不可欠な、環境情報を得る目的で「河川水辺の国勢調査」が進められてきている。調査はすでに10年以上の年月と2巡目、3巡目の調査に入っている。自然の再生が公共事業として動く今日、我々研究者および事業者共に自然再生のあるべき姿を議論したい。

話題提供

河川水辺の国勢調査の目的

奥田 重俊(横浜国立大学名誉教授)

河川水辺の国勢調査調査データを検証す

佐々木 寧(埼玉大学工学部)

河川の環境整備における活用事例

赤松弘治((株)里と水辺研究所)

四国での河川水辺の国勢調査の活用について

吉成隆二(四国地方整備局河川部河川工事課)

自由集会 3月22日(土) 18:00~20:00 会場:200

W3-1 データ解析の落とし穴、穴から脱出する計算機ワザ

企画責任者: 粕谷英一(九州大)・久保拓弥(北海道大)

野外調査や実験で得られた生態学的データを統計学的手段で解析するときに、多数の落とし穴がそこにもここにもあなたを待っている。まず粕谷が、変数変換とその周辺にひそむ落とし穴について説明する。分散が一定でないデータに適当な変数変換をほどこした後で分散分析や重回帰を行うというのはよくあるデータ解析の流れである。だが、変換した後のデータを使った分析結果がもとのデータについて語るのは何だろうか。変数変換したデータに重回帰やいくらか複雑な分散分析を適用したときに起こる誤りを検討し、誤りを避ける手段をさぐる。つぎに久保が統計学的まじがいを自力で発見する方法論のひとつとして、ランダム標本集団を「飼い慣らす」計算機ワザの基礎を紹介したい。簡単なプログラミングによって生成した乱数セットには多くの利用価値があるだけでなく、統計学さまざまな基本概念への「親しみ」わいてくる効果も指摘したい。

(この自由集会の最新情報 <http://hosho.ees.hokudai.ac.jp/~kubo/ce/2003/>)

変数変換の落とし穴

粕谷英一(九州大)

計算機実験用ランダム標本集団の飼い方・しつけ方

久保拓弥(北海道大)

自由集会 3月22日(土) 18:00~20:00 会場:201

W3-2 植物の生理生態: 生理生態学における遺伝情報や分子生物学の手法の活用

企画責任者: 小林剛(香大・農)・村岡裕由(岐大・流域圏)・種子田春彦(東大・理・日光)

近年の生態学において、植物の形態や機能に中立な分子マーカーを活用したアプローチが飛躍的に発展してきている。これに対し、植物の生理生化学といった分野や、作物の育種や雑草の防除の現場においては、植物の表現型や環境応答性を直接決定する遺伝子の探求や操作が、極めて盛んに行われている。最近の系統分類学や分子生態学においても、植物の機能に関わるマーカーを開発・活用しようとする研究例が増加しつつある。生理生態学においても、野生植物の特定の機能を分子レベルで識別および実験的に制御すれば、野外の変動環境下における集団~群集構造の決定機構、植物種の分化、物質循環のメカニズムなどが、劇的に明確になるかもしれない。今回の集会では、様々な視点でデータを集めてきている研究者から、遺伝情報や分子生物学の手法の活用について、今後の植物の生理生態学への期待と可能性、そして問題点を交えて話題を提供していただく。

DNAマーカーを用いた農業生態系構成種の動態解明: 除草剤抵抗性雑草の発生と拡散
芝池博幸(農環研)

分子遺伝学的手法と集団生物学における問題設定

工藤洋(神戸大・理・生物)

生理生態学における分子機能解析の手法の導入と研究展開

半場祐子(岡大・資生研)

自由集会 3月22日(土) 18:00~20:00 会場:202

W3-3 行列のできるIBM相談所

企画責任者:鈴木ゆかり・中道康文(筑波大・生命環境)・徳永幸彦(筑波大・生物科学)

生態学分野でも様々なIndividual-Based Model (IBM)が提出され、IBMが広く認められるようになりました。しかし今でも、IBMを用いるべき問題なのに用いられなかったり、逆にIBMにする必要のないモデルにIBMを用いられることもしばしば見られます。また、自分の研究にIBMを用いるべきかどうか、迷っている研究者もいるはずで

そこで今回の自由集会では、発表を最小限にとどめ、IBMに精通された先生方をパネリストとしてお招きし、会場の皆さんからIBMに関するご相談を受け付けます。もしあなたがお相談された場合、それに対して、パネリストの先生方から、IBMにすべきか、すべきでないかのアドバイスがいただけます。そして、それらご相談を元に、IBMにすべきモデルとすべきでないモデルについて、会場の皆さんとともに議論していきたいと考えています。

パネリスト:

- 嶋田正和(東京大学大学院・総合文化研究科・広域システム科学系)
- 高須夫悟(奈良女子大学・理学部・情報科学科)
- 藤田 剛(東京大学大学院・農学生命環境科学研究科)
- 徳永幸彦(筑波大学・生物科学系)

自由集会 3月22日(土) 18:00~20:00 会場:300

W3-4 保全生態学研究会自由集会:「自然再生」を支える保全生態学の理論と技術

企画責任者:鷺谷いづみ(東京大院・農学生命)・矢原徹一(九州大・理)

2002年秋の臨時国会で「自然再生推進法」が成立した。この法律では、自然再生事業は、「自然再生に関し専門的知識を有する者」が多様な主体と連携して「地域における自然環境の特性、自然の復元力及び生態系の微妙な均衡を踏まえて、かつ科学的知見に基づいて実施される」ものであり、「着手後においても自然再生の状況を監視し、その監視の結果に科学的な評価を加え、これを当該自然再生事業に反映させる」順応的な手法です。今後、保全生態学が自然再生事業で果たす役割はきわめて大きいものとなるであろう。

今回の自由集会においては、政策あるいは事業としての「自然再生」に保全生態学がどう係わるべきかを考えると同時に、多くの事業で実際的課題となるであろう「植生復元」に関し、保全生態学の基本的な考え方や原理をどのように計画や現場での技術に活かしていくべきかを、具体的な実践例を取り上げて考えてみたい。

自然再生事業と保全生態学

鷺谷いづみ

土壌シードバンクから湖岸植生を蘇らせる

西廣淳

自然はどうすれば再生できるのか - 里山を蘇らせるための理論・技術・人づくり

矢原徹一

自由集会 3月22日(土) 18:00~20:00 会場:303

W3-5 第8回植生地理学の視点:照葉樹林の分布限界をさぐる

企画者 磯谷達宏(国土館大・地理)・星野義延(農工大・地域生態システム)

この集会は、照葉樹林の分布限界域における森林分布の実態および個体群・群落の動態に関する知見をもとに、照葉樹林の分布限界についての理解を深めることを目的として行います。異なる植生帯間の境界域における植生の実態を明らかにすることは、植生地理学の重要な課題の一つです。人為的変化が進んでいるとはいえ、日本は照葉樹林帯と夏緑広葉樹林帯との境界を研究するのに好適な地域といえるでしょう。今回は、照葉樹林の水平分布のうち太平洋側の北限域での研究成果を提示していただき、このような課題への理解を深めていきたいと考えています。

趣旨説明

磯谷達宏(国土館大・地理)

水平分布北限域における暖温帯常緑植物の生育状況:マルチ・スケール解析から得られた2・3の知見

平吹喜彦(宮城教育大学)

シイ・カシ林分布北限域における群落構造と主要樹種稚樹個体群の動態

山下寿之(富山県中央植物園)

自由集会 3月22日(土) 18:00~20:00 会場:304

W3-6 ダム下流の河川環境回復をめざして 文理融合の視点から

企画責任者:洲崎 燈子(豊田市矢作川研究所)

愛知県の中央部を流下する矢作川は古くから流域の水利用に大きく貢献するとともに、漁業、舟運といった産業の場でもあった。しかし高度経済成長期の水質汚濁の時代を経て流域住民の生活から遠ざかり、河川水や砂利が過度に利用されるようになった。本流に矢作ダムをはじめ7つのダムを抱える現在、矢作川は河川流量の減少、氾濫の減少と規模の縮小、土砂の流下阻害による河床の低下や固化といったさまざまな問題に直面している。これらの現象は魚類の生息環境の悪化や、カワシオグサのような大型糸状藻類の繁茂といった、河川生態系のアンバランスにつながっていると考えられる。

そこでこれらの現象が顕著にみられる中流部、豊田市の古峯(ふっそ)水辺公園周辺を中心に、豊田市矢作川研究所が中心となって、水中・河畔の物理的環境と動植物の生態を対象とした研究を行い、ダム直下における河川生態系のバランス悪化のメカニズムを把握するとともに、川をめぐる流域住民の生活の変化を調べ、河川利用のあり方について検討する学際的総合研究を試みた。ここではその成果の一端を紹介したい。

自由集会 3月22日(土) 18:00~20:00 会場:402

W3-7 新しい生命共同体思想を求めて

- 新今西進化論とネオダ - ウィニズムとの対話

企画責任者:水幡正蔵(在野の研究者)

『新今西進化論《種社会選択による種社会の分岐》』(水幡正蔵著 発売星雲社)は、今西没後10年の西暦2002年6月に刊行された。これは従来の今西進化論に欠落していた進化メカニズム論を“種社会選択”という種社会(部分種社会)単位の配偶者選択で表した。種社会(すなわち種社会選択)の起原については、カンブリア大爆発における脳を持つ動物の出現に明確に設定した。さらには今西が“個体の生長に対比されるべき進化”とした種の進化の道筋についても、“種社会生態史”という新たな命名を行った。あらゆる種(種社会生態史)の起原は最初の生命誕生にあり、現生種について言えば、それぞれ38億年の“種社会生態史”を歩んできたを表す。これは“種の起原”を事実上“種分岐点”とし、生命進化を自然選択で説明してきた現代進化論(ネオダ - ウィニズム)とは大きく異なる。水幡は『新今西進化論』刊行後、矢原徹一氏(日本進化学会会長)や岸由二氏ら現代進化論者とメ - ル論争を重ね、その進化理論としての合理性を比較検討してきた。今西没後、今西進化論を継承する研究者はほとんど存在せず、新今西進化論を打ち出すにもネオダ - ウィニズムとの対話は避けては通れない。この自由集会ではネオダ - ウィニズムとの対話(対照)を通して、新今西進化論という新しいパラダイムを議論したい。

自由集会 3月22日(土) 18:00~20:00 会場:405

W3-8 大台ヶ原における生物間相互作用ネットワークと ニホンジカの個体数管理

企画責任者:日野輝明(森林総研・関西)

大台ヶ原では、ニホンジカによる樹木実生や樹皮の採食によって、森林生態系の存続が危ぶまれている。私たちは、森林内にニホンジカとミヤコザサなどの除去実験区を設営し、植生、動物相、土壌の性質等の定量的なモニタリング調査を、6年間にわたって行ってきた。自由集会では、成果を報告するとともに、それをもとに大台ヶ原の森林生態系における生物多様性を最大にするための、シカの個体数管理方法について議論したい。

ニホンジカとミヤコザサが樹木実生の生存に及ぼす影響

伊東宏樹(森林総研・関西)

ニホンジカとミヤコザサが中型土壌動物群集に与える影響

伊藤雅道(横浜国大・環境情報)

ニホンジカとミヤコザサが林床の節足動物群集に与える影響

上田明良(森林総研・関西)

ニホンジカとミヤコザサが鳥群集に与える影響

日野輝明(森林総研・関西)

森林におけるミヤコザサ?ニホンジカ?土壌間の窒素循環モデル

古澤仁美(森林総研・関西)

生物間相互作用ネットワークに基づくニホンジカの適正密度

日野輝明(森林総研・関西)

自由集会 3月22日(土) 18:00~20:00 会場:406

W3-9 水田生物多様性ホットスポットを保全・再生する方法を探る： アグロエコロジー研究会第6弾

企画責任者：日鷹一雅（愛媛大・農・附属農場）

自然再生推進法は、農水省関連事業においても適用され、水田などの生物多様性の保全においても事業が始まると思われる。本集会では、水田を中心とした農村環境の生物多様性ホットスポットの保全を追求する立場から、どのような環境を保全し、また再生のあり方はどうしたらよいかについて、忌憚のない議論を行う。そこで、水田農村集落における動物・植物の生物多様性保全に関わり、環境創造的手法（ピオトープなどのミチゲーション）、鳥瞰図的手法（GIS、景観生態学など）あるいはそれらの総合的手法といった多様な試みを研究・実践してきた演者に参集を願った。

演者（予定）：

中山間地の水田畦畔からみたホットスポット環境 渡辺 修（近中四農研セ）

湿田環境の重要性とそのGISによる探索 嶺田拓也（農工研）

条件不利農地、棚田はなぜ重要なのか？ 三橋弘宗（兵庫人と自然博）・日鷹一雅（愛媛大・農・農場）

放棄田ピオトープによるカエル類、水生昆虫類の保全・再生 市川憲平（姫路市立水族館）

コメント：鎌田磨人（徳島大工学部）景観生態学からみた水田農村集落の保全

討論司会：日鷹一雅（愛媛大・農・附属農場）

自由集会 3月23日(日) 19:30~22:00 別会場

W4-1 フェノロジー研究会「芽ばえのナチュラルヒストリー」

企画責任者：大野啓一（千葉県立中央博物館）

場所：筑波研修センター第二研修室（つくば市天久保1-13-5 Tel. 0298-51-5152）つくばセンターより
バス約5分または徒歩約20分（地図等は適当な場所に掲示予定）

芽ばえ（実生）は、種の生活史や植生の動態を探る上で重要であるが、その形態や分類、および生態についてはまだ断片的にしか知られていない。芽ばえは、親植物にはない（発芽や子葉関係）、あるいは親植物とは異なる（葉序、葉形、伸長パターンなど）諸特性をもつなど、それ自体も興味深い研究対象である。今回は、さまざまな種の芽ばえを詳細に観察されてきたお二人に話題提供をいただき、芽ばえを観察し識別する視座を学ぶとともに、これまで不十分であった芽ばえに関するコミュニケーションを活性化するきっかけとしたい。

芽ばえの観察から---樹木の生活型との関連やトピックスなど

八田洋章（国立科学博物館・筑波実験植物園）

樹木の実生形態にみる多様性

山中典和（鳥取大・乾燥地研究センター）

終了後に簡単な懇親会、翌日は近くの国立科学博物館筑波実験植物園にて八田さん御案内による樹木の観察会を行なう予定です。会場の筑波研修センターでの宿泊もできます（二食付き約5500円、但し先着20名まで）。宿泊を御希望の方は下記へハガキ、Fax、E-mailのいずれかにてお申し込みください。会員外の参加も歓迎します。申込期限は2月末日としますが、その後も受け付ける場合もあるのでお問い合わせください。

申込先：大野啓一（〒260-8682 千葉県立中央博物館；Fax. 043-266-2481；e-mail: oonok@chiba-muse.or.jp）

ポスター発表 分野一覧

・ポスターの合計数が1日約270件にもなりますので、効率的に回る参考までに分野別のポスター番号表を作成しました。3日間、だいたい同じ場所に同じ分野のポスターが配置されます。

A会場	3月20日(木)	3月21日(金)	3月22日(土)
生物地理学	PA1-001 ~ 009	PA2-001 ~ 003	
種分化・系統進化	PA1-010 ~ 013	PA2-004 ~ 014	PA3-001 ~ 013
数理生態学	PA1-014 ~ 024	PA2-015 ~ 023	PA3-014 ~ 025
植物の個体群生態学	PA1-026 ~ 035	PA2-025 ~ 031	PA3-027 ~ 034
植物の遺伝構造・変異	PA1-036 ~ 050		PA3-035 ~ 050
植物の生活史戦略	PA1-051 ~ 064	PA2-032 ~ 064	PA3-051 ~ 065
植物の生理生態	PA1-065 ~ 078	PA2-065 ~ 079	PA3-066 ~ 087
植物と動物の相互関係 - 送粉	PA1-080 ~ 093		
植物と動物の相互関係 - 捕食・被食関係		PA2-081 ~ 097	
植物と動物の相互関係 - 種子散布			PA3-089 ~ 095
動物の生息地選択・移動分散	PA1-095 ~ 103	PA2-099 ~ 104	PA3-097 ~ 104
動物の個体群動態	PA1-104 ~ 111	PA2-105 ~ 112	PA3-105 ~ 110
動物の遺伝構造・変異	PA1-112 ~ 117	PA2-113 ~ 116	PA3-111 ~ 114
動物の生活史戦略	PA1-118 ~ 122	PA2-117 ~ 125	PA3-115 ~ 118
動物の採食・捕食回避	PA1-123 ~ 131	PA2-126 ~ 133	PA3-119 ~ 128
動物の繁殖生態・行動	PA1-132 ~ 137	PA2-134 ~ 140	PA3-129 ~ 140

B会場	3月20日(木)	3月21日(金)	3月22日(土)
生産生態学			PB3-001 ~ 010
環境汚染・富栄養化	PB1-001 ~ 007	PB2-001 ~ 004	
物質循環	PB1-008 ~ 034	PB2-005 ~ 020	PB3-011 ~ 020
物質循環 - 分解		PB2-021 ~ 029	PB3-021 ~ 034
植物群集・群落 - 植生解析・温暖化		PB2-031 ~ 041	
植物群集・群落 - 種間関係・種多様性			PB3-036 ~ 049
植物群集・群落 - 草原・湿地・水系	PB1-036 ~ 042	PB2-042 ~ 050	
植物群集・群落 - 自然攪乱・人為的影響	PB1-043 ~ 055	PB2-051 ~ 056	PB3-050 ~ 061
植物群集・群落 - 森林	PB1-056 ~ 068	PB2-057 ~ 065	PB3-062 ~ 074
動物群集	PB1-070 ~ 083	PB2-067 ~ 095	PB3-076 ~ 088
動物群集 - 種間関係	PB1-084 ~ 100	PB2-096 ~ 105	
動物群集 - 食物網			PB3-089 ~ 099
景観生態学・生物多様性	PB1-102 ~ 109	PB2-107 ~ 120	PB3-100 ~ 116
保全戦略・政策			PB3-117 ~ 120
保全生態学 - 希少種	PB1-110 ~ 117	PB2-121 ~ 124	PB3-121 ~ 126
保全生態学 - 移入種	PB1-118 ~ 130	PB2-125 ~ 130	PB3-127 ~ 130

ポスター賞についてのお知らせ

今大会ではポスター賞は設けませんでした。仙台大会でのポスター賞制度への評価はかなり大きかったのですが、今回は一般発表がすべてポスター発表なので、選考の時間がとても足りないと判断しました。この点は全国委員会です承されていますが、今大会の特別な処置であるにご理解下さい。

【生物地理学】	
PA1-001	北上山地に分布するアオモリトドマツ林の成立時期 - 青松葉山について - 池田重人・志知幸治(森林総研・東北)・大丸裕武(森林総研・九州)
PA1-002	照葉樹は最終氷期の古隠岐半島に残っていたか? 高原光・谷田恭子(京都府大院・農)
PA1-003	高知平野伊達野周辺における最終氷期の植生 牧野真人・高原光(京都府大院・農)
PA1-004	丹波山地蛇ヶ池周辺における植生配置の復元: 大型植物遺体と化石花粉による検討 佐々木 尚子(京大院・農)・高原光(京都府大院・農)
PA1-005	大型植物化石からみたネパール・カトマンズ盆地の第四紀古植生, フロラ変遷 百原 新(千葉大・園芸)
PA1-006	大型植物遺体分析から復元した人為攪乱後の植生と立地の変遷 - スウェーデン南部ヨーロッパブナ - ドイツウヒ混交林での事例 - 那須浩郎(総研大・国際日本研究)・Hannon, G.E.(Southern Swedish Foret Research Center)・Bradshaw, R.H.W.(Geological Survey of Denmark & Greenland)・Brunet, J.(Southern Swedish Foret Research Center)・Berglund, B.E.(Lund University)
PA1-007	富士北麓剣丸尾溶岩流上のアカマツ林の起源 大塚俊之・後藤巖寛・杉田幹夫(山梨県環境研)・中島崇文(山梨県吉田林務環境部)・池口仁(山梨県環境研)
PA1-008	火砕流に覆われた埋没林の年輪解析による生態復元 木村勝彦(福島大・教育)
PA1-009	燃焼温度の違いによる微粒炭の形態変化について 小椋純一(京都精華大)
【種分化・系統進化】	
PA1-010	キスゲ・ハマカンゾウ間における生殖隔離の強化: 交配実験による検討 安元暁子・矢原徹一(九州大院・理)
PA1-011	チガヤ2種の共存地域での強い交配隔離と共存辺縁部での交雑帯形成 水口亜樹・西脇亜也(宮崎大・農)
PA1-012	房総低山地におけるミツバツツジとキヨスミツツツジ間の種間交雑実態 上地智子(千葉大院・自然科学)・野村昌史・小林達明(千葉大・園芸)
PA1-013	雑種タンポポの生態的特性の比較 保谷 彰彦(東大院・広域システム)・芝池 博幸(農環研)・森田 竜義(新潟大・教育)・伊藤 元己(東大院・広域システム)
【数理生態学】	
PA1-014	光を巡る競争がもたらす最適成長戦略: 高く伸びるか? 横に広がるか? 大神智子(九大・理)・向草世香・佐々木 顕(九大院・理)
PA1-015	<i>Shorea laxa</i> の葉柄位置の数理モデル - 木は姉妹を助けるか? - 土用香奈子(株オムロンソフトウエア), 棚橋三起・高橋智(奈良女子大・人間文化), 山倉拓夫(大阪市立大・理)
PA1-016	季節的変動環境下における葉寿命の数理的解析 高田壮則(北海道東海大・国際文化)・菊澤喜八郎(京大・農)・藤田昇(京大・生態学センター)
PA1-017	種子の大きさと数のトレードオフ: ウバユリを用いた, Sakai and Harada (2001) モデルの検証 酒井聡樹・酒井暁子(東北大・生命科学)
PA1-018	対植食者防御としての植物の資源配分戦略の理論的考察 中村 優介・山村 則男(京大・生態学研究センター)
PA1-019	個体群における花の分布と進化的に安定な性配分の関係 江副 日出夫・鷲頭 奈美(大阪女子大・理)
PA1-020	完全世代重複モデルによる性比進化の解明 佐藤幸恵(北大・農)・高田壮則(北海道東海大・国際文化)・齋藤裕(北大・農)
PA1-021	出会い確率による1対1性比の進化 雨甲斐広康・盛岡研志(静大・理工研)・河合孝尚(静大・情報学)・泰中啓一・吉村仁(静大・工)
PA1-022	不確実な危険への対処: 防御遺伝子発現の最適決定 首藤絵美・巖佐庸(九州大・理)
PA1-023	ランダムパッチ環境における侵入生物の伝播速度 杵崎のり子(奈良女子大院・人間文化)・川崎廣吉(同志社大・工)・高須夫悟・重定南奈子(奈良女子大・理)
PA1-024	茨城県におけるマツ枯れの飛び火的伝播に関する数理的研究 三村幸枝(奈良女子大院・人間文化)・川崎廣吉(同志社大学・理工)・高須夫悟・重定南奈子(奈良女子大・理)
【植物の個体群生態学】	
PA1-026	北海道東部の海草2種 (<i>Zostera asiatica</i> and <i>Zostera marina</i>) の地下部と分布上限渡辺雅子(北大・フィールド科学セ・厚岸臨海実験所)・仲岡雅裕(千葉大院・自然科学)・向井宏(北大・フィールド科学セ・厚岸臨海実験所)
PA1-027	汽水域の海草コアマモの成長に対する塩分, 光, 水温の影響 國井秀伸(島根大・汽水域研究センター)
PA1-028	マヤブシ (<i>Sonneratia alba</i>) の栄養繁殖によるマングローブ林の海側への拡張 石原修一(横国大院・環境情報)・田淵隆一(森林総研・多摩森林科学園)・菊池多賀夫(横国大院・環境情報)
PA1-029	塩性湿地の植物オオクグの繁殖生態 荒木 悟・國井 秀伸(島根大・汽水域研究センター)
PA1-030	海浜植生コウボウムギの長期的動態解析 - 移植株の平面的拡大と老化による衰退 - 渡辺 肇(埼玉大院・理工)・城野裕介・田中規夫・谷本勝利(埼玉大・工)
PA1-031	大型葉溪畔植物オタカラコウの成立水環境 椎木菜穂子・千葉賢史・堀 良通(茨大・理・生態)
PA1-032	個体レベルからみた採草用牧草におけるアカクローバ個体群の持続性 平田聡之(北大・北方生物圏フィールド科学センター)
PA1-033	ユキワリソウのシードバンク動態 - 湿原と草原の比較 - 下野綾子・鷲谷いづみ(東大・生圏)
PA1-034	ミクラザサー齊開花枯死後5年目の個体群の回復; 稈と地下茎の発達過程による評価 小林幹夫(宇都宮大・農)
PA1-035	多年生溪畔草本ヤマタイミンガサの個体群構造と動態 富松 元・堀 良通(茨城大・理)
【植物個体群の遺伝構造・変異】	
PA1-036	日本各地に侵入したコカナダモにみられる多様性 富田千賀子(宇都宮大院・農)・矢部徹(国立環境研)・田中法生(国立科学博物館筑波実験植物園)・玉置雅紀(国立環境研)・高寺智之・翠川葉子(帝京大・理工)

PA1-037 ~ 070 ポスター発表 3月20日(木) A会場

PA1-037	水生植物タヌキモ類の遺伝解析 亀山慶晃(北大・地球環境), 井鷲裕司(広島大・総合科学), 外山雅寛(北海道, 江別市), 金子有子(琵琶湖研究所), 大原 雅(北大・地球環境)	PA1-052	ヨシ (<i>Phragmites australis</i>) の地下部における物質貯蔵特性に関する研究 佐原 範也(埼玉大院・理工)
PA1-038	異型花柱性植物ガガブタにおける集団の花型構成と遺伝的構造 柴山弓季(神戸大院・自然科学) 角野康郎(神戸大・遺伝子実験センター)	PA1-053	100平方メートル調査区における竹林の地下部構造 河合洋人・西條好迪(岐阜大・流域圏科学研究センター)
PA1-039	絶滅危惧種アサザのマイクロサテライトマーカーの開発とその多型性 上杉龍士(東京大学・農)・谷尚樹・津村義彦(森林総研)・五箇公一(国立環境研)・西廣淳・鷲谷いづみ(東京大学・農)	PA1-054	カタクリのデンプン 可溶性糖利用の季節変化 荒木希和子・籠谷泰行・野間直彦・荻野和彦(滋賀県立大・環境科学)
PA1-040	ハナミョウガ属のheterodichogamy集団とprotandry集団 小林史郎(九州大院・理)	PA1-055	光環境の変化に対する林床性高茎草本植物の成長応答 谷友和・工藤 岳(北海道大学・地球環境)
PA1-041	オオバナノエンレイソウにおける交配様式の地理的分化と繁殖の保証・自殖率・近交弱勢の推定 竹中 宏平・富松 裕・大原 雅(北大院・地球環境)	PA1-056	ヒノキ林床に生育する樹木の葉群配置パターン -3次元座標に基づくクラスタ解析- 長谷川 成明・河村耕史・長 美智子・武田 博清(京都大・農)・城田 徹央(九州大・熱農研セ)
PA1-042	マイクロサテライトマーカーを用いたマムシグサの送粉様式の解析 -肉穂花序における種子の花粉親の空間分布パターン- 西沢 徹(金沢大院・自然科学), 綿野 泰行(千葉大・理)・河原 孝行(森林総研・北海道)・木下 栄一郎(金沢大・植物園)・植田 邦彦(金沢大院・自然科学)	PA1-057	イタヤカエドとミズナラの実生の生育特性 加藤京子(北大・低温研)・植村 滋(北大・フィールド科セ)・原 登志彦(北大・低温研)
PA1-043	群馬県鳴神山の残存個体群におけるカッコソウの遺伝的多様性 大谷雅人(東大院・農学生命)・上野真義(森林総研)・寺内浩(桐生市)・西廣淳(東大院・農学生命)・津村義彦(森林総研)・鷲谷いづみ(東大院・農学生命)	PA1-058	ブナ科常緑広葉樹2種の稚樹段階における成長様式 長 美智子・武田博清(京大・農)
PA1-044	開花フェノロジーが異なる高山性カタクリ(<i>Erythronium grandiflorum</i>)集団の遺伝的分化 山岸洋貴(北大・地球環境) T.D.Allison (Audubon Society)・大原雅(北大・地球環境)	PA1-059	ウダイカンバ, ミズナラ, トドマツ3種間における植栽密度の違いによる樹高成長の変化 森山輝久・渡邊定元(立正大・地球環境)
PA1-045	日本全国のサクラソウ集団の系統地理学的研究 -葉緑体DNA変異と核DNA変異をもとに- 本城正憲(筑波大・生命環境科学) 上野真義・津村義彦(森林総研) 鷲谷いづみ(東大・農学生命) 大澤良(筑波大・農林)	PA1-060	異なる地下部温度で生育したニホンカラマツとグイマツ雑種F1メバエの成長 曲 来葉・大崎 満(北大院・農)・アリ・クオレシ・笹 賀一郎・小池孝良(北大・生物圏セ)
PA1-046	植物個体群の空間構造を決めるもの サクラソウにおける種子分散とセーフサイトの時空間分布 安島美穂・鷲谷いづみ(東京大学・農学生命)	PA1-061	コナラ樹冠におけるクラスター構造の生成 隅田明洋(北大・低温研)・高井優理(岐阜大・農)
PA1-047	ハヶ岳演習林に自生するサクラソウ集団の葉緑体DNA多型とマイクロサテライトマーカーによる空間的遺伝構造の解析 北本尚子(筑波大・生命環境)・上野真義・津村義彦(森林総研)・竹中明夫(国立環境研)・大澤良(筑波大・農林)	PA1-062	タイ東北部サケラートの乾燥フタバガキ林に優占する高木5種の樹幹部動態 岩間 哲士・武田 博清(京都大院・農)
PA1-048	光環境に対するサクラソウの形態的・生理的可塑性とその遺伝的変異 野田 響(東大・農)・村岡裕由(岐阜大・流域圏科学研究セ)・鷲谷いづみ(東大・農)	PA1-063	北タイ熱帯山地林における低木11種の光環境と樹冠構造 中島弘起・武田博清(京大・農)・Soontorn KHAMYONG(チェンマイ大)
PA1-049	サクラソウの種子生産における局所的交配相手密度の影響-花粉流動からのアプローチ- 石濱史子(東大・総合文化)・上野真義(森林総研)・川上美穂子(東大・農)・津村義彦(森林総研)・鷲谷いづみ(東大・農)	PA1-064	アマゾン熱帯雨林における植栽された数種の樹種生態について 目黒 伸一((財)国際生態学センター)
PA1-050	サクラソウ保全のためのQTL解析(1)連鎖地図の構築 上野真義・田口由利子(森林総研)・川上美穂子(東大・農生命)・大澤良(筑波大・農林)・津村義彦(森林総研)・鷲谷いづみ(東大・農生命)	【植物個体群の生理生態】	
【植物個体群の生活史戦略】		PA1-065	ウキクサの生長に及ぼす高CO ₂ と昇温の影響 望月久美子(筑波大・生命環境)及川武久・広田充(筑波大・生物科学) 李載錫(筑波大・陸域環境研究センター) 鞠子茂(筑波大・生物科学)
PA1-051	葉群内における個葉・葉面積・窒素のターンオーバー 及川真平・彦坂幸毅・広瀬忠樹(東北大院・生命科学)	PA1-066	ホンモンジゴケ及び4種の蘚類の銅耐性比較 外山 祐介・伊野 良夫(早大・教育)
		PA1-067	スゲ類の生理生態的挙動は湿原の窒素環境をどこまで表しているか? 中村 隆俊・植村 滋(北大 北方生物圏フィールド科学センター)
		PA1-068	ハウレンソウにおける光合成の温度順化 矢守 航・寺島 一郎(大阪大・理)
		PA1-069	マコモ (<i>Zizania latifolia</i>)における季節的物質輸送について 佐々木 渉(埼玉大・理工)
		PA1-070	新しい栽培実験法“hydroearth method”によるススキとアシの比較 由良 浩(千葉県立中央博物館)

PA1-071 ~ 107 ポスター発表 3月20日(木)A会場

PA1-071	RGRと水分ストレス耐性のトレードオフー細胞壁特性の重要性ー 杉山修一(弘前大学農学生命科学部)	PA1-090	送粉共生系評価のための指標 中野千賀・鷲谷いづみ(東大・農学生命)
PA1-072	異なる光、窒素栄養条件に対するC4植物の応答機構 田副雄士・寺島一郎(大阪大・理)	PA1-091	海岸砂丘における訪花性昆虫群集の季節変動 井上牧子・遠藤知二・西原光恵(神戸女学院大・人間科学)・遠藤彰(立命館大・理工)
PA1-073	富士山に生育するオンタデの生育標高に応じた葉内タンパク質動態~ルビスコおよびAPX活性~ 坂田剛(北里大・基礎科学センター)・中野隆志(山梨県環境科学研)・横井洋太(北里大・基礎科学センター)	PA1-092	郊外に移転した大学キャンパスにおける生物群集(13)野生イチゴ類の訪花昆虫群集と結実 島岡良治・香取郁夫・桜谷保之(近畿大・農)
PA1-074	異なる光・窒素条件で生育したシロザの葉からの窒素回収効率 安村有子・彦坂幸毅・広瀬忠樹(東北大学・生命科学)	PA1-093	金沢城公園の樹木伐採と緑地整備にともなう植物ー訪花昆虫関係の変化 宇都宮大輔(金沢大院・生態)中村浩二(金沢大・理)
PA1-075	グンバイヒルガオの不定根の水分供給源としての役割 奥井智子(奈良女子大院・人間文化)	【動物個体群の生息地選択・移動分散】	
PA1-076	タチスズシロソウの開花における低温感受性の集団間変異 杉阪次郎・工藤洋(神戸大大学院 自然科学)	PA1-095	群馬県水上町における放獣ツキノワグマの行動圏 遠藤耕一郎(日本大・生物資源)・黒崎敏文・橋本幸彦(財)自然環境研究センター)・山根明臣・岩田隆太郎(日本大・生物資源)
PA1-077	高山植物ミヤマキンバイの変温条件下における発芽特性の種内変異:風衝地と雪田集団の比較 下野嘉子(北海道大・地球環境)	PA1-096	里地環境におけるホンダヌキ <i>Nyctereutes procyonoides viverinus</i> の下層植生構造に対する環境選択性 園田陽一・倉本宣(明治大・農)
PA1-078	多雪地のササと寡雪地のササの分布域を決めるものは何か? 岡田有平(東大・理)・種子田春彦・館野正樹(東大院・日光植物園)	PA1-097	ニホンテンにおける行動圏内資源量 倉島治(東京大院・農学生命)・須田知樹(宇都宮大・農)・小金澤正昭(宇都宮大・演習林)
【植物と動物の相互関係 - 送粉】			
PA1-080	ソククサにおける送粉者の多段階誘因 丑丸敦史(総合地球環境学研究所)	PA1-099	栃木県奥日光におけるヒメホオヒゲコウモリのねぐらの選択性~小型発信器を用いて~ 安井さち子(東洋輪蝠研究所)・上條隆志(筑波大・農林)・三笠暎子(コウモリの会)・繁田真由美((株)野生生物管理)・日光森林棲コウモリ研究グループ
PA1-081	ショウジョウバカマにおける開花のタイミングに依存した自家受粉率の変化ーポリネーターと個体サイズの影響ー 森長真一(東北大院・生命科学)・辻和希(琉球大・農)・酒井聡樹(東北大院・生命科学)	PA1-100	標識再捕獲およびラジオトラッキングからみたカワネズミの行動の時間的・空間的パターン 一柳英隆(東京都中野区)・北垣憲仁(都留文科大)
PA1-082	送粉システム形成に果たす花香の役割ー東マレーシア・低地フタバガキ混合林における送粉戦略を中心に 熊野有子・山岡亮平(京都工芸繊維大)	PA1-101	アカネズミの母と娘の巣穴利用の変化 坂本信介(東京都立大)
PA1-083	サギソウ個体群において花粉塊の移動率を決定している要因は何か? 茂田幸嗣・井鷲裕司・中越信和(広大・国際協力)	PA1-102	ヒメネズミの空間分布および繁殖システムを決める生態学的要因 芝田史仁(和歌山信愛女子短大)・川道武男
PA1-084	昼咲き-夜咲き種の雑種集団でのポリネーターの選択による花形質多型の維持 長谷川匡弘・矢原徹一(九大・理)	PA1-103	白神山地源流部におけるイワナの移動性(): 2グループモデルによる検証 鈴木悠史・鈴木求真(金沢大・理)・鹿野雄一(京大院・理)・高田啓介(信州大・理)・後藤忠男(森林総研・東北)・高柳佳世(岩手県立大・総合政策)・鎌田直人(金沢大院・自然科学)
PA1-085	バイカツツジの送粉様式と仮雄蕊の機能 小野晶子・堂園いくみ・菅原敬(都立大院・理)	【動物の個体群動態】	
PA1-086	都市周縁部におけるマルハナバチ類の発生消長及び訪花植物 齊藤有里加(明治大院・農)	PA1-104	ムツゴロウ当歳魚のサイズ依存越冬死亡: 特異なエネルギー消費のアロメトリー 竹垣毅(長崎大・海洋資源教育研究センター)
PA1-087	ニシキウツギの花色変化に対するマルハナバチの採餌選好性調査 中村裕(筑波大院・生命環境) 徳永幸彦(筑波大・生物科学)	PA1-105	阿寒湖のワカサギはなぜ減少したのか: 動物プランクトンの季節変化とワカサギ胃内容物について 五十嵐聖貴・石川靖・三上英敏(北海道環境研)・高野敬志(道立衛生研)・日野修次(山形大・理)・桶屋潤一(阿寒漁協)
PA1-088	マルハナバチの副専攻花にとつての、マルハナバチの花選好性: 人工花序を用いた実験 石井博・工藤岳(北海道大院・地球環境)	PA1-106	広島県中山間谷地帯におけるトノサマガエル個体群の動態(1)水稲栽培作業に伴う個体群の時空間的挙動について 後藤直人・日鷹一雅(愛媛大・農・附属農場)
PA1-089	個体間相互作用がマルハナバチの採餌範囲を狭めているのか? ~閉鎖系における他個体除去実験による検証~ 牧野崇司(東北大院・生命科学)・酒井聡樹(東北大院・生命科学)	PA1-107	Does the acorn masting cause the increase in rodent populations?: Re-evaluation of the relationship in view of acorn nutrition. 島田卓哉(森林総研・関西)・齊藤隆(北大・フィールド科学センター)

PA1-108	秋田駒ヶ岳イヌワシ行動圏におけるノウサギ生息密度の予測 - 植生・地形条件による解析 - 阿部 聖哉・梨本真・矢竹一穂・松木 吏弓・竹内 亨(電中研・応用生物)	PA1-125	オリオオコウモリの餌植物と採餌パタン 中本 敦・金城和三・伊澤雅子(琉大・理)
PA1-109	ノウサギの糞DNA解析による個体識別と生息数の推定 松木 吏弓・矢竹一穂・竹内 亨・阿部聖哉・石井孝・梨本真(電中研・応用生物)	PA1-126	ヤクシカの採食品目構成の季節変動: 採食行動の直接観察より 揚妻直樹(北大・フィールド科学センター)・揚妻芳美(苫小牧市博物館)
PA1-110	倉橋島における景観の変化とイノシシの動態 酒井将義(広島大・総合科学)	PA1-127	山地部に生息するツシマヤマネコ(<i>Felis bengalensis euphilura</i>)の食性 檜山智剛(琉球大院・理工)
PA1-111	小豆島地域におけるニホンジカ生息密度推定のための推定式の検討 光岡 佳納子・黒崎 敏文・橋本 幸彦・鈴木和男(自然環境研究センター)	PA1-128	クマハギ激害地におけるニホンツキノワグマ(<i>Ursus thibetanus japonicus</i>)の食性 吉田 洋・林 進・坪田敏男・村瀬哲磨・岡本卓也・白濱直樹・岡野 司・尾崎智子(岐阜大・農)
【動物個体群の遺伝構造・変異】		PA1-129	窒素・炭素安定同位体によるツキノワグマの食性解析 中下 留美子(東京農工大・農)・後藤 光章(信州ツキノワグマ研究会)・泉山 茂之(株)野生動物保護管理事務所)・林 秀剛(信州ツキノワグマ研究会)・小倉 紀雄(東京農工大・農)
PA1-112	遺伝子マーカーをもちいたニホンアカガエル幼生の生存率の推定 松島野枝(東北大院・生命科学)・石橋靖幸(森林総研・北海道)・横山潤・河田雅圭(東北大院・生命科学)	PA1-130	森林伐採が屋久島のニホンザルの土地利用と食物資源量に与える影響 半谷吾郎(京都大・霊長研)・座馬耕一郎(京都大・理)・早石周平(京都大・理)・好廣真一(龍谷大・経営)・高畑由起夫(関西学院大・総合政策)・釣谷洋輔(日本大・生物資源)
PA1-113	Variation of Mitochondrial DNA Sequence in the Red-Crowned Crane <i>Grus japonensis</i> 東典子(北大・地球環境)・長谷川理・阿部周一(北大・先端研)・正富宏之(専修大・北海道短大)	PA1-131	ニホンザルの採食戦略 深谷もえ(京都大・霊長類研究所)
PA1-114	マイクロサテライト遺伝子を用いたオオアシトガリネズミとバイカルトガリネズミ個体群の遺伝構造 内藤 由香子・大館 智氏(北大・低温研)	【動物の繁殖生態・行動】	
PA1-115	ヒメネズミ(<i>Apodemus argenteus</i>)個体群の遺伝的な構造: 北海道北部と南部の比較 大西尚樹(北大院・農)・齊藤隆(北大・フィールド科学センター)	PA1-132	どのような雄が父性を失うのか? - コジュリンのつがい外受精の検出 - 斎藤武馬(立教大・理・動物生態)・永田尚志(国立環境研)・西海 功(国立科学博物館)・上田恵介(立教大・理)
PA1-116	クロミンククジラにおけるY染色体多型解析 西田 伸(九大院・比文)・Luis A. Pastene・後藤 睦夫・上田 真久(日鯨研)・小池 裕子(九大院・比文)	PA1-133	オオジシギの外部形態における性的二型 浦 達也・東正剛(北大・地球環境)
PA1-117	ミトコンドリアDNAコントロール領域の塩基配列変異から見たニホンカモシカ地域個体群の比較 奥村栄朗(森林総研・野生動物)	PA1-134	ルリビタキ雄の二型は雌による選り好みではない? ~ 原因の検討 ~ 森本 元(立教大院・理)・上田 恵介(立教大・理)
【動物個体群の生活史戦略】		PA1-135	ジュウイチ <i>Cuculus fugax</i> の雛による宿主操作 田中 啓太・森本 元・上田 恵介(立教大・理)
PA1-118	稚貝生存に与える産卵場所選択と卵へのエネルギー配分の影響 河合深(鹿大・多島研)・辻宏幸・五嶋聖治(北大院・水産)	PA1-136	亜遅成性鳥類の初期成長パターンと子育て戦略 - 留守がちな親の最適子育て法 - 岡 奈理子(山階鳥研)・杉野 目 斉(仙台市役所)・佐藤文男(山階鳥研)
PA1-119	Goldschmidtはマイマイガ単性雌をみたか 石原通雄(兵庫医大・生物)・東浦康友(東薬大・生命科学)・小野菜々子(東薬大・生命科学)	PA1-137	厚木市におけるアブラコウモリ (<i>Pipistrellus abramus</i>) の3~11月の出巢活動について 安藤陽子・野島智司・吉行瑞子(東京農業大・農)
PA1-120	海草葉上に生息する被覆性コケムシの成長と繁殖について 河内直子(北大・厚岸臨海)・仲岡雅裕(千葉大院・自然科学)・向井宏(北大・厚岸臨海)		
PA1-121	イボトゲガニ <i>Hapalogaster dentata</i> の繁殖能力と精子配分戦略 佐藤 琢・五嶋 聖治(北大院・水産)		
PA1-122	ヤドカリにおける成長と繁殖への資源配分: 交尾直前脱皮に着目して 和田 哲(高知大・海洋センター)		
【動物の採食・捕食回避】			
PA1-123	なぜマガンは小麦食害を起こすのか: Linear Programming modelを用いて食害の対策を提言する 天野達也・牛山克己・藤田剛・樋口広芳(東京大・生物多様性)		

【環境汚染・富栄養化】	
PB1-001	Ozone 処理 <i>Betula pendula</i> 葉に含まれるフェノール性化合物の変動 山路 恵子 (Metla, 森林総研東北支所)・Elina Oksanen (Kuopio Univ.)・Riitta Julkunen-Tiitto (Joensuu Univ.)・Matti Rousi (Metla)
PB1-002	スギ人工林の成立に伴う森林流出水の水質変化 徳地直子・福島慶太郎 (京都大・農)
PB1-003	Analysis of Selected Metals in Tree Rings of <i>P. Jamazakura</i> from Tanabe City, Wakayama Prefecture Eko Pudjadi (Hiroshima Univ.), J. Yoon, K. Nakane, K. Takeda
PB1-004	日本における農業生産に伴って発生するリン酸フローと環境負荷 三島慎一郎(農業環境技術研究所)
PB1-005	Behavior of Some Selected Herbicides in Paddy Surface Water Sultana PARVEEN (IDEC, Hiroshima Univ.), Tetsuyuki KOHGUCHI, Hideki SHIMOZAWA (Hiroshima Pref/ Agriculture Research Center), Nobukazu NAKAGOSHI (IDEC, Hiroshima Univ)
PB1-006	界面活性剤が水生植物の種子水散布に及ぼす影響 池田浩明 (農業環境技術研究所)・伊藤一幸 (東北農業研究センター)
PB1-007	野生動物における残留性有機汚染物質 (POPs) 汚染の現状と生態リスク 安田雅俊・山田文雄・川路則友 (森林総研・鳥獣生態研)・山崎晃司・中島政明・石塚剛 (茨城自然博物館)
【物質循環】	
PB1-008	屋久島の森林土壌におけるCO ₂ フラックスの季節変化 木原 孝志 (筑波大)
PB1-009	マレーシア・パソ地域の熱帯林とヤシ園における土壌呼吸量の比較 安立美奈子 (岐阜大・流域圏科学研究センター)・別宮有紀子 (都留文科大・初等教育科)・Wan Rashidah (マレーシア森林研究所)・奥田敏統 (国立環境研)・小泉博 (岐阜大・流域圏科学研究センター)
PB1-010	異なる遷移ステージの生態系における土壌呼吸の比較 大江悠介 (筑波大・生物)
PB1-011	土壌呼吸における酸素と二酸化炭素の測定 李美善・遠島康徳・井上元 (国立環境研究所)
PB1-012	森林への窒素負荷による土壌からの二酸化炭素およびメタンフラックスの影響 稲富素子・小泉博 (岐阜大・流域圏科学研究センター)
PB1-013	森林土壌のメタン吸収速度の長期観測 - 伐採の影響と年変動 - 籠谷泰行 (滋賀県大・環境科学)・濱端悦治・中島拓男 (琵琶湖研)
PB1-014	水田および転換畑における3種の温室効果ガス (CO ₂ , CH ₄ , N ₂ O) フラックスの季節変化 西村誠一・須藤重人・秋山博子・澤本卓治・米村正一郎・八木一行 (農業環境技術研究所)
PB1-015	水田上のCO ₂ フラックス観測による生態系呼吸要素および総光合成量の評価 山田智康・永井秀幸(農環研)・齊藤誠(横浜国大)・宮田明(農環研)・原園芳信(アラスカ大)
PB1-016	放棄田におけるN ₂ O fluxに植物体が与える影響 八代裕一郎・望月久美子・中村道長・鞠子茂 (筑波大・生物)
PB1-017	周極域森林土壌の炭素集積量 - 北東ユーラシアと北米の比較 - 松浦陽次郎 (森林総合研究所)
PB1-018	Carbon and nitrogen stocks in a mangrove stand of <i>Kandelia candel</i> (L.) Druce Khan, M.N.I. and A. Hagihara (Lab. Ecology and Systematics, Univ. Ryukyus)
PB1-019	冷温帯アカマツ林における土壌炭素フラックス 新谷健一 (筑波大・環境科学)・大塚俊之 (山梨環境研)・鞠子茂 (筑波大・生物)
PB1-020	チャンパー法によるカラマツ林炭素循環研究 梁 乃申 (国立環境研究所)
PB1-021	オープントップチャンパーによる温暖化環境下での樹林の炭素循環・収支評価 (1)チャンパー内の制御環境の評価 中根周歩・S.J. Joo・C.H. Yun・M.H. Kim・M.H. Yim (広島大・生物圏科学)
PB1-022	人工衛星リモートセンシングとGISによる、中国山地スギ人工林の炭素収支評価 石垣 宏・中根 周歩 (広島大生物圏)
PB1-023	北上山地の森林における土壌炭素蓄積量と過去の土地利用の関係 橋本徹・池田重人・志知幸治(森林総研・東北)
PB1-024	森林生態系の炭素循環における根系の役割 福澤加里部 (北大院・農)・柴田英昭・佐藤冬樹・笹賀一郎・高木健太郎・小池孝良 (北大・北方生物圏FSC)
PB1-025	モンゴルステップにおける植生および炭素フラックス 川田清和・及川武久・中村 徹・田村憲司・杉田倫明・李 吉宰・浦野忠朗・鞠子 茂 (筑波大)
PB1-026	渦相関法を用いた菅平スキ草原における炭素収支の推定 矢崎至洋 (岐阜大学・流域圏科学研究センター)・鞠子茂 (筑波大学・生物科学系)・三枝信子 (産業技術総合研究所)・中野隆志 (山梨県環境科学研究所)・小泉博 (岐阜大学・流域圏科学研究センター)
PB1-027	土壌炭素動態のモデル化 - 炭素貯留量と微生物呼吸量 横沢正幸・白戸康人 (農環研)・鞠子茂 (筑波大)・小泉博 (岐阜大)
PB1-028	草津本白根山火山口周辺植生が土壌の保全に及ぼす影響 浅野真希(筑波大・生命環境)・田村憲司(筑波大・応用生物化学)・石川真一(群馬大・社会情報)・恩田裕一(筑波大・地球環境)・野村 哲(群馬大・社会情報)・東 照雄(筑波大・応用生物化学)
PB1-029	ササ群落が火山灰土壌の諸性質に及ぼす影響 田村憲司・東照雄 (筑波大・応用生物化学)
PB1-030	極域ツンドラおよび温帯林生態系土壌における溶存性有機物質保持機構 保原 達 (環境研)・木庭啓介 (京大・情報)・阿江教治 (農環研)・Gaius R. Shaver (MBL)
PB1-031	熱帯季節林における土壌化学性の空間的異質性 - 繰り返し火災からの経過年数に伴う変化 - 廣部 宗 (宮崎大・農)・中谷 恭 (近畿大・農)・徳地直子 (京大・農)・Chongrak Wachrinrat (Kasetsart Univ.)・武田博清 (京大・農)
PB1-032	タイ国乾性落葉林におけるバグ埋設法による土壌窒素無機化量の季節変動 - 野火頻度を異にする3林分の比較 - 戸田哲也・金子隆之・徳地直子・武田博清・太田誠一 (京都大院・農)・Chongrak Watcharinrat・San Kaitpraneet (カセサート大学林学部)
PB1-033	半乾燥熱帯での樹木パッチ構造に由来する土壌窒素の空間パターン 岡村真吾・長山泰秀 (島根大・森林環境)・田中樹 (京都大・地球環境)・片桐成夫 (島根大・森林環境)

PB1-034	木本と林床草本のリターのミキシングと施肥・伐採が窒素無機化に与える影響 高橋 姿・宮本 敏澄(北海道大・農)日浦 勉(北海道大・北方生物圏フィールド科学センター)	PB1-051	横浜市の落葉広葉樹二次林における種構成とその成立要因 中西 佐和子・藤原一繪(横浜国立大院・環境情報)
【植物群集・群落 - 草原・湿地・水系】		PB1-052	都市分断林の変質と種の動態の予測 戸島久和・小池文人(横浜国立大院・環境情報)
PB1-036	富士山の森林限界XXIV一標高によるシモフリゴケ群落の構造変化一 鈴木俊宏・橋本泰助(静岡大・理)・神田啓史(極地研)・増沢武弘(静岡大・理)	PB1-053	都市域の残存緑地に発達するカラスザンショウ林の成立立地と動態 許 琴蘭(横浜国大院・環境情報)
PB1-037	キタダケソウ生育地保護区の構成要素とその環境要因について一その1一 名取俊樹・矢部徹(国立環境研究所・生物)	PB1-054	モウソウチクの分布拡大と生態的な位置付けについて 湯本裕之・倉本宣(明治大・農)
PB1-038	本州中部亜高山帯の半自然草原におけるヤナギラン群落の群落特性 森 有希・大窪久美子(信州大・農)	PB1-055	都市域に残存する湿原への塩類流入の影響 矢部和夫(札幌市立高専)・中村隆俊(北海道大・北方生物圏フィールド科学セ・雨龍)
PB1-039	中国広西壮族自治区の石灰岩山地植生における組成分化とその環境要因 西尾孝佳(宇都宮大・野生植物研セ)・大久保達弘(宇都宮大・森林科学)・八木久義(三重大学・緑環境計画)・丹下 健(東京大・田無演習林)・頼 志強(広西畜牧研)・梁 建平・陳 国臣・周全連(広西林業科学院)	【植物群集・群落 - 森林】	
PB1-040	中国広西壮族自治区の石漠化した石灰岩山地植生における群集構造の多様性 大久保達弘(宇大・農)・西尾孝佳(宇大・野生植物セ)・八木久義(三重大)・丹下健(東大・演)・頼 志強(中国広西壮族自治区畜牧研究所)・梁 建平・陳 国臣・周全連(中国広西壮族自治区林科院)	PB1-056	林は20年でどう変わったか - 北海道・亜高山帯針葉樹林の場合 - 丸山立一(岩手大連合院)・丸山まさみ・紺野康夫(帯畜大・生態系保護)
PB1-041	中国華東地域の草本植物群落の類型 村上雄秀(国際生態学センター)・中村幸人(東京農大・地域環境科学)	PB1-057	中部山岳地帯御岳山の亜高山帯林において優占する3種の針葉樹の更新パターン 森 章・武田 博清(京都大・森林生態)
PB1-042	鬼首山山地獄に生育する植物の成長に関わる立地要因 香山雅純(北海道大・北方生物圏フィールド科学センター)	PB1-058	富士山亜高山帯上部における森林の構造と遷移 田中厚志・中北覚士・山川武史・山村靖夫(茨城大・理)・鈴木康之・柳瀬健吾・丸田恵美子(東邦大・理)・中野隆志(山梨県環境科学研究所)
【植物群集・群落 - 自然攪乱・人為的影響】		PB1-059	林冠攪乱に対する北海道産針葉樹2種の成長反応 石川幸男(専修大北海道短大・造園林学)・高橋康夫・道上昭夫・芝野伸策(東京大・北海道演習林)・梶幹男(東京大学院・新領域創生)
PB1-043	苗場山ブナ天然更新試験地における伐採30年後の種組成の変化 小川みふゆ(科学技術振興事業団)・田中信行・田中浩・柴田鏡江(森林総合研究所)・中静透(総合地球環境学研究所)・前田禎三	PB1-060	大雪針広混交林における最近13年間の生長・枯死動態 久保博之・久保田康裕(鹿児島大・教育)
PB1-044	ブナ科樹木が枯れていく 伊藤進一郎・村田政穂・松田陽介(三重大生資)・山田利博(東大・演田無)	PB1-061	北海道北部のダケカンバ若齢林における林冠構造に対する林床のチシマザサ除去の影響・林冠内の光環境と光合成生産 小林 剛(香大・農)・加藤京子(北大・低温研)植村 滋(北大・フィールド科セ)・西村誠一(農環研・地球環境)小野清美・原 登志彦・隅田明洋(北大・低温研)高橋耕一(信大・理)
PB1-045	南アルプス・三伏峠における立ち枯れ地帯の林分構造 佐藤 峰華(都立大院・地理)	PB1-062	北海道中央部のササ被覆地におけるミズナラ他の更新特性 阿部真・田内裕之・宇都木玄・山下直子(森林総研・北海道)・飯田滋生(森林総研/JICA)
PB1-046	乗鞍岳における車道際ハイマツの年枝成長とハイマツ林縁植生の変化 尾関雅章(長野県自然保護研究所)・土田勝義(信州大学・農)	PB1-063	ブナ林以外の広葉樹林の実生の動態に対するササの一斉開花・枯死の影響 壁谷大介(森林総研・木曾試験地)・松井淳(奈良教育大・生物)・彦坂幸毅(東北大院・生命科学)
PB1-047	栃木県釈迦ヶ岳山麓における人間活動が景観および植生構造に与える影響 加瀬幸・大久保達弘(宇都宮大・農)	PB1-064	南八幡平における植生分布と融雪の関係 若松伸彦・菊池多賀夫(横浜国大院・環境情報)
PB1-048	雑木林における林床植生の種組成の季節変化と地形条件 畠瀬頼子(自然環境研究センター・国土技術政策総合研)・藤原宣夫・小栗ひとみ・百瀬浩(国土技術政策総合研)・宇津木栄津子・大江栄三・井本郁子(緑生研究所)	PB1-065	天然記念物青葉山の林分構造36年の変化 永松 大(森林総研・九州)・平吹喜彦(宮教大・生物)・大友敬雄・鈴木三男(東北大院・理・植物園)
PB1-049	山火事後のアカマツ二次林の再生過程と初期条件との関係 岸田章一・出口博則(広島大院・理)	PB1-066	本州中部奥鬼怒地域の冷温帯林における積雪傾度と種組成の関係 津山幾太郎(筑波大院・生命環境)・上條隆志(筑波大学・農林学系)・小川みふゆ(科学技術振興事業団)・福田廣一(栃木県立博物館)
PB1-050	水循環の変化が促進するアカマツ林の二次遷移 久米篤・佐藤 嘉展・芳賀 弘和(九大・農・演習林)	PB1-067	本州中部奥鬼怒地域における針広混交林の9年間の動態 大崎卓哉(筑波大・生物資源)・小川みふゆ(科学技術振興事業団)・上條隆志(筑波大・農林)・津山幾太郎(筑波大・生命環境)

PB1-068	本州中部奥鬼怒地域の針広混交林におけるギャップ更新 高柳絵美子(筑波大学・生物資源)・小川みゆき(科学技術振興事業団)・上條隆志(筑波大・農林)・津山幾太郎(筑波大学・生命環境)	PB1-086	在来サケ科魚類と外来サケ科魚類のハビタット選好性と競争によるハビタットシフト 長谷川功(北海道大・農)
【動物群集】		PB1-087	プランクトン食性魚(<i>Pseudorasbora Parva</i>)の成長に及ぼす捕食者の存在の影響についての研究 河内章雄(埼玉大院・理工)
PB1-070	チョウ類群集及び植物との関係からみた水田地域の生物生息地としての評価() 川村みゆき(信州大院・農)大窪久美子(信州大・農)	PB1-088	クロヤマアリにおける体表炭化水素費の地理的分化に対応した単/多女王制分化と共生者ファウナの相違 徳田大輔・潘宇・市野隆雄(信州大・理)秋野順治(農生研)
PB1-071	水田生態系における止水性昆虫の幼虫の生息場所 - 水田と溜め池の環境の違い - 西城 洋(大阪市立自然史博物館)	PB1-089	本能行動を操作する寄生者;クモヒメバチによるゴミグモの網変化 榎元敏也(大津市)・吉田真(立命館大・理工)
PB1-072	木曾川本川と支流間におけるコイ科魚類幼魚の移動 浦部 美佐子(福岡教育大・理科教育)	PB1-090	二次寄生回避手段としてのアオムシコマユバチによる寄生操作の有効性 田中晋吾・大崎直太(京大・農)
PB1-073	氾濫原ブル構造と生息稚魚の時系列変化 山下慎吾(広島大院・国際協力)・傳田正利(土木研究所・水循環)・中越信和(広島大・国際協力)	PB1-091	寄生蜂によるcascading effect寄生蜂-ヤノネカイガラムシ-ウンシュウミカン系の系において 松本崇(京大・農)市岡孝朗(名大・農)西田隆義(京大・農)
PB1-074	琵琶湖周辺の水田地帯における魚類群集の季節変化 金尾滋史(滋賀県立大院・環境科学)山中佐紀子・沢田裕一(滋賀県立大・環境科学)前畑政善(滋賀県立琵琶湖博物館)	PB1-092	数種のマダラチョウ類における寄生性天敵からの逃避戦略 平井規央・石井実(大阪府大院・農生)
PB1-075	西表水田地帯における魚類の出現予測 井口恵一朗(中央水研)・淀太我(学振科技特)・片野修(中央水研)	PB1-093	ウミホタルの生活史とウミホタルガクレの寄生戦略 逸見泰久(熊本大・沿岸セ・合津マリンステーション)・岡本直子(熊本大院・自然科学)
PB1-076	水田を中心とした農業地域における鳥類群集と土地利用との関係 津森正則・大窪久美子(信州大・農)	PB1-094	Difference in Tree Preference on Two Oaks Species (<i>Quercus serrata</i> and <i>Q. variabilis</i>) between Great Tit and Varied Tit Chan-Ryul PARK and Teruaki HINO (Kansai Research Center, FFPRI)
PB1-077	放牧草地の糞虫群集の時間・空間的動態 井村 治・時坤・森本信生(畜草研)	PB1-095	人工林の高齢大径化に伴う樹洞営巣資源の創出に寄与するキツツキの穿孔特性 大場孝裕(静岡県林技セ)
PB1-078	放牧地におけるアブ群集の構造と周囲の植生が及ぼす影響 森本信生・井村 治・佐々木寛幸・時 坤(畜草研・那須)	PB1-096	すみ場所をつくり出す、ケラの巣穴のパターンとデザイン 遠藤 千尋(京大・理)
PB1-079	草地における虫食性鳥類の餌資源としての節足動物の評価 時 坤・井村 治・森本信生(畜産草地研究所)	PB1-097	Asymmetric facilitation: the goose barnacle and the mussel 河井 崇(九大院・理・臨海)
PB1-080	栃木県下の放牧草地における小型哺乳動物相 塚田英晴(畜産草地研)・井村 毅(近中四農研セ)・須藤まどか(畜産草地研)	PB1-098	線虫感染が語るテンジクダイ科魚類種間の食いわけ 奥田昇・大森浩二(愛媛大・沿岸センター)
PB1-081	都市緑地における鳥類排泄物の季節・空間パターンを決定する要因 藤田 素子・小池 文人(横浜国立大院・環境情報)	PB1-099	An experimental study of habitat preference and species interaction in an intertidal fish assemblage 新垣誠司・渡慶次睦範(九大・理・臨海)
PB1-082	西表島の森林とマングローブ林におけるスズメ目鳥類の混群形成 片岡優子・上田恵介(立教大学・理)	PB1-100	スナヤツメ隠蔽種群の同所的生息河川における生息地選好性 山崎裕治(富山大・理)
PB1-083	センサーカメラを用いた森林生態系における中大型哺乳類の多様性と移入種率の推定 小金澤正昭・金子賢太郎(宇都宮大・農)須田知樹(東京農工大・農)倉島治(東京大・総合文化)	【景観生態学・生物多様性】	
【動物群集 - 種間関係】		PB1-102	環境指標生物としての横川吸虫の研究 その2 前田祥子・粕谷志郎(岐阜大学・地域科学)
PB1-084	淡水生態系におけるケミカルコミュニケーションを介した間接効果 - 捕食者の非接触刺激は第三者からの捕食圧を変化させる - 高原輝彦(京都工芸繊維大)・神松幸弘(総合地球環境学研究所)・丸山敦(京都大・生態学研究センター)・山岡亮平(京都工芸繊維大)	PB1-103	Dam Impacts on the Upstream, A Case Study of Haizuka Dam in Hiroshima Prefecture. Azari Dehkordi, F., N. Nakagoshi, and J. Yunus (Hiroshima Univ.)
PB1-085	臨機応変 異なる捕食者に対する誘導防御形態の変異 岸田治・西村欣也(北海道大院・水産)	PB1-104	河川環境のダムによる分断と河道直線化による均質化の現状について(北海道を例に) 福島路生(国環研)・亀山哲(国環研)・金子正美(酪農学園大)・高田雅之(北海道環境科学研究センター)

PB1-105	ダム湖上流域における人工湿地造成実験の生態学的評価 峯松理恵・中越信和(広島大・国際協力)・播田一雄・赤井弘央((財)ダム水源地環境整備センター)・桜井義雄(応用生態学研究所)	PB1-122	吉野川下流域の砂州上におけるシナダレスズメガヤの侵入過程 小島 桃太郎(徳島大院・工)・鎌田 磨人(徳島大・工)
PB1-106	河原植生の復元を目指して - その1.多摩川における高水敷掘削地の植生変化 山田(一澤)麻子(小田原女子短大)・長岡 総子(横浜植生研究会)島瀬 頼子(自然環境研究センター)	PB1-123	侵略的外来種アレチウリへの対策 - 千曲川の事例 - 宮脇成生((株)建設環境研究所)・杉本利英・横山佳夫・谷保麻美子(国土交通省千曲川工事事務所)・鷲谷いづみ(東京大・農学生命)
PB1-107	人工草地の種多様性と生物的要因 堤 道生(岐阜大・流域圏科学研究センター)・菅原和夫(東北大院・農)	PB1-124	河川におけるニセアカシア(<i>Robinia.pseudo-acacia</i>)の分布拡大要因について 福田真由子(東邦大学)・崎尾均(埼玉県農林総合研究センター)・丸田恵美子(東邦大学)
PB1-108	霧ヶ峰草原の景観管理 2.刈取りによる草原の維持(3) 三井健一(信大院・農)・土田勝義(信大・農)	PB1-125	小笠原におけるアカギの生育地拡大と立地環境 田中信行・岡本透(森林総合研究所)・藤井哲次郎・豊田武司(ジオグリーンテック(株))
PB1-109	三宅島の緑化にむけて(2) - 島間ならびに島内におけるハチジョウススキの遺伝的多様性の評価 - 岩田洋佳(中央農研)・上條隆志(筑波大)・津村義彦(森林総研)	PB1-126	帰化植物セイタカアワダチソウに新たに形成される昆虫群集 安東義乃・大串隆之(京都大・生態学研究センター)
【保全生態学 - 希少種】		PB1-127	外来魚駆除のジレンマ - ブラックバス, ザリガニ, 水草, イトトンボの4者関係 - 前園泰徳・宮下直(東大・農)
PB1-110	森林断片化は絶滅危惧樹木の結実成功に影響するか? - 送紛者・種子食昆虫との関係 - 堀田万祐子(北海道大・苫小牧研究林)・田中健太(北海道学・北方生物圏フィールド科学センター)・永光輝義(森林総研・北海道)・日浦勉(北海道大・北方生物圏フィールド科学センター)	PB1-128	外来生物ブルーギルの定着可否を決定する生態学的機構: 種間の競争緩和に果たす補償的餌供給の役割 米倉竜次(京大・生態研)
PB1-111	淡水産紅藻類子スジノリによる御前山ダム建設の影響評価 宮下 衛(国立環境研究所)	PB1-129	京都市深泥池における外来魚除去による個体群変動とその抑制効果 安部倉 完(京都大・理)
PB1-112	長野県野辺山高原における絶滅危惧種アサマフウロの分布状況及び繁殖生態 遠藤 隼・大窪 久美子(信州大学・農・森林)	PB1-130	河川環境によって異なる外国産マス類の侵入状況 北野 聡(長野県自然保護研究所)
PB1-113	相模川と多摩川におけるカワラノギクの保全活動の現状と課題 倉本宣(明治大・農)		
PB1-114	カワバタモロコは、なぜ絶滅危惧種に至ったか? 田中哲夫(姫路工大・自然環境科学研)・山科ゆみ子(兵庫陸水生生物)・三浦康弘(柏原工高)・藤田康弘(兵庫水辺ネットワーク)・谷本卓弥(兵庫教育大)		
PB1-115	灌漑期・非灌漑期とメダカの生息との関係 樋口広大・倉本宣(明治大・応用植物生態)		
PB1-116	ニッポンバラタナゴ個体群の現在 北村淳一(京大院・理)		
PB1-117	長野県における絶滅危惧種ダルマガエルの新分布地と生息地の現状 松谷乙音・大窪久美子(信州大・農)・澤島拓夫(野外教育研究財団)		
【保全生態学 - 移入種】			
PB1-118	移入種オオフサモの除去が生育池に与える影響について 宮久保知和子・倉本宣(明治大・農)		
PB1-119	新帰化植物ミズヒマワリの分布拡大と訪花昆虫 藤原直子(豊橋市自然史博物館)・金沢至(大阪市立自然史博物館)		
PB1-120	大規模出水時によるシナダレスズメガヤ種子の水散布と生育適地への漂着 中山直樹・西廣淳・鷲谷いづみ(東京大学)		
PB1-121	シナダレスズメガヤ分布拡大の予測と実際 村中孝司・鷲谷いづみ(東大・農)		

<p>【生物地理学】</p>	<p>PA2-019 低密度種が生態系における群集構成の変動に与える影響 鈴木崇徳・中桐斉之・泰中啓一・吉村仁(静大・工)・富樫辰也・宮崎龍雄(千葉大・海洋バイオ)</p>
<p>PA2-001 遺跡試料を用いたアホウドリの集団構造の復元 - DNA解析, 安定同位体分析, 形態測定からの検討 - 江田真毅(東大・農)・小池裕子(九大・比文)・黒尾正樹(弘大・農生)・三原正三(九大・比文)・長谷川博(東邦大・理)・樋口広芳(東大・農)</p>	<p>PA2-020 資源競争によるギルド内表現型分布の動態 ギルド形質モデル 田中嘉成(中央大・経済)</p>
<p>PA2-003 東南アジア島嶼域における食肉目及びネコ科の分布と地理的要因 渡辺伸一・伊澤雅子(琉大・理)</p>	<p>PA2-021 種の共存には環境の時間変動と空間異質性のどちらが重要か? ランダム群集での共存確率から 向草世香・巖佐庸(九州大院・理)</p>
<p>【種分化・系統進化】</p>	<p>PA2-022 干渉行動は種の共存を促進するか? 三上修(東北大院・理)・河田雅圭(東北大院・生命科学)</p>
<p>PA2-004 樹上性巻貝における左右二型の個体群動態 浅見崇比呂(信州大・理/科技园PRESTO)・Somsak Panha・Chirasak Sutcharit(Chulalongkorn Univ.)</p>	<p>PA2-023 角度変換と重回帰・分散分析 粕谷英一(九大・理)</p>
<p>PA2-005 淡水棲巻貝の鏡像体は異常か正常か 宇津野宏樹(信大院・理)・浅見崇比呂(信大・理)</p>	<p>【植物の個体群生態学】</p>
<p>PA2-006 ホソウミニナ(<i>Batillaria cumingi</i>)のニッチ分化のメカニズム 三浦収(東北大院・理)</p>	<p>PA2-025 樹木シミュレーターで植物個体間競争を解析する 久保拓弥・甲山隆司(北大院・地環研)</p>
<p>PA2-007 交尾器の多様化による多発的種分化: ミドリバヤスデ種複合体 曾田貞滋(京大院・理)・田辺力(徳島県立博物館)</p>	<p>PA2-026 スギ人工林における自己間引き線の傾きの時間的変化 小川一治(名古屋大院・生命農学)</p>
<p>PA2-008 ババヤスデ属における交尾器形態の進化: 雌主導の雌雄間軍拡競争の影響 田辺力(徳島県立博物館)・曾田貞滋(京大院・理)</p>	<p>PA2-027 種子散布に制限される森林性植物の分布拡大 高橋佳菜子(新潟大院・自然科学)・紙谷智彦(新潟大・農)</p>
<p>PA2-009 The origin and evolution of scale eaters in Lake Tanganyika 高橋里英子(京大院・理)</p>	<p>PA2-028 高知県物部川下流域に発達するナンキンハゼ群落の生態学的研究 三宅尚・澤田笑子・増淵勝也・石川慎吾(高知大・理)</p>
<p>PA2-010 海産緑藻の配偶子の行動と異型配偶の進化 富樫辰也・宮崎龍雄(千葉大・海洋バイオシステム研究セ)・鈴木崇徳・中桐斉之・吉村仁(静岡大・工)・John L. Bartelt・Paul Alan Cox (US National Tropical Botanical Garden)</p>	<p>PA2-029 近畿地方におけるアオモジの分布拡大過程 中村彰宏・小林望美(大阪府大院・農)</p>
<p>PA2-011 大腸菌培養系を用いた実験進化学的手法による多種共存への移行 森光太郎・柏木明子・ト部格・四方哲也(阪大院・工)</p>	<p>PA2-030 釧路湿原におけるハンノキ林について 根岸知子(北大院・農)・中村太士(北大・農)</p>
<p>PA2-012 外温動物におけるベルクマン・クライン: タカラガイの地理的サイズ変異を用いた進化機構の解明 入江貴博・巖佐庸(九大・理)</p>	<p>PA2-031 里山の放棄水田におけるハンノキの分布と地下水位の変動 東敬義(三重県埋蔵文化財センター)・渡辺守(筑波大・生物科学)</p>
<p>PA2-013 適応進化過程で蓄積する突然変異の分布はどうか? 熊木理(東北大院・生命科学)・河田雅圭(東北大院・生命科学)</p>	<p>【植物個体群の生活史戦略】</p>
<p>PA2-014 形質分岐進化 西村欣也・磯田豊(北海道大・水産)</p>	<p>PA2-032 海浜植物コマツヨイグサの生活史の地理的变化 荻津英也・堀良通(茨城大・理)</p>
<p>【数理生態学】</p>	<p>PA2-033 海浜に生育する植物14種の種子発芽特性および海流散布適性 澤田佳宏・津田智(岐阜大・流域圏科学研究センター)</p>
<p>PA2-015 空間構造にもとづく相利共生の進化 山村則男・Behera, Narayan(京大・生態研センター)・若野友一郎(東大・化学システム工学)</p>	<p>PA2-034 時間的に変動する環境下におけるボタンウキクサの成長と資源分配様式 鈴木智之・鈴木準一郎・可知直毅(東京都立大・理)</p>
<p>PA2-016 パッチ間での栄養の移動が Grazing Optimization に及ぼす影響 山内淳・山村則男(京大院・生態学研究センター)</p>	<p>PA2-035 雌雄の違いは成長に影響を及ぼすのか? - 1年性ヤマノイモ個体を例として - 井上みずき(京大院・農)・石田清(森林総研・関西)</p>
<p>PA2-017 放牧してある牛の個体群距離はどのように説明できるか 塩見正衛(茨城大・理)</p>	<p>PA2-036 イチャクソウ亜科における繁殖様式の種間比較 阿部恵子(北大・地球環境)・高橋英樹(北大・総合博物館)・大原雅(北大・地球環境)</p>
<p>PA2-018 草地群落における相互作用のタイプと局所的共存の可能性 中桐斉之・吉村仁(静岡大・SVBL)・安田泰輔・塩見正衛(茨城大・理)</p>	<p>PA2-037 オオバナノエンレイソウの花のディスプレイの進化: 交配様式の異なる個体群間の分化パターン 富松裕・大原雅(北大・地球環境)</p>
	<p>PA2-038 カントウカンアオイの葉の消長について 小沼祐子(横浜国大院・環境情報)・小泉武栄(学芸大)・岡秀一(東京都立大・理)</p>

PA2-039	北海道のカタクリにおける生殖様式の地域間差-自家和合性と自動自家受粉能力- 加藤芳文(北大・農)・本多和茂(専修大北海道・造園学)・近藤哲也(北大・農)・石川幸男(専修大北海道・造園学)	PA2-058	根箱観察によるシュート, 根端の成長比較と養分条件 糟谷信彦(京都府大・農)
PA2-040	中間的他殖率は安定か?- 新しい種間比較によるモミジハグマ属での検証- 大塚愛子・矢原徹一(九大・理)	PA2-059	アカマツ成木樹冠における分枝・着葉構造と葉齢別葉量分布 川崎達郎・千葉幸弘(森林総研)・韓慶民(科学技術振興事業団)・荒木真岳(森林総研)
PA2-041	花の異性間擬態は隣花受粉を増大させる 川越哲博(神戸大・理)・鈴木信彦(佐賀大・農)	PA2-060	シュート特性に基づいた枝の肥大成長メカニズムの解析 曾根恒星・寺島一郎(阪大・理)
PA2-042	雄性先熟種ヤマオダマキにおける、花序内の花間の雄期・雌期の長さの変異と性投資の違い 板垣智之・酒井聡樹(東北大院・生命科学)	PA2-061	株型低木コゴメウツギの幹年齢に伴うシュート構造の変化 相川真一・堀良通(茨城大・理)
PA2-043	亜熱帯域における雌性両性異株モンパノキ(ムラサキ科)の花の2型性と種子生産 岡崎純子・畔上絵美(大阪教育大・教員養成)・松村俊一(東北大・理)	PA2-062	ミズキ稚樹の当年枝における葉の空間配置と物質分配様式 飛田礼子・鈴木準一郎・可知直毅(都立大・理)
PA2-044	異なるモジュールレベルにおけるヒメモチ(<i>Ilex leucoclada</i>)の性的二型性 鳥丸猛・戸丸信弘(名大院・生命農)	PA2-063	冷温帯高木10種の若木にみられたシュート分化パターンの樹冠内変異 八木貴信(森林総研・東北)
PA2-045	雌雄異株多年生草本植物オンタデの異なる性比を示す集団間での生活史形質の比較 古川武文・工藤洋・鈴木準一郎・可知直毅(都立大・理)	PA2-064	暖温帯落葉広葉樹のシュートの伸長・展葉様式と形態的諸特性について 片山雅男(夙川学院短大・教養教育)
PA2-046	ツルアジサイの資源分配比は同属他種とどう違うのか 金子洋平(新潟大院・自然科学)・本間航介(新潟大・農・フィールド科学セ)	【植物個体群の生理生態】	
PA2-047	伐採と施肥がフェノロジーの異なるユリ科草本4種の資源分配に与える影響 西瑞木(北大・苫小牧研究林)・日浦勉(北大・北方生物圏フィールド科学センター)	PA2-065	河川氾濫源におけるネコヤナギの栄養塩経済: 貧栄養な環境下でどのようにして栄養塩を得ているのか? 佐々木晶子(広島大院・生物圏)・三島康史(産業技術総合研究所中国センター)・中坪孝之(広島大院・生物圏)
PA2-048	雪田植物チングルマにおいて、開花フェノロジーが種子生産と性投資に与える影響 辻沢央・酒井聡樹(東北大院・生命科学)	PA2-066	ブナ林を構成するいくつかの樹種の2次生長に伴う元素排出について 竹田真知子・森下裕美子・籠谷泰行・野間直彦・荻野和彦(滋賀県立大・環境科学)
PA2-049	ミヤマタムラソウにおける、親個体サイズに依存した繁殖資源分配: 実生の姉妹間競争の影響 高橋邦彦・酒井聡樹(東北大院・生命科学)	PA2-067	ブナ林に生育する4樹種の梢端部での多量元素濃度の季節変化 森下裕美子・竹田真知子・籠谷泰行・野間直彦・荻野和彦(滋賀県立大・環境科学)
PA2-050	葉群~枝モジュール~樹形の定量化 千葉幸弘(森林総研)	PA2-068	アカマツの新葉展開前後に見られるルビスコの量的・質的变化 ~葉の物質生産と窒素経済に果たす役割- 田中さやの(茨城大・理)・坂田剛(北里大・基礎科学センター)・山村靖夫(茨城大・理)・中野隆志(山梨県環境科学研究所)
PA2-051	ニセジュズネノキの樹形づくり 城田徹央(九州大・熱農研セ)	PA2-069	水分ストレスによる樹木葉の体積弾性率の可逆的低下 齋藤隆実・寺島一郎(阪大院・理)
PA2-052	茎の太さの意義: 自重を支えるため? 風に耐えるため? 長嶋寿江・館野正樹(東大院・理・日光植物園)	PA2-070	カバノキ科では開葉時期が異なると葉の生理はどう変化するのか? 宮沢良行・菊澤喜八郎(京大院・農)
PA2-053	ツツジ科低木種ウスノキの地上部アーキテクチャの発達様式 河村耕史(京大院・農学)・武田博清(京大院・農学)	PA2-071	キリ植物体上の微小構造の生態的機能に関する研究 小林左和(東工大・生命理工)・幸島司郎(東工大・生命理工)
PA2-054	オオシラビソの偏形樹型と木部エンボリズム 池田武文(京都府大院・農)・丸田恵美子(東邦大・理)・梅宮知佐・松尾里美(京都府大・院・農)	PA2-072	Estimation of time-span indicated by foliar delta-13C using simulation based on gas exchange rates Naoko Matsuo, Yoshiko Kosugi, Nobuhito Ohte (Graduate School of Agriculture, Kyoto Univ.), Keisuke Koba(Graduate School of Informatics, Kyoto Univ.)
PA2-055	アオモリトドマツにおける枝抜けは、旗状樹形形成の主要因になるか? 関剛・梶本卓也・杉田久志・池田重人(森林総研・東北)・大丸裕武(森林総研・九州)・岡本透(森林総研)	PA2-073	八甲田山田代平のCO ₂ springにおけるCO ₂ 環境と植物の生理生態学的特性 小野田雄介・彦坂幸毅・広瀬忠樹(東北大院・生命科学)
PA2-056	ヒノキ細根系の分岐様式 - 根長:根重比との関連について 藤巻玲路・武田博清(京大・農)	PA2-074	高CO ₂ 条件下におけるカラマツの成長 16基のO ₂ TCを用いた半野外実験 森茂太・後藤忠男・山路恵子(森林総研・東北支所)
PA2-057	ヒノキ細根の形態、解剖学的特徴と機能的側面 菱拓雄・武田博清(京大・農)	PA2-075	熱帯の遷移後期樹種 <i>Elateriospermum tapos</i> の稚樹における光条件に応じた葉の寿命の可塑性と樹冠内窒素分配様式との関連 長田典之(東大・理・日光植物園)・武田博清(京大・農)・北島薫(フロリダ大・植物)・R.W. Pearcy(カリフォルニア大・進化生態)

PA2-076	スギポット苗をもちいた地下部呼吸量の測定 檀浦 正子 (神戸大・自然科学)	PA2-095	ミヤコザサと樹木実生に対するニホンジカの採食の季節変化 日野輝明・伊東宏樹(森林総研・関西)・松田佳子(近畿大)
PA2-077	幹呼吸速度の連続測定方法を用いるアカマツ林の幹呼吸の推定 金明顯・中根周歩(広島大学)	PA2-096	ニホンジカの被食がミヤコザサの地上部・地下部への資源分配とその季節変化に与える影響 辻涼子・横田岳人・佐藤宏明(奈良女子大・理)・柴田観弐(名古屋大院・生命農学)
PA2-078	木本植物3種の硝酸態窒素同化の季節変動 小山里奈(金沢大・COE研究員)・寺井雅一(京大農・森林生態)・山本康裕(近大農・国際生物資源)・福島慶太郎・徳地直子(京大農・森林育成)	PA2-097	丹沢山地ブナ帯の植生保護柵内に生育する草本植物の生態的特性 田村 淳・山根正伸(神奈川県自環保セ)
PA2-079	森林土壌の窒素環境と樹木の硝酸同化との関わりについて 寺井 雅一(京都大院・農)	【動物個体群の生息地選択・移動分散】	
【植物と動物の相互関係 - 捕食・被食関係】			
PA2-081	エソスジグロシロチョウの種内卵サイズ変異と食草の防御形質 大秦正揚・大崎直太(京大・農)・古本敦子(伊丹市昆虫館)	PA2-099	兵庫県周辺地域におけるモリアオガエルの潜在的な生息地推定 伊勢 紀(宝塚市)三橋 弘宗(兵庫県立人と自然の博物館)村上 俊明(有限会社地域生態系保全)
PA2-082	ブナのゴール形成葉と無被害葉の物理的・化学的性質の比較 徳永憲治(金沢大・理)・小谷二郎(石川県林業試験場)・鎌田直人(金沢大院・自然科学)	PA2-100	カザフスタンにおけるダルマティアベリカンの繁殖地と移動経路 夏原由博, 堀川真弘(大阪府立大院・農学生命), 森本幸裕(京都大院・地球環境), Jeshenko, R., Gavrilov, A. (Kazakhstan Institute of Zoology)
PA2-083	ミズナラとコナラにおけるゴール形成昆虫群集の構造()-冬芽の展開フェノロジーの変異がゴール密度に及ぼす影響- 井貝紀幸・伊藤正仁・肘井直樹(名大院・生命農)	PA2-101	ゴイサギの水田地帯における広域的な採食地選択 遠藤 菜緒子(立教大院・理)
PA2-084	カバノキ科樹木における葉の構造的防御: トリコーム密度の変化 松木佐和子(北大院・農)・阿部知浩・竹内祐一(北海道東海大)・丸山温(森林総研・北海道支所)・小池孝良(北大・フィールド科学センター)	PA2-102	ウミネコの繁殖地外での時空間分布様式について 長 雄一(北海道環境科学研究センター)
PA2-085	パバイアは乳液中のタンパク質分解酵素の働きで植食昆虫から身を守る: 植物乳液が防御に果たす決定的役割 今野浩太郎・平山力・中村匡利・田村泰盛・服部誠(農業生物資源研究所)・河野勝行(国際農林水産業研究センター沖縄支所)	PA2-103	農耕地にみるキジ(<i>Phasianus colchicus</i>)の営巣地点の植生環境 菊池晴子(東京農工大・農)・菊池亜希良(広島大・国際協力)
PA2-086	花外蜜腺をもつカラスノエンドウにおけるトビイロケアリによる植食者排除効果 片山昇・鈴木信彦(佐賀大・農)	PA2-104	ヒヨドリは冬には山から里へ降りるのか? 山口 恭弘(中央農研・鳥獣害研)
PA2-087	マレー半島 <i>Shorea</i> 属 (フタバガキ科) 植物の散布前種子食昆虫と食害率 保坂哲朗・太田誠一(京都大・農)・湯本貴和(京都大・生態学研究センター) Yu-Yun Chen (Plant Biology Dept, Univ. Georgia), I-Fang Sun, Joe Wright (Smithsonian Tropical Research Inst., United States) Steve Hubbell (Plant Biology Dept, Univ. Georgia), Nur Supardi (Forest Research Inst. of Malaysia)	【動物の個体群動態】	
PA2-088	モチツツジの花における植食者が結果率に及ぼす影響 杉浦真治(京大・農)	PA2-105	景観が個体群動態を決めるか? -ハビタットの空間構造がシオダマリミジンコのメタ個体群に及ぼす影響- 六 車 秀士(北大院・水産)・野田 隆史(北大院・水産)
PA2-089	ヤナギ上の無脊椎生物相に作用する穿孔性昆虫の機能 内海 俊介・大串 隆之(京都大・生態学研究センター)	PA2-106	シオダマリミジンコのメタ個体群動態 Metapopulation dynamics of <i>Tigriopus japonicus</i> -Contribution of internal and external demographic processes in a stochastic environment- 白鳥 和佳子・野田 隆史(北海道大院・水産)
PA2-090	Plant-insect relationship in a maritime forest 横尾 誠・渡慶次 睦範(九州大院・理・附属臨海実験所)	PA2-107	転石海岸におけるコモチイソギンチャクの体壁上保育が個体群動態に及ぼす影響 石村 理知・西平 守孝(東北大院・理)
PA2-091	エゴノキにおける雌繁殖器官の減少過程 -樹木個体ごとにみた昆虫および鳥獣の影響- 長瀬ほなみ(名大院・生命農)・福本浩士(三重県)・梶村恒(名大院・生命農)	PA2-108	岩礁潮間帯に生息するイソギンチャク <i>Anthopleura</i> sp. に における繁殖特性と局所的適応 磯村尚子(東北大院・理)・西平守孝(東北大院・生命科学)
PA2-092	ブナ樹冠内における被食レベルの空間的及び時間的変異 山崎理正(京大・農)	PA2-109	沼沢生態系における淡水産巻貝サカマキガイおよびモノアラガイ個体群の季節動態 福田朱里(筑波大・バイオシステム) 内海真生(筑波大・農林工学)
PA2-093	野ネズミによるザゼンソウ属の花序及び果実の捕食 大塚孝一・北野聡(長野県自然保護研究所)	PA2-110	東京湾の自然渚・人工渚におけるアサリの個体群動態 小林達明・伊藤裕太・宮崎郁美・鈴木奈津子(千葉大)・野田泰一(東京女子医大)・浜口昌巳(瀬戸内海 区水産研究所)
PA2-094	大型植食動物の採食に対する4種の低木の反応とその生育への影響 福田淳子・高柳敦(京大院・農)	PA2-111	イソバナ専住ヨコエビのメタ個体群動態 熊谷直喜・品川 秀夫・佐藤壽彦・土屋泰孝・青木優和(筑波大・下田臨海)

PA2-112	北海道阿寒湖におけるウチダザリガニの生息密度及び現存量推定 高山肇(阿寒町教育委員会)・新井章吾(海藻研究所)・大竹敏博(三洋テクノマリン)・鈴木芳房(海洋探査)・宮崎勤(東海アクアノーツ)・斎藤和範(旭川大・女子短大)・蛭田眞一(北海道教育大学釧路校)・磯崎文(東京農大)・藪並郁子(北海道教育大・釧路校)・若菜勇(阿寒町教育委員会)	PA2-129	レア食いかコモン食いか~フグの採餌戦術の逆転と餌生物の色彩多型の進化~ 繁宮 悠介(京大・人環)
【動物個体群の遺伝構造・変異】		PA2-130	城北ワンド群のトウヨシノボリ縞鱸型の食性と生息環境 石田裕子(大阪府大院・理), 谷田一三(大阪府大・総合科学), 竹門康弘(京大・防災研)
PA2-113	淡水魚イトヨの地域個体群類縁関係を推定する 高村健二(国立環境研)・森誠一(岐阜経済大)	PA2-131	スズメダイ類による藻園の集約的管理と粗放的管理 畑啓生(京都大学・人間環境)
PA2-114	新たな生息環境がもたらす形態の変化: プランクトン食オショロコマの祖先個体群と移植個体群の比較 小林春毅・前川光司(北大・フィールド科学センター)	PA2-132	臨海実験所からの水槽排水中の栄養塩がミツボシキウセンの成長に及ぼす影響 戸口協子(茨城大)・鈴木祥平(琉球大)・狩野賢司(東京学芸大)・桑村哲生(中京大)・中嶋康裕(宮城大)
PA2-115	メダカにおける卵サイズ・卵数のトレードオフ関係とその緯度間変異について 渡邊 雅史・山平 寿智(新潟大院・自然科学)	PA2-133	瀬と淵におけるモツゴ(<i>Pseudorasbora Parva</i>)の採餌行動特性に与える流速の影響についての研究 新島哲也(埼玉大院・理工)
PA2-116	メダカの成長速度における集団間および集団内の変異について 政本千絵子・岡田 昌・山平 寿智(新潟大・理)	【動物の繁殖生態・行動】	
【動物個体群の生活史戦略】		PA2-134	ハクセンシオマネキのオスが形成する巣穴装飾と代替交尾行動 山田純代・古賀庸憲(和歌山大・教育)
PA2-117	クヌギの樹液中から発見されたAlgophagidae科コナダニの生活史: 特異なファイトテルマータの奇妙な住人 安井行雄・市川俊英(香川大・農)	PA2-135	ホンヤドカリのメスはオスを選んでいるか? -雄間闘争を基にした「間接的な配偶者選択」という視点から- 山野井貴浩(北大・水産)・吉野健児・五嶋聖治(北大院・水産)
PA2-118	シロアリの繁殖戦略と有翅虫の複眼形成に伴うopsin遺伝子の発現動態 加藤浩志・松本忠夫・三浦徹(東京大学・総合文化)	PA2-136	グッピー野外集団におけるカラーパターンにかかる性選択 吉田卓司・河田雅圭(東北大院・生命科学)・狩野賢司(東京学芸大・生物)
PA2-119	コブハサミムシの雄における尾鉤の二型性とその条件的発現 松尾洋(都立大・理)	PA2-137	グッピーのメスのオレンジ色に対する反応と、同じ色のオスに対する選好性との関係ーモニタを使った選好性実験ー 正路章子・河田雅圭(東北大・生命科学)
PA2-120	繁殖のコストの進化: アズキゾウムシを用いた量的遺伝学的解析 柳真一・及川卓郎・宮竹貴久(岡山大・農)	PA2-138	カスリヘビギンボ雄の卵保護行動 藤田 治(広島大院・生物圏科学)
PA2-121	ハモグリガのクラッチサイズ: 親にとっての最適サイズと子にとっての最適サイズ 加賀田秀樹(山形大・農)・大串隆之(京大・生態研センター)	PA2-139	ツマジロモンガラオスのハレム間移動~より多くのメスを求めて~ 高本剛祐(九大・理)・桑村哲生(中京大・教養)
PA2-122	オオタバコガの生活史形質における雌雄差 清水 健(京大院・農)	PA2-140	ソメワケベラ <i>Labroides bicolor</i> の巨大ハレムは何によって維持されているのか? 塚村慶子・坂井陽一・橋本博明・具島健二(広大院・生物圏科学)
PA2-123	マルカメムシの小オスは大オスがいると繁殖戦術を変える 日室千尋(京都大・農)・細川貴弘(九州大・理)・鈴木信彦(佐賀大・農)		
PA2-124	性比操作実験から見た寄生蜂 <i>Melittobia</i> の雌偏向性比~雄間闘争下では適応に反する!? ~ 安部 淳(東大・広域システム)・上村佳孝(都立大・理)・嶋田正和(東大・広域システム)		
PA2-125	イチジクコバチにおける産卵順序と性比のバラツキ 木下智章(九州大・理)		
【動物の採食・捕食回避】			
PA2-126	捕食と横取り食の両刀遣いにならないアクキガイ類 - 低コスト穿孔と高速摂食はトレードオフ? 石田 悠(福井市自然史博物館)		
PA2-127	Covering behaviour of the sea-urchin, <i>Tripneustes gratilla</i> Ma'ruf Kasim, Hiroshi Mukai (Akkeshi Marine Station, Hokkaido Univ.)		
PA2-128	アオヤガラと同種・異種を利用した魚類の捕食方法 竹内直子・具島健二(広大院・水圏資源生物)		

【環境汚染・富栄養化】	
PB2-001	富栄養化海域の自立的環境修復を促す海岸構造物について 三好順也・上月康則・倉田健悟・村上仁土・森正次・北野倫生(徳島大院・工)・水谷雅裕(国交省・高松技調)
PB2-002	アサリ <i>Ruditapes philippinarum</i> 、イソシジミ <i>Nuttallia olivacea</i> およびサビシラトリガイ <i>Macoma contabulata</i> による底質改変作用と底生珪藻群集に対する影響 金谷弦・野畑英・戸谷輝正(東北大院・理)・菊地永祐(東北大・東北アジア研究センター)
PB2-003	東京湾小櫃川河口干潟における底泥の有機物分解活性 広木幹也・野原精一(国立環境研究所)・花菱香奈(帝京大・理工)・宇田川弘勝(日本学術振興会)・佐竹潔・矢部徹(国立環境研究所)
PB2-004	わが国における干潟底質の化学的および鉱物学的特性 宇田川弘勝(日本学術振興会)・広木幹也・野原精一・矢部徹・佐竹潔・河地正伸(国立環境研究所)
【物質循環】	
PB2-005	山地小溪流の河床地形特性とリター分布様式の関係 小林草平・加賀谷隆(東大・農)
PB2-006	溪流の落葉リター分解に対して水生昆虫の機能的多様性は存在するか 奥田青州・加賀谷隆(東大・農)
PB2-007	初夏における生葉や花の流入が溪流棲シュレッダーの成長・発育に与える影響 河内香織・加賀谷隆(東大院・農)・柳井清治(北海道工業大)
PB2-008	脂肪酸分析を用いたウデフリクモヒトデ <i>Ophiocoma scolopendrina</i> の餌資源推定 田村 裕・土屋 誠(琉球大院・理工)
PB2-009	鳥がつなぐ森と海 ~ アオサギの繁殖活動が林床の生物群集に及ぼす影響 ~ 上野 裕介・堀 正和・野田 隆史(北大院・水産)
PB2-010	チュウシャクシギ <i>Numenius phaeopus</i> が摂食活動により干潟上で果たす役割について 松原 圭(琉球大・理工)・土屋 誠(琉球大・理)
PB2-011	生態学と気象学 桜谷 保之(近畿大・農)
PB2-012	陸上生態系-大気間のCO ₂ 交換に伴う安定炭素同位体比分別効果に関する全球シミュレーション 伊藤 昭彦(地球フロンティア生態系領域)
PB2-013	多雪地域の冷温帯林生態系における雪面からのCO ₂ 放出源の解明 内田雅己(岐阜大・流域圏科学研究センター)・莫文紅(筑波大・生物科学系)・中坪孝之(広島大院・生物圏)・小泉博(岐阜大・流域圏科学研究センター)
PB2-014	冷温帯林生態系における土壌呼吸量の年変動とその要因 莫文紅(筑波大・生物)・李美善(環境研)・内田雅己(岐阜大・流研)・三枝信子(産総研)・鞠子茂(筑波大・生物)・小泉博(岐阜大・流研)
PB2-015	微気象学的方法によって測定された冷温帯林における生態系純生産量の年々変動 三枝信子・山本晋・村山昌平・近藤裕昭(産業技術総合研究所)
PB2-016	冷温帯落葉広葉樹林の林床ササ群落による土壌呼吸起源CO ₂ の吸収 近藤 美由紀・村岡裕由(岐阜大・流域圏科学研究センター)・内田昌男(海洋科学技術センター)・小泉博(岐阜大・流域圏科学研究センター)
PB2-017	安比高原ブナ林における土壌二酸化炭素フラックスの季節変動 木部 剛・増沢武弘(静岡大・理)・粟屋善雄(森林総研・東北)
PB2-018	カラマツ林生態系における呼吸起源二酸化炭素の炭素安定同位体比の変動 高橋善幸・町田敏暢・遠嶋康徳・藤沼康実・井上元(国立環境研究所)
PB2-019	自然林構成種の幼木植栽による20~30年生環境保全林は、どの程度二酸化炭素を固定するか? 宮内 大策・藤原 一繪(横浜国大院・環境情報)
PB2-020	マレーシア熱帯雨林における二酸化炭素フラックスの長期変動 斎藤琢・熊谷朝臣・佐藤嘉展(九大)・諸岡利幸・O.J. Manfroï・蔵治光一郎・鈴木雅一(東大)
【物質循環 - 分解】	
PB2-021	キシヤサデの周期発生は、森林土壌のバクテリア・糸状菌比を変化させるか? 豊田 鮎・金子信博・伊藤雅道(横浜国大・土壌生態)
PB2-022	キシヤサデ周期発生に伴う林床有機物の変動 橋本みのり・金子信博・伊藤雅道(横浜国大・環境情報)
PB2-023	土壌の炭素 窒素からみた土壌動物によるバイオターベーション 松田久美子・金子信博(横浜国大院)
PB2-024	分解系におけるフトミミズとヒメフナムシの相互作用の解析1. 土壌生物への影響 金子信博・古川祐美・豊田鮎・内田智子(横国大・土壌生態)・日浦勉(北大フィールドセ)
PB2-025	分解系におけるフトミミズとヒメフナムシの相互作用の解析2. リター分解と土壌養分への影響 古川祐美・金子信博(横国大・土壌生態)・高橋姿・日浦勉(北大フィールドセ)
PB2-026	窒素、炭素の安定同位体比によるフトミミズ類の餌資源利用の解析 内田智子・金子信博・伊藤雅道(横浜国大・環境情報)・二神和靖・佐々木健志(琉球大)・杉本敦子(京大・生態研センター)
PB2-027	安定同位体を用いたシロアリとミミズの食性と機能の比較について 陀安一郎・兵藤不二夫(総合地球環境学研究所)・Souleymane Konate・Jerome E. Tondoh(コートジボワール・アボボアジャメ大学)・Patrick Lavelle(フランスIRD・熱帯土壌生態学)
PB2-028	生息環境がシロアリの空中窒素固定活性に及ぼす影響とシロアリの生態系機能 山田明德(京大生態研センター/理研)・井上徹志(科技団ICORP/理研)・杉本敦子(京大生態研センター)・Decha WIWATWITAYA(Kasetsart Univ.)・大熊盛也(理研/科技団ICORP)・工藤俊章(科技団ICORP/理研/横浜市大院)
PB2-029	リターのパッチ状堆積の意義 - 落葉分解と地表徘徊性捕食者に対する影響 - 定美津穂・加賀谷隆(東大・農)
【植物群集・群落 - 植生解析・温暖化】	
PB2-031	NOAA画像を利用した西シベリアチャニー湖沼群の環境の年変動解析 鹿野秀一(東北大・東北アジア)・河野公一(東北大・大教センター)・工藤純一・菊地永祐(東北大・東北アジア)
PB2-032	MODISデータがもたらした生態研究の可能性 原慶太郎・須崎純一(東京情報大・環境情報)・安田嘉純・朴鍾杰(東京情報大・情報システム)

PB2-033	ハイパースペクトルリモートセンシングによる河畔植生の分類と侵略的外来種ハリエンジュの分布域推定 高橋俊守・安岡善文(東京大・生産技術研)一澤麻子(小田原女子短大)	PB2-050	分光法を用いた植物プランクトンの識別と定量 黒豆健太郎・Lokuhewage Asha Udayamali・豊岡了(埼玉大院・理工)・古里栄一(環境水理研究所)
【植物群集・群落 - 自然攪乱・人為的影響】			
PB2-034	分類樹解析を用いたブナ林とミズナラ林の気候条件による判別 八木橋勉・松井哲哉(森林総研)・中谷友樹(立命館大学文学部)・埜田宏(森林総研・四国)・田中信行(森林総研)	PB2-051	三宅島の火山噴出物上における植生遷移 広木詔三(名古屋大・人間情報)
PB2-035	森林の空撮画像による画像特徴を用いた樹冠解析 小村良太郎・久保守・鎌田直人・村本健一郎(金沢大学)	PB2-052	三宅島における2000年の噴火が森林群落とそのリターンフォール量に及ぼす影響 羽柴敬子(筑波大・生物資源)・上條隆志(筑波大・農林)・島田和則(森林総研)・加藤拓(筑波大・生命環境)・樋口広芳(東京大・農学生命)
PB2-036	A comparative study of predictive distribution models: an example in <i>Fagus crenata</i> forests 松井哲哉(森林総研)・中谷友樹(立命館大・文)・八木橋勉・田中信行(森林総研)・埜田宏(森林総研・四国)	PB2-053	北海道渡島駒ヶ岳1996年噴火被害域の植物群集 Titus, J.H.・露崎史朗(ロコロンビア大学バイオスフェア2・北大院地球環境)
PB2-037	環境要因に基づく潜在自然植生の推定と地図化 - 種レベルからのアプローチ - 楠本良延・藤原一繪(横浜国立大院・環境情報)	PB2-054	富士山の森林限界 宝永第二火口外縁部における多年生草本植物の種子繁殖 寺内聡・木部剛・増沢武弘(静岡大・理)
PB2-038	生態資源のメッシュ法解析に基づく空間類型の試み 矢ヶ崎朋樹(国際生態学センター)鈴木邦雄(横浜国立大院・環境情報)	PB2-055	カムチャッカ半島針広混交林における山火事後の実生定着過程 本間航介・金子洋平(新潟大・農・フィールド科学セ)・北村系子(森林総研)・高橋耕一(信州大・理)・石井宏明(神戸大・農)・Valentina P. Vetrova・Marina P. Vyatkina(カムチャッカ生態学自然保護研)・奥田将己(北大・地環研)・Jiri Drezal・隅田明洋・原登志彦(北大低温研)
PB2-039	植生図化による遷移の把握 黒田有寿茂・向井誠二・豊原源太郎(広島大院・理)・宮島自然植物実験所)	PB2-056	森林火災による東カリマンタン低地熱帯雨林の蘚苔類相の変化 山口富美夫(広島大院・理)・Florentin Indah Windadri・Ida Haerida(RCB, LIPI, Indonesia)・清水英幸(国立環境研究所)
PB2-040	アフリカにおける近年の環境変動と植生遷移 - ケニア山、キリマンジャロ、ナミブ砂漠を例に - 水野一晴(京都大院・アジア・アフリカ地域研究研究科)	【植物群集・群落 - 森林】	
PB2-041	東北地方のオオシラビソにおける現在、50年前、100年前の成長量-地球環境変化の影響は現れているか?- 福田貴文・酒井暁子・酒井聡樹(東北大院・生命科学)	PB2-057	沖積錘末端付近におけるハルニレ林の立地特性 和田美貴代・菊地多賀夫(横浜国立大院・環境情報)
【植物群集・群落 - 草原・湿地・水系】			
PB2-042	中間湿原の消失に関わる生態的要因 白川勝信(広島大・国際協力)	PB2-058	若齢パッチを含んだハルニレ林の林分構造 野宮治人(森林総研)
PB2-043	奥日光戦場ヶ原湿原における植物群落の分布と微地形の関係 伊藤祥子・谷本丈夫(宇都宮大・農)	PB2-059	太平洋側と日本海側の沖積低地に分布するハンノキ林の立地と種組成の比較 雷 耘, 大野啓一(横浜国立大院・環境情報)・瀬沼賢一(新潟県小千谷市役所)
PB2-044	釧路湿原達古部沼における水生植物の分布 辻 ねむ(阿寒町教育委員会)・立石 明良(東京農業大学)・佐野 修(いしかわ動物園)・大竹 敏博(三洋テクノマリン)・北方 大石(海洋プランニング)・高山 肇(阿寒町教育委員会)・若菜 勇(阿寒町教育委員会)	PB2-060	札幌北部近郊における防風林の植物種組成と森林履歴 近藤 圭・藤原一繪(横浜国立大院・環境情報)
PB2-045	北海道内の湿原におけるハンモック・ミズゴケ3種の成長と気象要素および水文化学環境の関係 矢崎友嗣(北大・農)・矢部和夫(札幌市立高専)・植村滋(北大・フィールド科学センター)	PB2-061	海岸砂丘系アカエゾマツ林の立地環境の評価 西島博樹(新潟大院・自然科学)・中田誠(新潟大・農学部)
PB2-046	宮川中流域の砂礫堆におけるネコヤナギの分布と水際からの比高との関係 中井亜理沙・木佐貴博光(三重大・生物資源)	PB2-062	分布最北限ツバメの沢ブナ林の林分構造 小林 誠・渡邊定元(立正大・地球環境)
PB2-047	神奈川県下の砂浜における砂浜植生の種構成・分布を規定する環境要因の解明 早坂 大亮・藤原 一繪(横浜国立大・環境情報)	PB2-063	中国のブナ林の植生生態学的研究 汪 正 祥・藤原一繪(横浜国立大院・環境情報)
PB2-048	ため池における環境要因の違いが植物相に与える影響 - 兵庫県津名郡北淡町の事例 - 三井雄一郎(兵庫県立淡路景観園芸学校)・岩崎 寛・藤原道郎(姫路工業大・自然・環境科学研)	PB2-064	中国揚子江下流域周辺地域の <i>Quercus</i> を中心とした夏緑広葉樹林と西日本のコナラ林との比較 鈴木伸一(国際生態学センター)
PB2-049	南極湖沼底の蘚類植生 伊村 智・工藤 栄・神田 啓史(極地研, 総研大)	PB2-065	埼玉県秩父山地の蛇紋岩...珪質岩地における樹木の空間分布特性 尾澤彰・渡邊定元(立正大・地球環境)

<p>【動物群集】</p>	<p>PB2-082 ヒノキ造林地におけるウダイカンバの存在が土壌動物群集に与える影響 長谷川元洋(森林総研木曽試験地)・伊藤雅道(横浜国大)</p>
<p>PB2-067 生物群集と空間スケール(その1):新しい群集生態学-スケール横断研究から生物群集の一般理論を探る 野田隆史(北大・水産科学)・奥田武弘(北大・水産学部)・山本智子(鹿児島大・水産)・伊藤憲彦(千葉大・理)・仲岡雅裕(千葉大・自然科学)</p>	<p>PB2-083 金沢市の里山のキノコと昆虫の生態的相互関係 赤石大輔(金沢大院・生態)・中村浩二(金沢大・生態)</p>
<p>PB2-068 生物群集と空間スケール(その2):センチメートルからメガメートルに至る群集構造の階層性 仲岡雅裕(千葉大・自然科学)・野田隆史(北海道大・水産)・奥田武弘(北海道大・水産)・山本智子(鹿児島大・水産)・伊藤憲彦(千葉大・理)</p>	<p>PB2-084 日本産アザミ属の頭花を利用するゾウムシ,ミバエ相とその資源利用様式 中村 晃規・中村 浩二(金沢大・理)</p> <p>PB2-085 アブラムシを中心としたヨモギ上の節足動物群集構造の場所間比較 玉沢智人・安田弘法(山形大・農)</p>
<p>PB2-069 生物群集と空間スケール(その3): trophic structureの空間的変異のスケール依存性 山本智子(鹿児島大・水産)・伊藤憲彦(千葉大・理)・仲岡雅裕(千葉大院・自然科学)・野田隆史・奥田武弘(北大・水産)</p>	<p>PB2-086 樹液に集まる昆虫の群集 - 「資源」と「行動」からのアプローチ - 吉本 治一郎・西田 隆義(京大・農)</p> <p>PB2-087 竹筒トラップによる生物多様性の評価 遠藤知二・井上牧子(神戸女学院大・人間科学)</p>
<p>PB2-070 生物群集と空間スケール(その4):生産性・多様性関係の空間スケール依存性 伊藤憲彦(千葉大・理)・仲岡雅裕(千葉大・自然科学)・野田隆史(北海道大・水産)・奥田武弘(北海道大・水産)・山本智子(鹿児島大・水産)</p>	<p>PB2-088 テントウムシ類の生息環境と調査方法の検討 川端 健人・桜谷 保之(近畿大・農)</p> <p>PB2-089 食糞性コガネムシ類のエサ資源選好性個体群間比較 - 種間・個体群間で異なる選好性のパターン - 古知 新(京大院・農)</p>
<p>PB2-071 生物群集とその空間スケール(その5):固着生物の多様性の空間変異性とその決定プロセス 奥田武弘(北海道大・水産学部)・山本智子(鹿児島大・水産学部)・仲岡雅裕(千葉大・自然科学研)・伊藤憲彦(千葉大・理)・野田隆史(北海道大・水産科学)</p>	<p>PB2-090 Seasonal change in species composition and abundance of ants in small yard grounds in West Java, Indonesia Henny Herwina Koji Nakamura (Inst. Nature and Environmental Technology, Kanazawa Univ.), Kyosuke Ohkawara (Fac. Science, Kanazawa Univ.), Ito Fumionori (Fac. Agriculture, Kagawa Univ.)</p>
<p>PB2-072 石垣島サンゴ礁池内のスズメダイ科魚類群集組成とその指標化 洪野拓郎・高田宜武(水研セ・西海水研・石垣)・藤岡義三(水研セ・中央水研)・大葉英雄(東水大)・阿部寧・橋本和正(水研セ・西海水研・石垣)</p>	<p>PB2-091 二次林伐採後のトビムシ群集の変化 中川宏治(京大・森林生態)</p> <p>PB2-092 落葉二次林のヨコバイ相は環境指標になりうるか 尾崎光彦・藤原一繪(横浜国立大院・環境情報)</p>
<p>PB2-073 サンゴ礁魚類の群集構造と動態:パッチ状ハビタットの連続性の影響 名波敦・西平守孝(東北大学・院・理・生物)</p>	<p>PB2-093 森林の構造的な複雑性とショウジョウバエ群集の多様性 田辺 慎一(北海道大・低温科学研)</p> <p>PB2-094 『秩父ブナ・イヌブナ林でのギャップと地上徘徊性動物群集』 大平淳・久保田耕平(東大・農)</p>
<p>PB2-074 サンゴ・ホシムシ共生系:非固着性スツボサンゴの砂泥底への適応 青木 香奈子・西平 守孝(東北大・理)</p>	<p>PB2-095 カミキリムシ科とコメツクムシ科の様々な森林タイプにおける種多様性の比較 大澤正嗣(山梨県森林総合研究所)</p>
<p>PB2-075 Maintenance of a high-latitude coral community at Amakusa Islands, Southwestern Japan Yoko Nozawa, Mutsunori Tokeshi, Satoshi Nojima (Amakusa Marine Biological Laboratory, Kyushu Univ.)</p>	<p>【動物群集 - 種間関係】</p> <p>PB2-096 奈良県大台ヶ原における二ホンジカのみヤコザサに対する被食が植食性昆虫に与える影響 田中由希子(奈良女大)・伊藤正仁(名大・生命農学)・福本浩士(三重県)・柴田勲(名大・生命農学)・佐藤宏明(奈良女大)</p>
<p>PB2-076 沖縄本島における稚サンゴの分布状況 部奈 千晶(琉球大・理工)</p>	<p>PB2-097 アリは本当にシジミチョウを守っているのか? - ミヤマシジミについての実験的検証 - 望月健児・市野隆雄(信州大・理)</p>
<p>PB2-077 石垣島東海岸におけるサンゴ礁に加入するベントス群集の指標化 高田宜武・澁野拓郎・阿部 寧・橋本和正(西海区水産研究所石垣支所)</p>	<p>PB2-098 寄主植物周囲の植生配置とアリによるオオムラサキ幼虫の死亡率との関係 田中 絵里(宇大・農)・小林 隆人(長坂町オオムラサキ公園)</p>
<p>PB2-078 赤土によって誘導されるサンゴの遺伝子 橋本和正・澁野拓郎・阿部 寧・高田宜武(西海水研石垣)・萱野英子(東大工)・田中宥司・萱野暁明(農業生物資源研究所)</p>	<p>PB2-099 ネムノキマメゾウムシの成長過程におけるトップダウン効果、ボトムアップ効果および競争の効果 坂田はな・石原道博(大阪女子大・理) 嶋田正和(東京大・広域システム)</p> <p>PB2-100 ヤナギルリハムシの生活史と個体群動態を変化させるヤナギゲンバイからの間接効果 松岡美智子・阪本真由美・石原道博(大阪女子大・理)・部坂和代(広島大・生物圏)</p>
<p>PB2-079 光量子量・濁度の周年変動とサンゴ光合成収支との関連 阿部 寧・高田宜武・澁野拓郎・橋本和正(西海水研・石垣)</p>	
<p>PB2-080 枯死材の特性、キノコ種とキノコ食昆虫群集の関係 高橋一男(東京大院・森林動物)・都野展子(長大・熱医研)・加賀谷隆(東京学院・森林動物)</p>	
<p>PB2-081 気象要因がキノコの発生消長と発達過程に与える影響-キノコ食昆虫群集の資源利用様式と関連して- 山下聡・肘井直樹(名大院・生命農)</p>	

PB2-101	共生関係と捕食関係がアブラムシ密度決定におよぼす影響 滝澤匡(岩手大学・連合農学)・安田弘法(山形大学・農学部)	【保全生態学 - 希少種】 PB2-121 急速に絶滅に向かう小笠原のカタマイマイ類 大河内勇(森林総合研究所)・千葉聡(東北大学)・大林隆司(東京都小笠原亜熱帯農業センター)・佐藤大樹(森林総合研究所)
PB2-102	寄主体液摂取と寄生蜂間の間接効果をもたらす1寄主-2寄生蜂系カオスChaos in 1host-2parasitoid system induced by host-feeding and indirect effect of parasitoids 津田みどり(九大院・農)	PB2-122 オオムラサキとゴマダラチョウの越冬幼虫の分布の違い 小林隆人(長坂町オオムラサキ自然公園)
PB2-103	マメゾウムシ2種と寄生蜂の3者系の共存持続性:行動からみた動態の理解 石井弓美子・嶋田正和(東大・広域システム)	PB2-124 絶滅危惧種シャープゲンゴロウモドキの食性 西原昇吾・宮下直(東大・農)
PB2-104	被食・捕食の相利共生 笠井 敦・矢野修一・高藤晃雄(京大院農・生態情報)	【保全生態学 - 移入種】 PB2-125 小笠原の移入種セイヨウミツバチの訪花特性 安部哲人(森林総研)
PB2-105	キノコ食ショウジョウバエ類の共存に及ぼす寄生蜂のトップダウン効果について:量的食物網解析 萬屋 宏(北海道大学・低温科学研)	PB2-126 北海道日高地方における定着したセイヨウオオマルハナバチの生態 (1)生活史と巣の発達様式 松村千鶴・角谷拓(東京大・保全生態)・横山潤(東北大・生命科学)・鷲谷いづみ(東京大・保全生態)
【景観生態学・生物多様性】		
PB2-107	学校ビオトープ池における水生昆虫群集~保全教育への活用~ 後藤 章・鷲谷いづみ(東京大・農学生命)	PB2-127 北海道日高地方における定着したセイヨウオオマルハナバチの生態 (2)花資源利用と在来種との競合 横山潤(東北大・生命科学)・松村千鶴・角谷拓(東大・保全生態)・中島真紀((株)環境指標生物)・鷲谷いづみ(東大・保全生態)
PB2-108	休耕田を復田するとカエルは増えるか。 福山欣司(慶応大・生物)	
PB2-109	ため池の底生動物群集、特に周辺の土地利用及び水草植生との関係 加藤秀男・高村典子(国立環境研究所)・角野康郎(神戸大学・理)・三橋弘宗・田中哲夫(兵庫県人と自然の博物館)・中川恵(環境研究センター)・村上俊明(地域生態系保全)	PB2-128 セイヨウオオマルハナバチvs.クロマルハナバチ~閉鎖実験系における採餌効率の比較~ 中島真紀((株)環境指標生物)・牧野崇司・横山潤・酒井聡樹(東北大院・生命科学)
PB2-110	ため池に出現するトンボ群集の座標付け 高村典子(国立環境研究所)・青木典司(神戸市教育委員会)・三橋弘宗・田中哲夫(兵庫県人と自然の博物館)・角野康郎(神戸大学)・中川恵(環境研究センター)	PB2-129 マルハナバチの商品化に伴う生態学的問題~マルハナバチの遺伝的分化の実態及び寄生生物が及ぼす影響~ 丹羽里美・五箇公一・大矢陽一(国立環境研究所)・米田昌浩(アビ株式会社)
PB2-111	トンボの種多様性決定要因 角谷 拓・須田 真一・鷲谷いづみ(東大農・保全生態)	PB2-130 クワガタムシの商品化に関わる生態学的問題~遺伝的攪乱と寄生性ダニの持ち込みの実態について~ 五箇公一(国立環境研究所)・小島啓史(ニフティ昆虫フォーラム)
PB2-112	日本各地の河川沿いのトンボ相の長期変化(2) 生方秀紀(北教大・釧路)	
PB2-113	生息場所としての複合生態系の地図化:森林と河川にまたがって生活するカワトンボ 椿 宜高(国立環境研究所)	
PB2-114	人工湿原の移植後12年間の植生動態 西本 孝(岡山県自然保護センター)・波田善夫(岡山理科大学)	
PB2-115	表土を戻す事は畦畔植物の保全と復元にどこまで有効か? 武林 周一郎(神戸大・理)	
PB2-116	アサザの更新における水位変動パターンの重要性 高川晋一・西廣淳・鷲谷いづみ(東京大院・農生)	
PB2-117	Role of grass like species on the aquatic habitat management Shiromi Karunaratne and Takashi Asaeda (Dept. Environmental Science and Human Engineering, Saitama Univ.)	
PB2-118	茨城県南部における絶滅危惧植物タコノアシ自生地の群落構造と立地特性 大黒俊哉(農業環境技術研究所)・姜賢敬(祥明大学)・井手任(農業環境技術研究所)	
PB2-119	谷津田の復元活動に伴う生物相変化 松本武尊・中村浩二(金沢大・理)	
PB2-120	新角間川ビオトープの環境と生物相 長島志津子・松浦友紀・中村浩二(金沢大・理)	

【種分化・系統進化】		
PA3-001 高等シロアリ腸内の原生動物と共生メタン生成古細菌 井上徹志(科技団ICORP/理研)・山田明德(京大生態研センター/理研)・本郷裕一(科技団ICORP/理研)・Napavarn Noparatnaraporn(カセサート大、タイ)・工藤俊章(科技団ICORP/理研/横浜市大院)	PA3-016 雑食と食物連鎖の安定性 - 非線型動態 - Omnivory and stability of food chains - Nonlinear dynamics 田辺久美・難波利幸(大阪女子大・理)	
PA3-002 昆虫腸内細菌DNA保存法のT-RFLP法を用いた比較 本郷裕一(科技団ICORP)・Pinsurang Deevong(カセサート大学)・井上徹志(科技団ICORP)・守屋繁春(科技団ICORP・理研)・Savitr Trakulnaleamsai(カセサート大学)・大熊盛也(科技団ICORP・理研)・Napavarn Noparatnaraporn(カセサート大学)・工藤俊章(科技団ICORP・理研)	PA3-017 雑食と食物連鎖の安定性 - 平衡状態と連鎖の長さ - 難波利幸・佐藤知佳子(大阪女子大・理)	
PA3-003 シロアリ共生鞭毛虫 <i>Pseudotrichonympha</i> 属の分子系統解析 北出理(茨城大・理)	PA3-018 捕食者-被食者系における非対称な異常揺動 伊藤悠・泰中啓一・坂田智之(静岡大学)	
PA3-004 日本産シロアリにおける外部寄生菌 <i>Termitaria</i> の宿主特異性と系統進化 北條優・三浦徹(東大院・総合文化)・前川清人(富山大・理)・岩田隆太郎(日大・生物資源)・松本忠夫(東大院・総合文化)	PA3-019 送粉者の相互作用と特殊化 三宅崇(九州大・理)	
PA3-005 キノコシロアリ亜科におけるキノコ栽培の役割とその進化 兵藤不二夫・陀安一郎(総合地球環境学研究所)・井上徹志(理化学研究所)・前川清人(富大・理)・三浦徹(東大・広域)・竹松葉子(山口大・農)・松本忠夫(東大・広域)・東順一(京大・農)・安部琢哉(京大・生態研)	PA3-020 宿主集団の個体群動態と病原体系統樹 川口勇生・佐々木顕(九大院・理)	
PA3-006 アリ植物-アリ-カイガラムシ3者共生系の共進化-分子系統による解析- 上田昇平・稲森啓太・市野隆雄(信州大・理)	PA3-021 季節変動SIRモデル-その周期とカオス 加茂将史(九大・理)	
PA3-007 翅形成からみたアリ類の社会進化 後藤彩子・鯨島真哉(東大院・理)・辻和希(琉大院・理)・松本忠夫・三浦徹(東大院・総文)	PA3-022 植物ウイルスに対する宿主抵抗性戦略 岩永 亜紀子(九大院・理)・城間 建二(東京大院・理)・佐々木 顕(九大院・理)	
PA3-008 イヌツゲとモチノキに生息するイヌツゲタマバエの生殖隔離機構 田淵 研・天野 洋(千葉大・園)	PA3-023 進化する植物プランクトンは共存するか? 西野晃子(東北大院・生命科学)	
PA3-009 ウリミバエのperiod遺伝子と交配前生殖隔離 宮竹貴久(岡山大農)・松本顕・谷村禎一(九大・理)・松山隆志(沖縄農試)・上田泰己(東大院・薬)・豊里哲也(宮崎農総試)	PA3-024 藍藻 <i>Microcystis novacekii</i> と緑藻 <i>Scenedesmus quadricauda</i> のケモスタットモデル競争に対する制限栄養濃度と希釈の効果 宮崎龍雄・竹谷薫・富樫辰也(千葉大・海洋バイオシステム研究セ)・中桐齊之・鈴木崇徳・吉村仁(静岡大・工)	
PA3-010 カワトンボ属におけるミトコンドリアDNAと核DNAの地理的変異様式の著しい不一致とその生態学的意味 林文男(都立大・理)	PA3-025 資源の空間的不均一性がプランクトン群集の共存に与える影響: 流体格子モデルシミュレーションによる予測 加藤聡史・河田雅圭(東北大院・生命科学)	
PA3-011 オオミツバチの系統地理学的研究 田中洋之(京大・霊長研)・Roubik, D.W. (STRI)・須賀丈(長野県自然保護研究所)・柳沢直(森林文化アカデミー)・渡辺邦夫・田中美希子(京大・霊長研)・Bastian Jr, S.T. (UP-Mindanao)・Kahono, S. (LIPI)・Mohamed, M. (UMS)	【植物の個体群生態学】	
PA3-012 ヒメハナカミキリ属の種認知に関わる体表炭化水素の種間差 谷垣岳人(京大院・理)・山岡亮平(京工繊・織)・曾田貞滋(京大院・理)	PA3-027 数値地形情報を用いたヤクシマサルスベリの潜在的ハビタットの推定 伊藤 哲・光田 靖・高木正博・野上寛五郎(宮崎大・農)	
PA3-013 側所分布をするオサムシ種間における生殖隔離 久保田耕平・笹川幸治・若林光之・海老原志保・宮崎幸司(東大・農)	PA3-028 里山広葉樹二次林におけるコバノミツバツツジの萌芽更新による個体群維持 相村 英範・石井 弘明・金澤 洋一(神戸大院・自然科学)	
【数理生態学】		
PA3-014 Model selection for management models of Walleye Pollock 箱山 洋・八吹圭三(北海道区水産研究所)	PA3-029 ブナ林下層低木4種の個体群動態 - 幹単位の行列モデルによる解析 - 原 正利(千葉県立中央博物館)・菅野洋(東北大院・農)・平吹喜彦(宮教大・生物)・竹原明秀(岩手大・人文社会科学)	
PA3-015 個体群成長率の数理統計学的手法による植物集団の時空間変動の解析 金子有子(琵琶湖研)・高田壮則(北海道東海大)	PA3-030 ブナ天然林内のチマキザサフラグメントにおける分布構造および成長様式 齋藤智之・清和研二(東北大・院・農)	
【植物個体群の遺伝構造・変異】		
	PA3-031 ナラガシワの個体群維持機構の解明 小林 慶子(近畿大・農)・大住 克博(森林総研・関西) 坂本 望(近畿大・農)	
	PA3-032 ハナノキ天然林の林分構造 生方正俊・上野真一・山田浩雄(林木育種センター)	
	PA3-033 亜熱帯林におけるスタジイ (<i>Castanopsis sieboldii</i>) の更新動態 成川 晃由・久保田 康裕(鹿児島大・教育)	
	PA3-034 大量結実で定着したフタバガキ科樹木 <i>Shorea gibbosa</i> の生残 金子隆之(京大院・農)	
	PA3-035 植物個体群の遺伝構造解析では、どのようなサンプリングをすべきか? 鈴木準一郎(都立大・理)・Tomas Herben(チェコ科学アカデミー・植物学研究所)・牧雅之(東北大・生命科学)	

PA3-036	早池峰山アカエゾマツ集団の遺伝変異と遺伝構造 高橋誠(林木育種センター)・杉田久志・金指達郎(森林総研・東北)・宮本尚子(林木育種センター・北海道)・向田稔(林木育種センター・東北)	PA3-052	雌雄異株性樹木オノエヤナギの個体群動態と性比の推移 上野直人・陶山佳久・清和研二(東北大院・農)
PA3-037	針葉樹の遺伝子流動 ~ スギを事例として ~ 森口喜成(新潟大・自然科学)・谷尚樹(森林総研)・平英彰(新潟大・自然科学)・津村義彦(森林総研)	PA3-053	風媒花が葉のある時期に咲くのか? アキニレの摘葉試験から 野村尚史(京都大院)
PA3-038	サワラ <i>Chamaecyparis pisifera</i> の空間分布とクローン構造 早川武宏・戸丸信弘・山本進一(名大・生命農学)	PA3-054	角間丘陵におけるガマズミ属(スイカズラ科)5種の空間分布とフェノロジーの比較研究 横山将光(金沢大院・生態)・中村浩二(金沢大・理)
PA3-039	大山老齢ブナ林におけるブナ稚幼樹の空間分布と遺伝構造 宗原慶恵・戸丸信弘・山本進一(名大・院)	PA3-055	オオカメノキとオオバクロモジの開花・結実の時空変動: ブナ極相林林床における8年間の追跡 林出美菜・平吹喜彦(宮教大・生物)・原正利(千葉県立中央博物館)・菅野洋・富田瑞樹・木村恵(東北大院・農)
PA3-040	並作年と豊作年におけるブナの種子散布パターンの解析 - マイクロサテライトマーカーを用いた種子親特定 - 富田瑞樹・陶山佳久(東北大院・農)・平吹喜彦(宮城教育大・教育)・上野直人・清和研二(東北大院・農)	PA3-056	人為攪乱がサラノキ属の開花に及ぼす影響-2001年と2002年に観察した開花が示唆すること- 西村千(国環研)・小沼明弘(新潟大院・自然科学)・沼田真也(国環研)・内藤洋子(京大院・農)・奥田敏統(国環境)
PA3-041	カツラ個体群における遺伝構造と親子解析 佐藤匠・井鷲裕司(広島大・総合科学)・崎尾均(埼玉県農林総合研究センター)・大住克博(森林総研・関西)	PA3-057	冷温帯落葉広葉樹林における高木・亜高木の開葉・落葉のタイミング - 個体サイズと斜面位置の影響 - 相川高信・館野隆之輔・武田博清(京大・農)
PA3-042	マイクロサテライトマーカーを用いたオニグルミ低密度林分での花粉流動解析 木村恵・陶山佳久(東北大院・農)・後藤晋・松井理生・高橋康夫(東大・演)・清和研二(東北大院・農)	PA3-058	イタヤカエデとオオモミジの繁殖スケジュール-シミュレーションを使った解析 浦口あや・久保拓弥(北大・地球環境)
PA3-043	マイクロサテライトマーカーを用いたウダイカンパの集団遺伝学的研究 津田吉晃・井出雄二(東大院・農)	PA3-059	キバナアキギリにおける最適な花序の大きささと数~花茎への資源投資コストと送受粉効率からの評価~ 三宅康子・酒井聡樹(東北大院・生命科学)
PA3-044	AFLP法によるヒメアオキ個体群のクローン構造の解析 東直良・伊野良夫(早大・教育)	PA3-060	春日山照葉樹林アカガシ亜属の隔年結果現象 平山大輔(大阪市大院・理)・藤井俊夫(人と自然の博物館)・名波哲・伊東明・山倉拓夫(大阪市大院・理)
PA3-045	花粉散布・種子散布距離の異なるフタバガキ4種の空間的・遺伝的分布パターンの比較 竹内やよい(京大・生態研セ)中静透(総合地球研)田中健太(北大・北方生物圏)	PA3-061	東京・奥多摩地域の二次林におけるミズナラ・コナラ・クリの堅果落下量の変動 森広信子(東京都高尾自然科学博物館)
PA3-046	Phenotypic variation and leaf fluctuating asymmetry in isolated populations of an endangered dwarf birch <i>Betula ovalifolia</i> in Hokkaido, Japan Teruyoshi Nagamitsu, Takayuki Kawahara (FFPRI), Mayuko Hotta (Hokkaido Univ.)	PA3-062	樹木の結実開始サイズ 佐藤佳世子・浅井美樹・紺野康夫(帯広畜産大)
PA3-047	絶滅危惧種ヤクタネゴヨウのアロザイム変異 金谷整一・金指あや子・吉丸博志(森林総合研究所)・手塚賢至(屋久島ヤクタネゴヨウ調査隊)	PA3-063	ボルネオの低地フタバガキ林における繁殖フェノロジーと一斉開花 酒井章子(筑波大)ほか8名
PA3-048	絶滅危惧植物オガサワラグワのマイクロサテライトマーカーの開発と遺伝的多様性の解析~遺伝的多様性に配慮したオガサワラグワの増殖を目指して~ 谷尚樹(森林総研)・河原孝行(森林総研・北海道)・吉丸博志(森林総研)・星善男	PA3-064	マレー半島におけるフタバガキの一斉開花: 今後の予測へ向けて 沼田真也(国立環境研)・安田雅俊(森林総研)・奥田敏統・西村千・吉田圭一郎(国立環境研)・松本淳(東大院・理)・宮崎千尋(東大・空間情報科学セ)・可知直毅(都立大・理)・Nur Supardi Md. Noor(マレーシア森林研)
PA3-049	小笠原諸島のオガサワラグワの倍数性分析 板鼻直米・谷口亨(林木育種センター)・小山朗夫(農業生物資源研究所)	PA3-065	<i>Shorea acuminata</i> (フタバガキ科)における繁殖生態: 開花個体密度と食害が結果率に及ぼす影響 内藤洋子(京大院・農)・小沼明弘(新潟大院・自然科学)・沼田真也・西村千(国立環境研)・津村義彦(森林総研)・奥田敏統(国立環境研)・Lee,S.L.・Norwati,M(マレーシア森林研)・神崎護・太田誠一(京大院・農)
PA3-050	マングローブ(メヒルギ、オヒルギ)の遺伝的多様性と集団間分化について 菅谷貴志(東農大院)・吉丸博志(森林総研)・藤本潔(南山大学)・Suchitra Changtragoon(タイ王室林野局)	【植物個体群の生理生態】	
【植物個体群の生活史戦略】		PA3-066	生活形の異なるカエデ属3種における光合成資源利用効率のサイズ依存的な変化と水分通導性 鍋嶋絵里・日浦勉(北大・苫小牧研究林)
PA3-051	同所的に存在する樹木近縁種のデモグラフィ - 行列モデルによる生活史全体の比較 - 田中浩(森林総研・森林植生)	PA3-067	カラマツ林に侵入した落葉広葉樹稚樹の光利用特性 北岡哲(北大院・農)・石井正・奥山悟・小池孝良(北大・北生園セ)

PA3-068	中央シベリア南北斜面に生育する樹木の成長と光合成特性 小池孝良・オルガ=ジャヤノバ(北大生物圏セ)・森茂太・松浦陽次郎・梶本卓也(森林総研)・アナトリー=プロクシュキン・アナトリー=アバイモフ(スカチエフ森林研究所)	PA3-086	ため池周縁部に生息するクズの光合成特性と水位の関係 岩崎 寛(姫路工業大・自然環境科学研究所)三井雄一郎(兵庫県立淡路景観園芸学校)一ノ瀬友博(姫路工業大学自然・環境科学研究所)
PA3-069	ダケカンバ林冠葉の光合成活性などの季節変化-林床のササ除去区と非除去区と比較 小野 清美・田畑 あずさ・鯨岡 啓輔・加藤 京子・隅田 明洋(北大・低温研)・植村 滋(北大・フィールド科学セ)・原 登志彦(北大・低温研)	PA3-087	湿生植物の種子発芽特性 尾崎 聡子・長井 響子・波田 善夫(岡山理科大・総合情報)
PA3-070	高CO ₂ 濃度条件下における照葉樹スダジイ(<i>Castanopsis cuspidata</i> var. <i>sieboldii</i> Saplings)の光合成特性に関する解析 中村 道長(筑波大院・環境科学)	【植物と動物の相互関係 - 種子散布】	
PA3-071	冷温帯林における人工ギャップ形成後の林床植物の光合成光順化 小口理一・彦坂幸毅(東北大院・生命科学)・日浦勉(北大・苫小牧研究林)・広瀬忠樹(東北大院・生命科学)	PA3-089	ホトケノザの開放花・閉鎖花由来種子のトビイロシワアリによる散布-化学生態学的手法を用いて 寺西眞(京大・生態研センター)・藤原直・白神万祐子・山岡亮平(京都工繊大・繊維)・鈴木信彦(佐賀大・農)・湯本貴和(京大・生態研センター)
PA3-072	ヒバ稚樹はいつ光合成をしているか? -異なる光環境下での光合成能力の季節変化- 櫃間岳・森茂太・金指達郎・下田直義(森林総研・東北)	PA3-090	種子発芽をめぐるサイカチとマメゾウムシのゼロサムゲーム-サイカチマメゾウムシの抜け駆けは可能か?- 高倉耕一(大阪環科研)
PA3-073	カラマツの光合成活性評価のためのPRIの利用 中路達郎(国立環境研・地球環境研究センター)	PA3-091	近畿地方における逸出種アオモジの種子散布者は誰か? 橋本啓史(京都大院・農)・小林望美・村上健太郎・中村彰宏(大阪府立大院・農)・森本幸裕(京都大院・地球環境)
PA3-074	光環境の異なるアカマツの針葉の葉齢と光合成特性 韓慶民(科学技術振興事業団)・川崎達郎(森林総研)・片畑伸一郎・向井讓(静岡大・農)・千葉幸弘(森林総研)	PA3-092	暖地性先駆樹種2種の種子散布機構 吉野知明・藤原一繪(横浜国立大院・環境情報)
PA3-075	常緑樹の光合成能力が落葉樹の光合成能力よりも低いのはなぜか 大曾根陽子・館野正樹(東京大院・理・日光植物園)	PA3-093	河畔林の低木層を優占するゴマキの種子散布特性 郡麻里・鷺谷いづみ(東京大院・農)
PA3-076	光合成に着目した、落葉樹と常緑樹の葉内窒素分配の比較 高島輝之(東北大院・生命科学)	PA3-094	農用林における鳥散布型植物の種子散布 原田直國(農業環境技術研究所)
PA3-077	葉面の濡れが葉のガス交換特性に及ぼす影響 半場祐子(岡山大・資源生物科学研究所)	PA3-095	貯食散布植物にとって大きい種子は散布や発芽に有利か? 杉浦康裕・植村 滋(北大・農)
PA3-078	加圧浸潤法を用いた気孔開閉の不均一性の評価 高梨聡・小杉緑子・谷 誠・大手信人・松尾奈緒子(京大・農)	【動物個体群の生息地選択・移動分散】	
PA3-079	万能な陰葉? : 光-光合成曲線のパラドクス 館野 正樹(東大院・理・日光植物園)	PA3-097	線虫を用いた分散の進化実験: 線虫の分散形質等の解析 糠塚ゆりか・横山潤・河田雅圭(東北大院・生命科学)
PA3-080	雌雄異株植物ヒサカキ果実の光合成特性 鈴木新・寺島一郎(大阪大学・理)	PA3-098	クマノミ類と共生するシライトイソギンチャクの生息場所選択: 拡大空中写真を用いた野外調査による解析 服部昭尚(滋賀大・教育)
PA3-081	落葉広葉樹実生における受光と光合成, 水利用効率のバランスに対するleaf displayの効果 村岡裕由・小泉博(岐阜大・流域圏)・R.W. Pearcy(UC Davis)	PA3-099	マツカサガイの生息環境 秋山 吉寛(北大)・伊藤 寿茂(東水大)・吉田 豊(栃木水試)・丸山隆(東水大)
PA3-082	異なる強度で被陰された落葉広葉樹個葉の解剖学的構造と光合成速度 田中 格(山梨県森林総合研究所)	PA3-100	移入種スクミリンゴガイが生息域を拡大する可能性 伊藤健二(中央農業総合研究センター)
PA3-083	和歌山県田辺市におけるOHラジカル発生水曝露による梅木の光合成能及びバイオマスの変化 尹朝熙・鈴木雅代・Eko Pudjadi・田上公一郎(広島大院・生物圏)・花光重一郎(JA紀南)・玉井浩司・中根周歩(広島大院・生物圏)	PA3-101	河口域のユビナガホンヤドカリの淡水貝(特にスクミリンゴガイ)の貝殻利用 小林 哲
PA3-084	新潟県苗場山ブナ林床に生育する常緑林床植物のエゾユズリハの生存戦略 -光合成特性と光防御機能について- 片畑伸一郎(静岡大・農)	PA3-102	冷温帯の里山に生息する「森林性」ノシメトンボの移動分散 渡辺 守(筑波大・生物科学)・松岡宏樹(三重大・教育学部)
PA3-085	窒素利用に着目した、オオバコにおける光合成系の温度順化の解析 彦坂幸毅(東北大院・生命科学)	PA3-103	「森林性」ノシメトンボにおける異なる温度環境に対応した活動様式の切替 衣笠朋子・渡辺 守(筑波大学・環境科学)
		PA3-104	長野県内におけるクロマルハナバチの分布調査報告 東山了(信州大)
		【動物の個体群動態】	
		PA3-105	複数の空間スケールを考慮した生物の個体数の決定機構の解明: 造網性クモ類を用いたケーススタディ 高田まゆら・宮下直(東大・農)

PA3-106	汽水域のヨシ群落におけるヒスマイトトンボの個体群動態と空間分布 岩田周子・渡辺守(筑波大・環境)	PA3-124	河川トビケラ類グレイザーの集団摂食～分布動態の観点から～ 片野 泉(奈良女子大・人間文化)・三橋 弘宗(兵庫県立人と自然の博物館)・磯辺 ゆう・大石 正(奈良女子大・共生科学研究センター)
PA3-107	金沢市湯涌におけるアオカメノコハムシの個体群動態 小路晋作・中村浩二(金沢大・理)	PA3-125	広食性植食性昆虫における混食の効果 三浦 和美(京大・農)
PA3-108	レッドリスト水生昆虫タガメの卵塊孵化に関する諸要因の解析 真野秋綱・日鷹一雅(愛媛大・農・付属農場)	PA3-126	認知生態学とアフォーダンス～マルハナバチは何に魅せられているのか～ 朝倉 純子・徳永 幸彦(筑波大院・環境科学)
PA3-109	タガメ個体群の幼虫生存率とその変動要因 大庭 伸也・日鷹一雅(愛媛大院・農・農場)	PA3-127	捕食者に攻撃されてから発動する擬死行動は本当に適応的なのか? 本間 淳・西田隆義(京大院・農)
PA3-110	ハンミョウ幼虫における巣穴の空間的動態 竹内 勇一(京大院・理)	PA3-128	安定同位体比測定によるカミキリムシ科2種の空気中窒素利用の可能性の検討 松原 肇・岩田隆太郎・上田真吾・片瀬隆雄・山根明臣(日本大・生物資源)
【動物個体群の遺伝構造・変異】		【動物の繁殖生態・行動】	
PA3-111	Contest between two different contest strains in <i>Callosobruchus analis</i> 真野 浩行(筑波大・生命環境)・徳永 幸彦(筑波大・生物科学)	PA3-129	分散前交尾と変動環境が促す性特異的な分散 廣田 忠雄(ICU・理)
PA3-112	ヤマトシロアリにおけるコロニーの血縁構造 林良信・北出理(茨城大・理)	PA3-130	カワトンボの全繁殖期間を通しての精子の生産率と死亡率の変動 土屋香織・林文男(都立大・理)
PA3-113	外来昆虫ブタクサハムシの飛翔活動性における遺伝変異 田中幸一(農環研)・清水 徹(琉球産経)・守屋成一(中央農研)	PA3-131	アオモンイトトンボの雌二型維持機構について 澤田浩司(香椎高校)・粕谷英一(九大・理)
PA3-114	スラウェシに生息するミツバチ3種の遺伝的分化とその保全 須賀丈(長野県自然保護研)・田中洋之・渡辺邦夫(京大・霊長研)・Kahono, S. (LIPI), Roubik, D.W. (STR)	PA3-132	アオモンイトトンボの野生系と近交系の繁殖力比較: 交尾はいつまで有効か? 中原美理(東大院・農学生命)・楢宜高(国立環境研)
【動物個体群の生活史戦略】		PA3-133	オンブバッタ雄の交尾成功に関わる要因 河合 耕平(神戸大・理)・鈴木 信彦(佐賀大・農)
PA3-115	サケ科魚類イトウの生活史形質の性差とその個体群間変異 江戸 謙顕(道環研)・山本 俊昭(北大・農)・秋葉 健司(野生総研)・川村 洋司(道立水産孵化場)・東 正剛(北大・地環研)	PA3-134	スズムシの交尾行動に対する日齢の影響 栗和田 隆(九州大・理)
PA3-116	エゾサンショウウオ幼生の表現型可塑性: 異なる環境下での異なる反応基準 道前洋文(北大院・理)・西村欣也(北大院・水)・若原正己(北大院・理)	PA3-135	ヒメハナカメムシ類の配偶者選択 小林岳雄・刑部正博・矢野修一・高藤晃雄(京大院・農)
PA3-117	池間におけるニホンインシガメの成長の違い 野田英樹・鎌田直人(金沢大院・自然科学)	PA3-136	マルカメムシの交尾時間のばらつきと雌雄の形質の関係 細川貴弘・粕谷英一(九州大・理)
PA3-118	フクロウ(<i>Strix uralensis</i>)におけるクラッチサイズおよび卵径の二地域集団間比較 樋口亜紀・伊野良夫(早稲田大・教育)・阿部學(日本猛禽類研究機構)	PA3-137	アズキゾウムシの交尾行動: 雌の交尾回数が異なる系統間の比較 桜井 玄・粕谷 英一(九州大・理)
【動物の採食・捕食回避】		PA3-138	コバネハサミムシはなぜ一晩に数十回も交尾するのか? ~雄と雌, それぞれの理由(わけ)~ 上村佳孝(都立大院・理)
PA3-119	捕食者に対するカンザワハダニの空中待避行動 奥 圭子・矢野修一・高藤晃雄(京大院・農)	PA3-139	オオムカシハナバチの雄間闘争と体サイズの関係 島本和宣(九州大・理)
PA3-120	ナミハダニの分散行動にみる体制順応主義 矢野 修一(京大院・農)	PA3-140	均等産卵分布を実現するアズキゾウムシの意思決定過程: ニューラルネットモデルによる解析 瀬戸山雅人(東京大院・総合文化)
PA3-121	ケナガカブリダニのバッチ滞在時間に過去の経験が及ぼす影響 前田太郎(農業生物資源研究所)		
PA3-122	コチャバネセセリ幼虫による笹の葉の新旧の識別 井出純哉(熊本大院・自然科学)		
PA3-123	潜葉虫の寄生蜂の探索戦略と潜孔パターンとの関係 綾部慈子(九大・生防研)・望月敦史(基生研)・上野高敏(九大・生防研)		

【生産生態学】	
PB3-001	植物プランクトン光合成産物の溶存化と微生物による利用 - 有機物の分子量および単糖類組成による解析 - 濱 健夫 (筑波大・生物)・柳 勝美 (九産大・工)
PB3-002	冷温帯落葉広葉樹林における地上部・地下部バイオマスおよび純一次生産量の斜面位置による違い 館野隆之輔・菱拓雄・武田博清 (京都大・農)
PB3-003	冷温帯落葉広葉樹林における細根の現存量と純生産 里村多香美 (広大院・生物圏)・橋本靖 (帯畜大・環境)・小泉博 (岐大・流域圏)・中根周歩 (広大院・生物圏)・堀越孝雄 (広大・総合科)
PB3-004	綾照葉樹林における地上部現存量の変化 佐藤 保 (森林総合研究所)
PB3-005	群落内の光環境推定方法の違いが林床植生の光合成量の推定値に及ぼす影響 酒井徹・村岡裕由・秋山侃(岐阜大・流域圏科学研究センター)・芝山道郎(農環研)
PB3-006	森林伐採跡地における焼畑が生態系純生産量に及ぼす影響 酒向宏範 (岐阜大・流域圏科学研究センター)・大塚俊之 (山梨県環境科学研究所)・内田雅己・津田智・小泉博 (岐阜大・流域圏科学研究センター)
PB3-007	メヒルギ <i>Kandelia candel</i> (L.) Druce 純群落の年間光合成生産量の推定 諏訪諒平・萩原秋男 (琉球大・理)
PB3-008	Does photosynthetic acclimation contribute to carbon gain under seasonal environment in the evergreen understory shrub <i>Aucuba japonica</i> ? Onno MULLER (Tohoku University & Utrecht University), Kouki HIKOSAKA, Tadaki HIROSE (Tohoku Univ.)
PB3-009	A System Approach for Analyzing Pasture Ecosystems from the Compartment Model Huang Daming (Tsinghua Univ., Beijing), Masae Shiyomi (Ibaraki Univ.)
PB3-010	リモートセンシングを用いた中国内モンゴルの保全と持続的利用 3.採草地における生産量の季節変化の予測 川村健介・秋山 侃・堤 道生(岐阜大・流域圏科学研究センター)・横田浩臣 (名大院・生命農学)・汪 詩平 (中科院・植物研)
【物質循環】	
PB3-011	中国青海省高山草原におけるCO ₂ フラックスと環境要因 加藤知道(筑波大・生物科学)・古松 (国環研)・杜明遠 (農環研)・李英年 (中科院西北高原生物研)・趙新全 (中科院西北高原生物研)・唐艶鴻 (国環研)・及川武久 (筑波大・生物)
PB3-012	「青海草原の炭素動態に関する研究」 高山草原の蒸発散とCO ₂ フラックスの動態 古松 (国環研)・加藤 知道 (筑波大)・崔驍勇 (国環研)・李英年・趙新全 (中国科学院西北高原生物研究所)・杜明遠 (農業技術環境研究所)・唐艶鴻 (国環研)
PB3-013	「青海草原の炭素動態に関する研究」 高原湿地生態系におけるCO ₂ ・CH ₄ フラックス 広田充・加藤知道 (筑波大・院・生物科学) 胡后武・曹广民 (中国科学院西北高原研究所)・唐艶鴻 (国立環境研)・関川清広 (玉川大・農)・莫文紅・鞠子茂 (筑波大・生物)
PB3-014	「青海草原の炭素動態に関する研究」 通気法と渦相関法による夜間CO ₂ フラックスの比較 関川清広 (玉川大・農)・広田充・加藤知道・莫文紅 (筑波大・生物科学)・小泉博 (岐阜大・流研センター)・鞠子茂 (筑波大・生物科学)・唐艶鴻 (国立環境研)
PB3-015	Temperature and moisture effects on respiration of soils from lowland grassland and alpine meadow Jaeseok LEE(NIES,China), Yinnian LI, Xingquan ZHAO(NPIB,China), Masayuki YOKOZAWA (NIAES,Japan) and Yanhong TANG (NIES,Japan)
PB3-016	[青海草原の炭素動態に関する研究] Chlorophyll fluorescence and CO ₂ uptake in response to dynamic light in three alpine species. Xiaoyong CUI, Yanhong TANG (NIES,Japan), Shengbo SHI, Seiichi(NPIB,China),Sinichi NISHIMURA (NIAES,Japan), Song GU(NIES,Japan), Xinquan ZHAO(NPIB,China)
PB3-017	高地草原における植物群集:季節的な放牧が群落構造に与える影響 安田泰輔・塩見正衛・堀 良通・河原崎里子 (茨城大・理)・周華坤 (中国西北高原生物研)・唐艶鴻 (国立環境研)
PB3-018	「青海草原の炭素循環に関する研究」 高地草原における植物群集 季節的な放牧がバイオマス分布に与える影響 陳 俊・安田 泰輔・山村 靖夫・塩見 正衛・堀 良通 (茨城大・理)・周華坤 (中国西北高原生物研)・唐艶鴻 (国立環境研)
PB3-019	「青海草原の炭素動態に関する研究」 草原植物の現存量に及ぼす種多様性の影響 唐艶鴻・呉 静 (国立環境研究所)・塩見 正衛 (茨城大学)・周広勝 (中国植物研究所)
PB3-020	「青海草原の炭素動態に関する研究」 家畜糞を通じて排出される炭素量の推定 市河三英・光岡佳納子・松島昇 (財自然環境研セ)・趙新全 (中国西北高原生物研)・唐艶鴻 (国立環境研)
【物質循環 - 分解】	
PB3-021	同一斜面上の林齢の異なるスギ人工林におけるリターバグの消失速度の比較検討 首藤 勝之 (広島大院・生物圏科学)
PB3-022	伐採が里山二次林におけるリター分解に及ぼす影響 石川 寛・大園 享司・中川 宏治・武田 博清 (京都大院・農)
PB3-023	平地雑木林と高地ブナ林におけるリター生成・分解速度の季節変化 石川真一・亀沢秀一 (群馬大・社会情報)
PB3-024	Comparison of litter decomposition of <i>Pinus thunbergii</i> litter between natural and pine plantation forest Bhatta, Balram K., Osono, Takashi, Takeda, Hiroshi (Kyoto Univ., Graduate School of Agriculture)
PB3-025	Decomposition of Water Hyacinth (<i>Eichhornia crassipes</i>) under Aerobic Environment Nimal P.D. Gamage, Takashi Asaeda (Dept.Environmental Science and Human Engineering,Saitama Univ.)
PB3-026	Nutrient return through litterfall in a subtropical forest, Okinawa, Japan L. ALHAMD, A. HAGIHARA, E. KAWAMITSU (琉球大・理工)
PB3-027	山地斜面における落葉リターの滞留と分解に影響を与える倒木の特性 時岡あき子・加賀谷隆 (東大・農)
PB3-028	落葉広葉樹二次林における枯死木分解呼吸量の季節変動 上村 真由子 (神戸大院・自然科学) 小南 裕志 (森林総合研究所・関西) 金澤 洋一 (神戸大院・自然科学) 後藤 義明 (森林総合研究所・関西)
PB3-029	ランビル熱帯多雨林の材分解速度の局所変動 森早苗・名波哲・伊東明(大阪市大院・理)・S. Tan, L. Chong (サワク森林局)・山倉拓夫(大阪市大院・理)

PB3-030	大台ヶ原における二ホンジカの糞の消失過程 古澤仁美 (森林総研・関西)・神田奈美(奈良女子大学)・金子真司・日野輝明・上田明良(森林総研・関西)	PB3-048	兵庫県北部におけるトチノキ林の種多様性 窪田 圭多 (神戸大院・総合人間科学)・伴 亜矢子・武田 義明(神戸大学・発達科学)
PB3-031	硫黄荒原における有機物分解と微生物活性 吉竹 晋平(広島大・総合科学)・佐々木 晶子(広島院・生物圏)・内田 雅己(岐阜大・流環研)・船津 勇一(広島大院・生物圏)・中坪 孝之(広島大院・生物圏)	PB3-049	都市部に残存する孤立二次林の面積と種多様性 戸井可名子(神戸大院・総合人間科学)・武田義明(神戸大・発達科学)・石田弘明・服部保(姫路工業大・自然環境科学)
PB3-032	ヤブツバキ葉の初期分解過程と菌類動態 小出奏・大園享司・武田博清(京大・農)	【植物群集・群落 - 自然攪乱・人為的影響】	
PB3-033	ミズキ落葉の分解にともなう葉圏菌類の遷移 大園享司(京大・農)・Balram K. Bhatta(京大・農)	PB3-050	土石流上の地表変化と植物の分布 池田史枝・菊池多賀夫(横浜国立大院・環境情報)
PB3-034	尿素攪乱土壌で検出された多様な菌根タイプ群—その紹介と展望 今村彰生(京都大院・人間環境)湯本貴和(京都大・生態学研究センター)	PB3-051	斜面崩壊地に分布するサキシマスオウノキ (<i>Heritiera littoralis</i>) 林分の更新維持機構 寺岡 安理(京都大院・農)
【植物群集・群落 - 種間関係・種多様性】			
PB3-036	「鬼の居ぬ間」メカニズムは森の木々の共存を促進するか? 竹中明夫(国立環境研究所)	PB3-052	奥秩父大山沢溪畔林における林床植生の分布と立地環境 川西基博(横国大・環境情報)・崎尾 均(埼玉農林総合研究センター)・大野啓一(横国大・環境情報)
PB3-037	種の持つ生態的特性からの群集への侵入予測 実測データと図鑑データの比較 田中涼子・小池文人(横浜国立大・環境情報)	PB3-053	溪畔林の林床植生は、河川攪乱の履歴を反映しているか? 上迫正人・三納圭之輔(新潟大院・自然科学)・紙谷智彦(新潟大・農)
PB3-038	ガマとヒメガマの競合優位性の変化 - 緯度と先取り状態による優位性逆転 渡辺 哲広(埼玉大院・理工)・田中規夫(埼玉大・工)・浅枝 隆(埼玉大院・理工)	PB3-054	荒川の堤防植生について 荒井香織・倉本宣(明治大・農)
PB3-039	クロマツ防潮林へのサクラ類とシロダモの侵入パターン 長谷川巧・平吹喜彦(宮城教育大・教育)・長島康雄(仙台市天文台)	PB3-055	多摩川におけるマツヨイグサ属植物の交替現象の要因 小林美絵・倉本宣(明治大・農学部)
PB3-040	春日山原始林における移入種の分布拡大 I. ナギとナンキンハゼの分布と植生構造 前迫ゆり(奈良佐保短大・生態)・名波哲(大阪市立大院・理)・神崎護(京都大院・農)	PB3-056	霧ヶ峰ススキ草原における火入れ放棄が植生変化に及ぼす影響 下田勝久(畜産草地研究所)
PB3-041	春日山原始林における移入種の分布拡大 II. ナギとナンキンハゼの個体群構造 名波哲(大阪市立大院・理)・前迫ゆり(奈良佐保短大・生態)・神崎護(京都大院・農)	PB3-057	The Influence of Environmental Factors on Species Diversity in a Hilly Grazing Land Ai Imahori (Hiroshima Univ.), Yoshitaka Takahashi (National Agriculture Research Center for Western Region), Kazuaki Naito (Himeji Institute of Technology), Nobukazu Nakagoshi (Hiroshima Univ.)
PB3-042	春日山照葉樹林における木本性つる植物の分布と地形の関係 野田 周央・名波 哲・伊東 明・山倉 拓夫(大阪大院・理)	PB3-058	小笠原諸島母島における植物種の分布域 三上光一・小池文人(横浜国立大・学環境情)
PB3-043	人工林林床における天然性稚樹の分布様式 - 稚樹はどこまで人工林に侵入しているか - 酒井敦・倉本恵生・平田泰雅(森林総研・四国)・佐藤香織(自然環境研究セ)	PB3-059	藤 中国浙江省の農村域における二次林の林分構造 原道郎(姫路工業大・自然環境科学)・原慶太郎(東京情報大)・達良俊・楊永川(華東師範大学)・秦祥(上海自然博物館)
PB3-044	隣接するブナ林と人工林における林床植生と埋土種子集団の種組成の比較 木佐貫博光・巾高志・万木豊・武田明正(三重大・生物資源)	PB3-060	広島県下蒲刈島の植生動態 - 1990年の予測結果と現在の植生 - 太田陽子(広島大・総科)・中越信和(広島大院・国際協力)
PB3-045	ハンノキ・ハルニレ・ヤチダモの更新様式の比較大坂哲也(帯広畜産大学大学院)	PB3-061	香川県豊島の植生〔地質・地形と植生の関わりについて〕 森定 伸((株)ウエスコ)・山崎 通敬・太田 謙・能美洋介・波田善夫(岡山理科大・総合情報)
PB3-046	カムチャツカ半島中央低地帯におけるハイマツ(<i>Pinus pumila</i>)のニッチと環境可塑性 奥田 将己(北大・地球環境)・原 登志彦・隅田 明洋(北大・低温研)・本間航介(新潟大・演習林)・石井 弘明(神戸大・自然科学)・V.Vetrova・M.Vyatkina(カムチャツカ生態研)	【植物群集・群落 - 森林】	
PB3-047	筑波山のスギ植林における蘚苔類の種多様性と地形およびシダ植物との関係 杉村康司(千葉大院・自然科学)・沖津進(千葉大・園芸)	PB3-062	岡山県南部の森林植生 - 地形・地質・土壌と植生 - 寺下 史恵・石渡 一江・藤本 哲久・能美 洋介・波田 善夫(岡山理科大・総合情報)
		PB3-063	淡路島におけるウバメガシ二次林の構造と遷移 八木健爾(神戸大院・総合人間科学)・野田浩(東京農工大院・農)・武田義明(神戸大・発達科学)
		PB3-064	九州南部の海岸斜面に成立する林分とその成立要因 久保田要(宮大・田野フィールド)

PB3-065	Woody species diversity and stand structure in a sub-tropical broad-leaved forest grown in a limestone habitat, Okinawa, Japan FEROZ S.M., K. YOSHIMURA, A. HAGIHARA (Faculty of Science, Univ. Ryukyus)	PB3-083	カワゲラの流程分布と生息地環境 吉村真由美(森林総研・四国)
PB3-066	ヤンバル亜熱帯林における原生林と二次林の構造と種多様性 勝田 賢志(鹿児島大・教育)	PB3-084	千曲川上・中流域におけるユスリカ科成虫の分布 平林公男・福永八千代・児玉なな・木村悟朗・中本信忠(信州大・繊維)・山本優(環境科学株)
PB3-067	沖縄本島北部の亜熱帯原生林における林木種とクロヘゴの空間分布 馬場 昭浩・久保田 康裕(鹿児島大・教育)	PB3-085	Spatial resource use in algae-associated crustacean assemblages in tidepools 東 美菜子・渡慶次 睦範(九州大院・理・臨海実験所)
PB3-068	地形傾度に伴う亜熱帯林木群集の構造と動態 村田寛文(鹿児島大・教育)	PB3-086	Water-level change as the major determinant of community structure and productivity of plankton and benthos in tropical oxbow lakes Toshio Iwakuma (Hokkaido Univ.), Sulmin Gumiri, Yulintine (Univ. Palangkaraya), Dede I. Hartoto (Res. Center for Limnology-LIPI)
PB3-069	中部スマトラ熱帯雨林における最近20年間の林分動態(2)ギャップ更新 米田健・水永博巳(鹿児島大・農)・西村千(国環研)・藤井伸二(大阪自然史博)・Rusdji Tamin・Erizal Muktar(アングラス大)・荻野和彦(滋賀県立大)・堀田満(鹿児島県短大)	PB3-087	東京湾小櫃川河口干潟の底生動物群集 佐竹 潔・野原 精一・広木幹也・矢部 徹(国立環境研究所)・宇田川弘勝(科学技術特別研究員)
PB3-070	エルニーニョとラニーニャがサラワク熱帯雨林樹木の枯死率に与える影響 伊東明・山倉拓夫(大阪市大・院・理)・大久保達弘(宇都宮大・農)・Sylvester Tan・Lee Hua Seng(サラク森林局)	PB3-088	太平洋上の空中プランクトンと島嶼の昆虫相に関する研究 村田浩平(九州東海大・総合農学研究所)・増島宏明(東海大学・望星丸)・土屋守正(東海大・理)
PB3-071	西カリマンタン・ブツクリフン国立公園の森林植生 鈴木英治・渡辺名月・藤井栄(鹿大・農)・Tukirin Partomihardjo (LIPI)	【動物群集 - 食物網】	
PB3-072	マレーシア熱帯雨林における樹種間の空間分布パターンの解析 鈴木亮(東京都立大・理)・沼田真也・奥田敏統(国立環境研究所)・可知直毅(東京都立大・理)	PB3-089	自律進化する食物網モデルによる生態系の進化動態解析 伊藤 洋・池上高志・嶋田正和(東大・広域システム)
PB3-073	ハワイ熱帯山地降雨林における土壌栄養塩傾度による林冠高と材解剖特性の変化 清野 達之(京大・生態研セ)・岡田直紀(京大・農)・北山 兼弘(京大・生態研セ)	PB3-090	在来種・外来種別にみた植物・アブラムシ・捕食性テントウムシの関係 特にテントウムシの生息状況と生育について 戸田裕子・桜谷保之(近畿大・農)
PB3-074	熱帯ヒース林構成樹種における泥炭の深さと微地形の違いに沿った生育場所の分化 宮本和樹(北大院・地球環境)・鈴木英治(鹿児島大・理)・甲山隆司(北大院・地球環境)・清野達之(北大院・地球環境)・Edi Mirmanto・Herwint Simbolon(インドネシア科学院・生物学研究所)	PB3-091	雑食性捕食者における2つの食物連鎖への依存度の変異性: そのプロセスと帰結 島崎 彩・宮下直(東大・農)
【動物群集】		PB3-092	農地生態系の土壌圏-安定同位体比を用いて食物網を探る - 6施肥、耕起の違いは土壌動物の安定同位体比にどのような影響を及ぼすか 伊澤加恵(信大・理)・藤田正雄(自然農法国際研究開発センター)・藤山静雄(信大・理)
PB3-076	郊外に移転した大学キャンパスにおける生物群集(12)各種植物における訪花昆虫の季節的変動 横井 智之・波部 彰布・香取 郁夫・桜谷 保之(近畿大・農)	PB3-093	農地生態系の土壌圏 - 安定同位体比を用いて食物網を探る - 5畑地に生息するクモの生態的地位 藤田正雄(自然農法国際研究開発センター)・伊澤加恵・藤山静雄(信大・理)
PB3-077	郊外に移転した大学キャンパスにおける生物群集(14)昆虫類のバイオマスの季節的变化 城本 啓子・桜谷 保之(近畿大・農)	PB3-094	ブナ林を流れる溪流における安定同位体を用いた春期の食物網解析 阿部俊夫(森林総研)・布川雅典(北大・農)
PB3-078	金沢城址公園の大規模工事に伴う環境変動がオサムシ相に与えた影響 青森 桂子・中村 浩二(金沢大・理)	PB3-095	川からの系外資源が流域の鳥類群集の動態に与える影響 上杉 あかね(北海道大・地球環境)・村上 正志(北海道大・フィールド科学センター)
PB3-079	金沢城公園のチョウ群集の変化(1985~2002年) 大脇 淳(金沢大院・生態)・中村 浩二(金沢大・生態)	PB3-096	落下昆虫の季節的変動による trophic cascade の出現と消失 多々良 和佳・村上 正志・宮坂 仁(北海道大・フィールド科学センター)
PB3-080	富士山北西麓本栖高原におけるチョウ類群集の年次動態様式 北原正彦・早見正一(山梨県環境科学研究所)	PB3-097	木津川植生域における食物連鎖の解析 八木 立夫・菅野 格朗・小笠原 土・大野 慎介・城本 啓子・桜谷 保之(近畿大・農)
PB3-081	木津川植生域における昆虫類の生態学的研究 - 各植生域におけるチョウ類群集の季節的、年次的変動 - 東條達哉・八木 立夫・菅野 格朗・道岡 康史・小笠原 土・前田 武志・桜谷 保之(近畿大・農)	PB3-098	内陸性塩性湖チャーニー湖(ロシア・西シベリア)における炭素・窒素安定同位体比による食物網解析 土居秀幸(東北大院・生命科学)・菊地永祐・鹿野秀一(東北大・東北アジア研)・Natalia Yurlova・Elena Yadrenkina・Elena Zuykova(ロシア科学アカデミー・動物分類学・生態学研究所)・狩野圭市(東北大院・生命科学)
PB3-082	治山・砂防ダム設置による河川環境改変とそれに伴う生物群集の反応 岸 大弼・前川光司(北大フィールド科学セ)		

PB3-099	海流変動に起因する岩礁潮間帯食物網動態：allochthonous inputが鳥類の捕食活動に及ぼす影響 堀 正和(北大院・水産)	PB3-115	マツ林型里山の植生管理が種多様性に及ぼす影響 佐久間智子・中越信和(広島大院・国際協力)
PB3-100	長期にわたる気候変動が生物に与える影響 - 渡り鳥と植物への影響の比較- 小池重人(新潟・庄瀬中)・樋口広芳(東大・生物多様性)	PB3-116	早春性植物の生育の場としてのクリ畑 加藤 文(神戸大院・総合人間科学)・武田 義明(神戸大)
【景観生態学・生物多様性】		【保全戦略・政策】	
PB3-101	森林レクリエーション計画を背景とした下層植生の分布パターンの把握とその評価 福井晶子(北大・農研)・池上佳志(北大・北方生物圏FSC)	PB3-117	生物多様性保全に資する政策の日米比較 渡辺敦子・鷲谷いづみ(東京大・農学生命)
PB3-102	アリの指標種とした広島市の街区公園の生態学的評価 河野万里子(広島大学・総合科学)	PB3-118	希少性生物の判定基準に関する検討 佐藤一憲(静大・工)
PB3-103	維管束植物の種数 - 面積曲線から見た都市近郊林の環境評価法 - シダ植物を中心に 村上健太郎(きしわだ自然資料館)・松井理恵(京都大院・地球環境)・中村彰宏・前中久行(大阪府立大院・農学生命科学)・森本幸裕(京都大院・農)	PB3-119	変動環境下での保全戦略：最適保全努力と最適調査努力 横溝裕行(九州大院・生物科学)
PB3-104	景観生態学による地域緑地の環境評価 矢内晃子・許琴蘭・大野啓一(横浜大院・環境情報)	PB3-120	『新今西進化論』と保全生態学 水幡正蔵(在野の研究者)
PB3-105	環境アセスメントにおける植物種の網羅的・定量的調査法 - 九州大学移転用地での試み 大井和之(九州環境管理協会)・矢原徹一(九州大・理)	【保全生態学 - 希少種】	
PB3-106	郊外に移転した大学キャンパスにおける生物群集(15)レッドリスト動物種の生息状況と保全対策 前田 武志・桜谷 保之(近畿大・農)	PB3-121	岩手県内のイヌワシ繁殖経過にみられる繁殖失敗の特性 前田 琢(岩手県環境保健研究センター)
PB3-107	線形景観における生物の分布様式と遺伝構造 近藤俊明(広島大学院・国際協力)	PB3-122	利根川下流域のオオセッカの現状 永田尚志(国環研・生物多様性P)
PB3-108	流域を対象とした哺乳類の生息地評価に関する研究 岡部佳容(北海道大院・地球環境)・池上佳志(北海道大・北方生物圏フィールド科学センター)・小野有五(北海道大院・地球環境)	PB3-123	屋上に誘致されたコアジサシ営巣地に成立した植生 柴田 英美・倉本 宣(明治大・農)
PB3-109	散居型農村生態系を構成する屋敷林・孤立林が有する生物多様性の評価 福岡公平・佐藤麻衣子・千葉聖子・平吹喜彦(宮城教育大・教育)	PB3-124	希少猛禽類イヌワシの保全に向けて - 採餌環境をとらえる - 真保 藍子(新潟大・自然科学)
PB3-110	胆沢扇状地における屋敷林の植生的特徴 竹原明秀・村田野人(岩手大・人文社会)・三浦修(岩手大・教育)・福岡公平・荒木祐二・平吹喜彦(宮城教育大・教育)	PB3-125	東アジアに生息するコウノトリ(<i>Ciconia boyciana</i>)の渡り経路の解明とその連続性評価 島崎彦人・田村正行(国立環境研究所)・樋口広芳(東京大学)
PB3-111	文化的景観における構造変化と保全手法の検討 亀井幹夫・中越信和(広大院・国際協力)	PB3-126	豊岡盆地周辺におけるコウノトリのかつての生息地利用 内藤和明・菊地直樹・大迫義人・池田 啓(姫路工大・自然研)
PB3-112	Ecological Study on Landscape Changes in Korean Rural Areas Kim, Jae-Eun (Graduate School for International Development and Cooperation, Hiroshima Univ.), Hong, Sun-Kee (Environmental Planning Institute, Seoul National Univ.), Nakagoshi, Nobukazu (Graduate School for International Development and Cooperation, Hiroshima Univ.)	【保全生態学 - 移入種】	
PB3-113	有機農法が中国浙江省における水田景観の生物多様性に及ぼす影響 大塚広夫(東京農業大院・農)根本正之・江永銘(東京農業大学・地域環境)・原慶太郎(東京情報大・経営情報)	PB3-127	侵入アライグマ問題に関する地域住民の意識調査 池田透(北大院・文)
PB3-114	市民参加型調査と景観スケールの生態ネットワーク評価-里山の甲虫類の再捕獲調査を手始めとして- 前河正昭(長野県自然保護研究所)・加藤久幸(協同測量株式会社)・天野雄一郎(信州大院・工)・梶原美恵子(子供エコクラブ アース調査隊)・竹内大介・池田雅子(長野県自然保護研究所)	PB3-128	小笠原諸島嫁島におけるノヤギ排除後の植生変化 畑憲治・可知直毅(都立大院・理)・市河三英(財)自然環境研究センター)
		PB3-129	リモートセンシングによる尖閣諸島魚釣島の生態系への野生化ヤギの影響の分析 横畑泰志・池田幸夫(富山大・教育)・横田昌嗣(琉球大・理)・石崎英治(北大・農)
		PB3-130	伊豆大島で野生化したタイワンザルの個体群動態(1940年~2002年) 佐伯真美(上智大・生命科学研究所)

事前登録者名簿

氏名	所属	発表番号	懇談会	氏名	所属	発表番号	懇談会
相川 真一	茨城大・理	PA2-061		伊澤 加恵	信州大・理	PB3-092	
相川 高信	京都大・農	PA3-057		伊澤 雅子	琉球大・理		
相田 美喜	筑波大			石井 潤	神戸大・自然科学		
相村 英範	神戸大院・自然科学	PA3-028		石井 弘明	神戸大・自然科学		
青木 一郎				石井 博	北海道大院・地球環境科学	PA1-088	
青木 香奈子	東北大・理	PB2-074		石井 弓美子	東大・広域システム	PB2-103	
青木 優和	筑波大・生物・下田臨海セ			石川 淳子	北海道大院・地球環境科学		
青森 桂子	金沢大・理	PB3-078		石川 真一	群馬大・社会情報	PB3-023	
赤石 大輔	金沢大院・生態	PB2-083		石川 葉留奈	名大院・生命農		
秋山 吉寛	北海道大院・地球環境科学	PA3-099		石川 寛	京大院・農	PB3-022	
揚妻 直樹	北海道大・フィールド科学セ	PA1-126		石川 幸男	専修大道短期大・造園林学	PB1-059	
浅井 元朗	中央農業総合研究セ			石川 義章	千葉大・理		
浅井 靖子	大阪女子大・理			石垣 宏	広島大院・生物圏科学	PB1-022	
朝倉 純子	筑波大院・環境科学	PA3-126		石田 厚	森林総合研究所 植物生態		
浅野 眞希	筑波大・生命環境科学	PB1-028		石田 惣	福井市自然史博物館	PA2-126	
浅見 崇比呂	信州大・理	PA2-004		石田 裕子	大阪府立大・理	PA2-130	
安島 美穂	東京大・農学生命科学	PA1-046		石塚 みどり	(株)環境研究センター		
東 典子	北海道大院・地球環境	PA1-113		石庭 寛子	新潟大院・自然科学		
東 美菜子	九州大院・理・臨海実験所	PB3-085		石濱 史子	東京大・総合文化	PA1-049	
畔上 絵美	大阪教育大院・教育			石原 修一	横浜国立大・環境情報	PA1-028	
安立 美奈子	岐阜大・流域圏科学研究セ	PB1-009		石原 通雄	兵庫医科大・生物	PA1-119	
阿部 聖哉	電力中央研究所・応用生物	PA1-108		石原 道博	大阪女子大・理		
足達 優子	広島大・国際協力			石橋 知佳	千葉大・理		
阿部 寧	西海区水産研究所・石垣支所	PB2-079		石村 理知	東北大院・理	PA2-107	
安部倉 完	京都大・理	PB1-129		伊勢 紀		PA2-099	
阿部 恵子	北海道大院・地球環境科学	PA2-036		磯谷 達宏	国士館大・地理		
阿部 真	森林総合研究所・北海道	PB1-062		磯村 尚子	東北大院・理	PA2-108	
安部 淳	東大・広域システム	PA2-124		板垣 智之	東北大院・生命科学	PA2-042	
安部 哲人	森林総合研究所・群落動態	PB2-125		板鼻 直栄	林木育種センター	PA3-049	
阿部 俊夫	森林総合研究所・水保全	PB3-094		井田 秀行	信州大・教育・志賀	S1-4	
雨甲斐 広康	静岡大院・理工	PA1-021		市栄 智明	北海道大・フィールド科学セ	S1-2	
天野 達也	東京大院・農学生命科学	PA1-123		市河 三英	(財)自然環境研究センター	PB3-020	
綾部 慈子	九大院・生防研	PA3-123		市川 憲平	姫路市立水族館		
荒井 香織	明治大・応用植物生態	PB3-054		一澤 圭	横浜国立大院・環境情報		
新垣 誠司	九州大院・理・臨海実験所	PB1-099		市野 隆雄	信州大・理		
荒木 希和子	滋賀県立大・環境科学	PA1-054		一柳 英隆		PA1-100	
荒木 悟	島根大・汽水域研究センター	PA1-029		井出 純哉	熊本大院・自然科学	PA3-122	
荒木 眞岳	森林総合研究所			伊藤 浩二	東京大院・農		
安藤 正規	名古屋大院・生命農学			伊東 宏樹	森林総合研究所・関西		
安藤 陽子	東京農工大院・共生持続社会			伊藤 洋	東京大・広域システム	PB3-089	
安東 義乃	京都大・生態学研究セ	PB1-126		伊藤 昭彦	地球フロンティア・生態系	PB2-012	
李 載錫	国立環境研究所	PB3-015		伊藤 明	大阪市大院・理	PB3-070	
李 美善	国立環境研・地球環境研究セ	PB1-011		伊藤 健二	中央農業総合研究セ	PA3-100	
飯島 勇人	北海道大院・農			伊藤 哲	宮崎大・農	PA3-027	
井貝 紀幸	名大院・生命農	PA2-083		伊藤 祥子	宇都宮大・農	PB2-043	
五十嵐 聖貴	北海道環境科学研究セ	PA1-105		伊藤 進一郎	三重大・生物資源	PB1-044	
五十嵐 哲也	森林総合研究所			伊藤 憲彦	千葉大・理	PB2-070	
井口 恵一朗	中央水産研究所	PB1-075		伊藤 雅道	横浜国立大院・環境情報		
池上 佳志	北海道大・フィールド科学セ			伊藤 悠	静岡大・理工	PA3-018	
池田 佳代	九州大院・理	PA1-138		稲富 素子	岐阜大・流域圏科学研究セ	PB1-012	
池田 重人	森林総合研究所・東北	PA1-001		稲森 啓太	信州大・理		
池田 武文	京都府立大院・農	PA2-054		井上 徹志	科学技術振興事業団	PA3-001	
池田 透	北海道大院・文学	PB3-127		井上 牧子	神戸女学院大・人間科学	PA1-091	
池田 浩明	農業環境技術研・植生研究	PB1-006		井上 みずき	京大院・農	PA2-035	
池田 史枝	横浜国立大学院・環境情報	PB3-050		今堀 愛	広島大・国際協力	PB3-057	
井坂 友一	東邦大・理			今村 彰生	京大院・人間環境	PB3-034	
井鷲 裕司	広島大・総合科学	S3-2		井村 治	畜産草地研究所	PB1-077	

氏名	所属	発表番号	懇談会
伊村 智	国立極地研究所	PB2-049	
入江 貴博	九州大・理	PA2-012	
岩熊 敏夫	北海道大院・地球環境科学	PB3-086	
岩崎 寛	姫路工業大・自然環境科学	PA3-086	
巖佐 庸	九州大院・理	S1-3	
岩田 周子	筑波大・環境科学	PA3-106	
岩田 洋佳	中央農研	PB1-109	
岩田 隆太郎	日本大・生物資源		
岩永 亜紀子	九州大院・理	PA3-022	
岩間 哲士	京都大院・農	PA1-062	
上杉 あかね	北海道大・地球環境科学	PB3-095	
上杉 龍士	東京大院・農	PA1-039	
上田 恵介	立教大・理		
上田 昇平	信州大・理	PA3-006	
上野 真義	森林総合研究所	PA1-050	
上野 直人	東北大院・農	PA3-052	
上野 真由美	北海道大・フィールド科学セ		
上野 裕介	北海道大院・水産科学	PB2-009	
上原 千晶			
植村 滋	北海道大・フィールド科学セ		
浮田 健一	広島大院・国際協力		
丑丸 敦史	総合地球環境学研究所	PA1-080	
宇田川 弘勝	日本学術振興会	PB2-004	
内田 雅己	岐阜大・流域圏科学研究セ	PB2-013	
内田 智子	横浜国大・環境情報	PB2-026	
宇都木 玄	森林総合研究所・北海道		
宇津野 宏樹	信州大院・工	PA2-005	
宇都宮 大輔	金沢大院・自然科学	PA1-093	
内海 俊介	京都大・生態学研究セ	PA2-089	
内海 真生	筑波大・農林工学		
生方 秀紀	北海道教育大・釧路校	PB2-112	
生方 正俊	林木育種センター	PA3-032	
浦 達也	北海道大院・地球環境科学	PA1-133	
浦口 あや	北海道大・地球環境科学	PA3-058	
占部 城太郎	京都大学・生態学研究セ	L3	
浦部 美佐子	福岡教育大・理科教育	PB1-072	
江草 佐和子	京都大・昆虫生態		
江副 日出夫	大阪女子大・理	PA1-019	
江田 真毅	東京大院・農	PA2-001	
江戸 謙頭	北海道環境科学研究セ	PA3-115	
遠藤 隼	信州大・農	PB1-112	
遠藤 彰	立命館大・理工		
遠藤 耕一郎	日本大・生物資源	PA1-095	
遠藤 千尋	京都大院・理	PB1-096	
遠藤 知二	神戸女学院大・人間科学	PB2-087	
遠藤 菜緒子	立教大院・理	PA2-101	
及川 真平	東北大院・生命科学	PA1-051	
汪 正祥	横浜国立大院・環境情報	PB2-063	
大井 和之	(財)九州環境管理協会	PB3-105	
大江 悠介	筑波大・生物学類	PB1-010	
大神 智子	九大・理・生物・数理生物	PA1-014	
大窪 久美子	信州大・農		
大久保 達弘	宇都宮大・農	PB1-040	
大久保 幸実	都立大・理		
大黒 俊哉	農業環境技術研究所	PB2-118	
大串 隆之	京都大・生態学研究セ		
大河内 勇	森林総合研究所	PB2-121	

氏名	所属	発表番号	懇談会
大坂 哲也	帯広畜産大院	PB3-045	
大澤 正嗣	山梨県森林総合研究所	PB2-095	
大曾根 陽子	東京大院・理・日光植物園	PA3-075	
大園 享司	京都大院・農	PB3-033	
大竹 邦暁	(株)中電技術コンサルタント		
太田 誠一	京都大院・農学研究科		
大谷 雅人	東大院・農学生命	PA1-043	
太田 陽子	広島大・総合科学	PB3-060	
大館 智氏	北海道大・低温科学研究所		
大塚 愛子	九州大院・理	PA2-040	
大塚 孝一	長野県自然保護研究所	PA2-093	
大塚 俊之	山梨県環境科学研・植物生態	PA1-007	
大塚 広夫	東京農業大院・農	PB3-113	
大西 尚樹	森林総合研究所・関西	PA1-115	
大西 瑞木	北海道大・苫小牧研究林	PA2-047	
大西 義浩	佐賀大		
大沼 尚	(株)エコ・リサーチ		
大野 啓一	横浜国立大院・環境情報		
大野 啓一	千葉県立中央博物館		
大森 正揚	京都大・農	PA2-081	
大原 雅	北海道大院・地球環境科学		
大場 明美	奈良女子大・理		
大庭 伸也	愛媛大院・農	PA3-109	
大場 孝裕	静岡県林業技術センター	PB1-095	
大林 隆司	都小笠原亜熱帯農業センター		
大平 淳	東京大・農	PB2-094	
大森 浩二	愛媛大・沿岸環境科学研究セ	S3-3	
大脇 淳	金沢大院・自然科学	PB3-079	
岡 奈理子	(財)山階鳥類研究所	PA1-136	
岡崎 純子	大阪教育大・教員養成	PA2-043	
岡田 昌	新潟大院・自然科学	PA2-116	
岡部 佳容	北海道大院・地球環境	PB3-108	
岡部 史恵	北海道大院・農		
岡本 裕子	滋賀県立大院・環境科学		
小川 一治	名古屋大院・生命農学	PA2-026	
小川 みふゆ	科学技術振興事業団	PB1-043	
荻津 英也	茨城大・理	PA2-032	
荻野 和彦	滋賀県立大・環境科学	PA2-067	
奥 圭子	京都大院・農	PA3-119	
奥井 智子	奈良女子大院・人間文化	PA1-075	
奥田 青州	東京大・農	PB2-006	
奥田 武弘	北海道大・水産	PB2-071	
奥田 敏統	国立環境研究所		
奥田 昇	愛媛大・沿岸環境科学研究セ	PB1-098	
奥田 将己	北海道大院・地球環境科学	PB3-046	
奥村 栄朗	森林総合研究所・野生動物	PA1-117	
小口 理一	東北大院・生命科学	PA3-071	
小椋 純一	京都精華大	PA1-009	
尾黒 昌宏	佐賀大		
長田 典之	東京大院・理・日光植物園	PA2-075	
長 雄一	北海道環境科学研究センター	PA2-102	
尾崎 聡子	岡山理科大	PA3-087	
尾崎 光彦	横浜国立大院・環境情報	PB2-092	
尾澤 彰	立正大院・地球環境科学	PB2-065	
尾関 雅章	長野県自然保護研究所	PB1-046	
小沼 祐子	横浜国立大院・環境情報	PA2-038	
小野 晶子	東京都立大・理	PA1-085	

氏名	所属	発表番号	懇談会
小野 清美	北海道大・低温科学研究所	PA3-069	
小野田 雄介	東北大学院・生命科学	PA2-073	
小野 涼子	岐阜大・農		
小山田 誠一	東北大・農		
恩地 利実	大阪府大・総合科学		
恩地 実	甲南高校		
甲斐 崇	広島大院・理		
加賀田 秀樹	山形大学農学部	PA2-121	
加賀谷 隆	東京大・農学生命科学		
加賀屋 美津子	都立大院・理		
柿沼 真也			
籠谷 泰行	滋賀県立大・環境科学	PB1-013	
笠井 敦	京大院・農	PB2-104	
粕谷 英一	九州大・理	PA2-023	
粕谷 志郎	岐阜大・地域科学		
糟谷 信彦	京都府立大・農	PA2-058	
加瀬 幸	宇都宮大・農	PB1-047	
片岡 優子	立教大・理	PB1-082	
片野 泉	奈良女子大・人間文化	PA3-124	
片畑 伸一郎	静岡大・農	PA3-084	
片山 雅男	夙川学院短期大・教養教育	PA2-064	
片山 昇	佐賀大・農	PA2-086	
嘉田 修平	京都大・農		
可知 直毅	東京都立大・理		
勝田 賢志	鹿児島大・教育	PB3-066	
加藤 聡史	東北大院・生命科学	PA3-025	
加藤 秀男	国立環境研究所・生物多様性	PB2-109	
加藤 文男	仁愛女子短期大		
加藤 文	神戸大院・総合人間科学	PB3-116	
加藤 京子	北海道大・低温研	PA1-057	
加藤 正吾	岐阜大・農		
加藤 拓	筑波大院・生命環境科学		
加藤 知道	筑波大・生物科学	PB3-011	
加藤 浩志	東京大院・総合文化	PA2-118	
加藤 真	京大院・人間環境		
加藤 瑞樹	横浜国立大院・環境情報		
加藤 芳文	北海道大・農	PA2-039	
角野 康郎	神戸大・理	S1-5	
角谷 拓	東京大・農学生命科学	PB2-111	
門脇 正史	筑波大・農林技術セ・井川演		
金尾 滋史	滋賀県立大院・環境科学	PB1-074	
金谷 弦	東北大院・理	PB2-002	
金子 隆之	京大院・農	PA3-034	
金子 信博	横浜国立大・環境情報	PB2-024	
金子 有子	琵琶湖研究所	PA3-015	
金子 洋平	新潟大院・自然科学	PA2-046	
金谷 整一	森林総合研究所・生態遺伝	PA3-047	
兼安 本子	宇部市立図書館旧館・市立小		
壁谷 大介	森林総合研究所・木曾試験地	PB1-063	
鎌田 直人	金沢大院・自然科学	S1-4	
鎌田 磨人	徳島大・工	S3-3	
上迫 正人	新潟大院・自然科学	PB3-053	
上條 隆志	筑波大・農林	PB1-067	
神谷 貴文	横浜国立大・環境情報		
紙谷 智彦	新潟大・農	S1-1	
上地 智子	千葉大院・自然科学	PA1-012	
上村 佳孝	東京都立大院・理	PA3-138	

氏名	所属	発表番号	懇談会
亀井 幹夫	広島大院・国際協力	PB3-111	
亀田 実和	中央復建コンサルタンツ		
亀田 佳代子	滋賀県立琵琶湖博物館		
亀山 慶晃	北海道大・地球環境科学	PA1-037	
加茂 将史	九州大学・理	PA3-021	
香山 雅純	北海道大・フィールド科学セ	PB1-042	
河合 溪	鹿児島大・多島圏研究セ	PA1-118	
河合 耕平	神戸大・理		
河井 崇	九州大院・理・臨海実験所	PB1-097	
河合 洋人	岐阜大・流域圏科学研究セ	PA1-053	
河内 章雄	埼玉大院・理工	PB1-087	
川上 美穂子	東京大院・農学生命科学		
川北 篤	京大院・人間環境	S1-2	
川口 利奈	筑波大・生物		
川口 勇生	九州大院・理	PA3-020	
川越 哲博	神戸大・理	PA2-041	
川崎 達郎	森林総合研究所 物質生産	PA2-059	
川路 則友	森林総合研究所		
河田 雅圭	東北大院・生命科学	L1	
川田 清和	筑波大院・農	PB1-025	
川西 基博	横国大・環境情報	PB3-052	
河野 かつら	九州大院・理		
河野 樹一郎	宮崎大院・農		
川端 健人	近畿大・農	PB2-088	
川村 健介	岐阜大・流域圏科学研究セ	PB3-010	
河村 耕史	京大院・農	PA2-053	
川村 みゆき	信州大院・農	PB1-070	
河原崎 里子	茨城大・理		
菊地 賢	森林総合研究所		
菊池 多賀夫	横浜国立大院・環境情報		
菊池 晴子	東京農工大連合院・農	PA2-103	
木佐貫 博光	三重大・生物資源	PB3-044	
岸 茂樹	京大院・農		
岸 大弼	北海道大・フィールド科学セ	PB3-082	
岸田 章一	広島大院・理	PB1-049	
岸田 治	北海道大院・水産科学	PB1-085	
岸田 竜	佐賀大		
岸本 剛	京都府立大・農		
北岡 哲	北海道大・農	PA3-067	
北垣 憲仁	都留文科大		
北出 理	茨城大・理	PA3-003	
北野 聡	長野県自然保護研究所	PB1-130	
北原 正彦	山梨県環境科学研究所	PB3-080	
北村 俊平	京大院・生態学研究セ		
北村 淳一	京大院・理	PB1-116	
北本 尚子	筑波大・生命環境科学	PA1-047	
木戸 雅子	信州大・理		
衣笠 朋子	筑波大・環境科学	PA3-103	
杵崎 のり子	奈良女子大院・人間文化	PA1-023	
木下 智章	九州大・理	PA2-125	
木原 孝志	筑波大院・環境科学	PB1-008	
木部 剛	静岡大・理	PB2-017	
金 明顯	広島大・総合科学	PA2-077	
木村 勝彦	福島大・教育	PA1-008	
木村 美紀	奈良女子大・理		
木村 恵	東北大院・農	PA3-042	
曲 来葉	北海道大・農	PA1-060	

氏名	所属	発表番号	懇談会
許 琴蘭	横浜国立大・環境情報	PB1-053	
清野 嘉之	森林総合研究所		
桐谷 圭治			
草加 伸吾	滋賀県立琵琶湖博物館		
日下 裕之	明治大・農		
楠本 良延	横浜国立大院・環境情報	PB2-037	
工藤 慎一	鳴門教育大・学校教育		
工藤 洋	神戸大・理		
國井 秀伸	島根大・汽水域研究センター	PA1-027	
久保 拓弥	北海道大院・地環研	PA2-025	
久保田 要	宮崎大・農・田野フィールド	PB3-064	
窪田 圭多	神戸大院・総合人間科学	PB3-048	
久保田 耕平	東京大院・農	PA3-013	
久保 博之	鹿児島大・教育	PB1-060	
熊谷 直喜	筑波大・生物・下田臨海セ	PA2-111	
熊木 理	東北大院・生命科学	PA2-013	
熊野 有子	京都工芸繊維大・化学生態	PA1-082	
久米 篤	九州大・農	PB1-050	
倉島 治	東京大院・農学生命科学	PA1-097	
倉田 健悟	島根大・汽水域研究セ	S3-3	
倉本 宣	明治大・農	PB1-113	
栗原 健夫	西海区水産研究所・石垣支所		
栗和田 隆	九州大院・理	PA3-134	
黒田 有寿茂	広島大院・理・宮島実験所	PB2-039	
桑村 哲生	中京大・教養	PA2-139	
古 松	国立環境研究所・生物圏環境	PB3-012	
小池 重人	新潟・庄瀬中学	PB3-100	
小池 孝良	北海道大・フィールド科学セ	PA3-068	
小池 信哉	森林総合研究所・植物生態		
小池 裕子	九州大院・比較社会文化		
小泉 博	岐阜大・流域圏科学研究セ		
小出 奏	京都大院・農	PB3-032	
小路 晋作	金沢大・理	PA3-107	
河内 香織	東京大院・農	PB2-007	
河内 直子	北海道大・厚岸臨海実験所	PA1-120	
河野 万里子	広島大・総合科学	PB3-102	
甲山 隆司	北海道大・地球環境		
郡 麻里	東京大院・農学生命	PA3-093	
古賀 庸憲	和歌山大・教育	PA2-134	
小金澤 正昭	宇都宮大・農・演習林	PB1-083	
越川 滋行	東京大院・理		
腰塚 昭温	筑波大・生命情報		
小島 覚	東京女子大		
小島 桃太郎	徳島大院・工	PB1-122	
小菅 祥二	北海道大院・地球環境		
古知 新	京都大院・農	PB2-089	
小西 繭	信州大・理		
小沼 明弘	新潟大院・自然科学	S3-2	
小林 一三	東京大・医学科学研究所	L2	
小林 剛	香川大・農	PB1-061	
小林 哲		PA3-101	
小林 左和	東京工業大・生命理工学	PA2-071	
小林 俊介	東邦大・理		
小林 史郎	九州大院・理	PA1-040	
小林 草平	東京大・農学生命科学	PB2-005	
小林 隆人	山梨県・オオムラサキ公園	PB2-122	
小林 岳雄	京都大院・農	PA3-135	

氏名	所属	発表番号	懇談会
小林 達明	千葉大・園芸	PA2-110	
小林 春毅	北海道大・フィールド科学セ	PA2-114	
小林 誠	立正大・地球環境科学	PB2-062	
小林 美絵	明治大	PB3-055	
小林 幹夫	宇都宮大・農	PA1-034	
小林 慶子	近畿大・農	PA3-031	
小林 頼太	東京大・農		
小松 悟	北海道大・農		
小宮 啓吾	広島大・国際協力		
小見山 章	岐阜大・農	S3-3	
小村 良太郎	金沢大院・自然科学	PB2-035	
小山 里奈	金沢大・COE研究員	PA2-078	
近藤 圭	横浜国立大院・環境情報	PB2-060	
近藤 俊明	広島大院・国際協力研究科	PB3-107	
今藤 夏子	東京大・広域システム	L2	
近藤 美由紀	岐阜大・流域圏科学研究セ	PB2-016	
紺野 康夫	帯広畜産大・環境総合科学	PA3-062	
今野 浩太郎	農業生物資源研究所	PA2-085	
五箇 公一	国立環境研究所	PB2-130	
五嶋 聖治	北海道大院・水産科学		
後藤 章	東京大・農学生命科学	PB2-107	
後藤 彩子	東京大院・広域システム	PA3-007	
後藤 直人	愛媛大・農・附属農場	PA1-106	
三枝 信子	産業技術総合研・環境管理	PB2-015	
西城 洋	大阪市立自然史博物館	PB1-071	
齊藤 隆	北海道大・フィールド科学セ	L1	
齋藤 隆実	大阪大院・理	PA2-069	
齋藤 琢	九州大院・生物資源環境	PB2-020	
齋藤 武馬	立教大・理	PA1-132	
齋藤 大輔	広島大・国際協力		
齋藤 智之	東北大院・農	PA3-030	
齊藤 悠	明治大・農		
齊藤 有里加	明治大院・農	PA1-086	
佐伯 真美	上智大・生命科学研究所	PB3-130	
酒井 暁子	東北大・生命科学		
酒井 徹	岐阜大・流域圏科学研究セ	PB3-005	
酒井 敦	森林総合研究所・四国	PB3-043	
酒井 聡樹	東北大院・生命科学	PA1-017	
酒井 章子	筑波大	PA3-063	
酒井 智裕	信州大院・農		
坂井 宏行	横浜国立大院・環境情報		
酒井 将義	広島大・総合科学	PA1-110	
坂田 剛	北里大・基礎科学セ	PA1-073	
坂田 はな	大阪女子大院・理	PB2-099	
坂本 信介	東京都立大・動物生態	PA1-101	
崎尾 均	埼玉県農林総合研究センター	S3-4	
向坂 幸雄	九州大院・理		
崎山 優子	神戸大院		
佐久間 智子	広島大院・国際協力	PB3-115	
桜井 玄	九州大院・理	PA3-137	
桜谷 保之	近畿大・農	PB2-011	
酒向 宏範	岐阜大・流域圏科学研究セ	PB3-006	
佐々木 晶子	広島大院・生物圏	PA2-065	
佐々木 尚子	京都大院・農	PA1-004	
佐々木 浩	筑紫女学園短大・幼児教育		
佐々木 洋	宮城県立仙台台山高		
佐々木 涉	埼玉大・理工	PA1-069	

氏名	所属	発表番号	懇談会
佐竹 暁子	九州大院・理		
佐竹 潔	国立環境研究所	PB3-087	
定 美津穂	東京大院・農学生命科学	PB2-029	
佐藤 一憲	静岡大・工	PB3-118	
佐藤 琢	北海道大院・水産科学	PA1-121	
佐藤 匠	広島大・総合科学	PA3-041	
佐藤 保	森林総合研究所	PB3-004	
佐藤 宏明	奈良女子大・理	PB2-096	
佐藤 峰華	東京都立大院・理	PB1-045	
佐藤 幸恵	北海道大・農	PA1-020	
佐藤 由美子	信州大・理		
佐藤 廉也	九州大院・比較社会文化	S1-3	
里村 多香美	広島大院・生物圏科学	PB3-003	
佐原 範也	埼玉大院・理工	PA1-052	
鮫島 真哉	東京大院・理		
澤田 浩司	香椎高	PA3-131	
澤田 佳宏	岐阜大・流域圏科学研究セ	PA2-033	
椎木 菜穂子	茨城大・理	PA1-031	
時 坤	畜産草地研究所	PB1-079	
塩見 正衛	茨城大・理	PA2-017	
鹿野 秀一	東北大・東北アジア研究セ	PB2-031	
志賀 隆	神戸大・自然科学		
茂田 幸嗣	広島大・国際協力	PA1-083	
繁宮 悠介	京都大院・人間環境	PA2-129	
柴田 英美	明治大・農	PB3-123	
芝田 史仁	和歌山信愛女子短大	PA1-102	
柴田 銃江	森林総合研究所・群落動態		
芝原 淳	京都府立大・農		
柴山 弓季	神戸大院・自然科学	PA1-038	
洪野 拓郎	水研セ・西海水研・石垣	PB2-072	
島 絵里子	北海道大・フィールド科学セ		
島岡 良治	近畿大・農	PA1-092	
島崎 彩	東京大・農	PB3-091	
島崎 彦人	国立環境研究所	PB3-125	
島谷 健一郎	統計数理研究所	S3-2	
島田 和則	森林総合研究所		
島田 卓哉	森林総合研究所・関西	PA1-107	
嶋田 正和	東京大・広域システム		
嶋村 鉄也	京都大院・アジア・アフリカ	S1-2	
島本 和宣	九州大・理	PA3-139	
清水 健	京大院・農	PA2-122	
清水 英幸	国立環境研究所	PB2-056	
下田 勝久	畜産草地研究所・山地草地	PB3-056	
下田 路子	(株)東和科学	S1-5	
下野 綾子	東京大院・農学生命科学	PA1-033	
下野 嘉子	北海道大・地球環境科学	PA1-077	
首藤 勝之	広島大院・生物圏科学	PB3-021	
首藤 絵美	九州大・理	PA1-022	
正路 章子	東北大・生命科学	PA2-137	
白川 勝信	広島大・国際協力	PB2-042	
白濱 直樹	岐阜大・農		
城田 徹央	九州大・熱帯農学研究セ	PA2-051	
白鳥 和佳子	北海道大院・水産科学	PA2-106	
城野 裕介	埼玉大・工		
城本 啓子	近畿大・農	PB3-077	
真保 藍子	新潟大・自然科学研究科	PB3-124	
上村 真由子	神戸大院・自然科学	PB3-028	

氏名	所属	発表番号	懇談会
末広 喜代一	香川大・教育		
須賀 丈	長野県自然保護研究所	PA3-114	
菅谷 貴志	東京農業大院・農	PA3-050	
杉浦 真治	京都大院・農	PA2-088	
杉浦 康裕	北海道大・農	PA3-095	
杉阪 次郎	神戸大院・自然科学	PA1-076	
杉村 乾	森林総合研究所・森林管理		
杉村 康司	千葉大院・自然科学	PB3-047	
杉山 修一	弘前大・農	PA1-071	
杉山 昇司	明治大・農		
洲崎 燈子	豊田市矢作川研究所		
鈴木 新	大阪大・理	PA3-080	
鈴木 英治	鹿児島大・理	PB3-071	
鈴木 智之	東京都立大・理	PA2-034	
鈴木 俊介	滋賀県立大院・環境科学		
鈴木 伸一	(財)国際生態学センター	PB2-064	
鈴木 準一郎	東京都立大・理	PA3-035	
鈴木 崇徳	静岡大・工	PA2-019	
鈴木 俊宏	静岡大院・理工	PB1-036	
鈴木 信彦	佐賀大・農	PA3-133	
鈴木 まほろ	岩手県立博物館		
鈴木 悠史	金沢大・理	PA1-103	
鈴木 ゆかり	筑波大・生命環境科学		
鈴木 亮	東京都立大・理	PB3-072	
鈴木 玲子	東邦大・理		
鈴木 和次郎	森林総合研究所	S3-4	
須藤 智道	青森県立八戸高		
須島 充昭	横浜国立大・環境情報		
隅田 明洋	北海道大・低温研	PA1-061	
陶山 佳久	東北大院・農	L2	
諏訪 鍊平	琉球大・理工	PB3-007	
勢井 志奈子	信州大・理		
清野 達之	京都大・生態学研究セ	PB3-073	
清和 研二	東北大院・農		
関川 清広	玉川大・農	PB3-014	
関 剛	森林総合研究所・東北	PA2-055	
関谷 義男	新潟大院・自然科学		
瀬戸山 雅人	東京大院・総合文化	PA3-140	
曾田 貞滋	京都大院・理	PA2-007	
曾根 恒星	大阪大院・理	PA2-060	
園田 陽一	明治大院	PA1-096	
田井 謙一郎	信州大・理		
泰中 啓一	静岡大・工		
埴田 宏	森林総合研究所・四国		
高川 晋一	東京大院・農生	PB2-116	
高倉 耕一	大阪市立環境科学研究所	PA3-090	
高島 輝之	東北大院・生命科学システム	PA3-076	
高須 夫悟	奈良女子大・理		
高田 壮則	北海道東海大・国際文化	PA1-016	
高田 まゆら	東京大・農	PA3-105	
高田 宣武	西海区水産研究所石垣支所	PB2-077	
高槻 成紀	東京大・総合研究博物館		
高寺 智之	帝京大・理工		
高梨 聡	京都大院・農	PA3-078	
高橋 一男	東京大院・農学生命科学	PB2-080	
高橋 佳菜子	新潟大院・自然科学	PA2-027	
高橋 邦彦	東北大院・生命科学	PA2-049	

氏名	所属	発表番号	懇談会
高橋 智	奈良女子大院・人間文化	PA1-015	
高橋 姿	北海道大・農	PB1-034	
高橋 俊守	東京大院・工	PB2-033	
高橋 誠	林木育種センター	PA3-036	
高橋 善幸	国立環境研究所	PB2-018	
高橋 里英子	京都大・理	PA2-009	
高畑 由起夫	関西学院大・総合政策		
高原 輝彦	京都工芸繊維大	PB1-084	
高原 光	京都府立大院・農	PA1-002	
高部 直紀	名古屋大院・生命農		
高村 健二	国立環境研究所	PA2-113	
高村 典子	国立環境研究所	PB2-110	
高本 剛祐	九州大・理		
高柳 絵美子	筑波大・生物資源	PB1-068	
高山 浩司	東京都立大院・理		
高山 順子	千葉県立中央博・海の博物館		
高山 肇	阿寒町教育委員会	PA2-112	
滝澤 和慶	新潟大院・自然科学		
滝澤 匡	岩手大連合院・農	PB2-101	
竹内 亨	(財)電力中央研究所		
竹内 直子	広島大院・生物圏科学	PA2-128	
竹内 やよい	京都大・生態学研究セ	PA3-045	
竹内 勇一	京都大院・理	PA3-110	
竹垣 毅	長崎大・水産・海洋資源セ	PA1-104	
竹田 真知子	滋賀県立大院・環境科学	PA2-066	
武田 義明	神戸大・発達科学		
竹中 明夫	国立環境研究所	PB3-036	
竹中 宏平	北海道大院・地球環境科学	PA1-041	
竹中 践	北海道東海大・教育センター		
竹原 明秀	岩手大・人文社会	PB3-110	
武林 周一郎	神戸大・理	PB2-115	
武山 智博	大阪市立大院・理		
田代 直明	九州大・農・演習林		
田副 雄士	大阪大院・理	PA1-072	
多々良 和佳	北海道大・フィールド科学セ	PB3-096	
橋 ヒサ子	北海道教育大・教育・旭川校		
立川 賢一	東京大・海洋研究所		
舘野 正樹	東京大院・理・日光植物園	PA3-079	
舘野 隆之輔	京都大院・農	PB3-002	
立松 敏也	千葉大・理		
田中 啓太	立教大院・理	PA1-135	
田中 厚志	茨城大・理	PB1-058	
田中 絵里	宇都宮大・応用昆虫	PB2-098	
田中 健太	北海道大・フィールド科学セ	S1-2	
田中 幸一	農業環境技術研究所	PA3-113	
田中 さやの	茨城大院・理工	PA2-068	
田中 晋吾	京都大・農	PB1-090	
田中 格	山梨県森林総合研究所	PA3-082	
田中 哲夫	姫路工業大・自然環境科学	PB1-114	
田中 信行	森林総合研究所	PB1-125	
田中 浩	森林総合研究所・森林植生	PA3-051	
田中 洋之	京都大・霊長類研究所	PA3-011	
田中 嘉成	中央大・経済	PA2-020	
田中 涼子	横浜国立大・環境情報	PB3-037	
田辺 久美	大阪女子大・理	PA3-016	
田辺 慎一	北海道大・低温科学研究所	PB2-093	
田辺 力	徳島県立博物館	PA2-008	

氏名	所属	発表番号	懇談会
谷 友和	北海道大・地球環境研究科	PA1-055	
谷 尚樹	森林総合研究所	PA3-048	
谷川 正樹	東邦大院		
谷垣 岳人	京都大院・理	PA3-012	
谷本 丈夫	宇都宮大・農学部		
種子田 春彦	東京大院・日光植物園	PA1-078	
田内 裕之	森林総合研究所・北海道		
田淵 研	千葉大・園芸	PA3-008	
玉沢 智人	山形大・農	PB2-085	
玉手 剛	北海道大・フィールド科学セ		
田村 淳	神奈川県自然環境保全セ	PA2-097	
田村 憲司	筑波大・応用生物化学	PB1-029	
田村 将剛	東北大院・生命科学		
田村 裕	琉球大院・理工	PB2-008	
陀安 一郎	総合地球環境学研究所	PB2-027	
檀浦 正子	神戸大・自然科学	PA2-076	
千葉 幸弘	森林総合研究所	PA2-050	
長美 智子	京都大・農	PA1-058	
陳 俊	茨城大・理工	PB3-018	
塚田 英晴	畜産草地研究所	PB1-080	
塚村 慶子	広島大院・生物圏科学	PA2-140	
辻沢 央	東北大院・生命科学	PA2-048	
辻 ねむ	阿寒町教育委員会	PB2-044	
辻 宣行	国立環境研究所・生物多様性		
辻村 東國	山形大・理		
津田 智	岐阜大・流域圏科学研究セ		
津田 みどり	九大院・農	PB2-102	
津田 吉晃	東京大院・農学生命科学	PA3-043	
土田 勝義	信州大・農		
土屋 泉			
土屋 香織	東京都立大・理	PA3-130	
堤 道生	岐阜大・流域圏科学研究セ	PB1-107	
椿 康一			
椿 宜高	国立環境研究所	PB2-113	
津村 義彦	森林総合研究所	L2	
津森 正則	信州大・農	PB1-076	
津山 幾太郎	筑波大院・生命環境科学	PB1-066	
露崎 史朗	北海道大院・地球環境	PB2-053	
寺井 雅一	京都大院・農	PA2-079	
寺内 聡	静岡大院・理工	PB2-054	
寺岡 安理	京都大院・農	PB3-051	
寺川 真理	奈良女子大		
寺下 史恵	岡山理科大院・総合情報	PB3-062	
寺島 一郎	大阪大院・理	S3-1	
寺田 美奈子	神田外語大・外国語		
寺西 眞	京都大・生態学研究セ	PA3-089	
戸井 可名子	神戸大院・総合人間科学	PB3-049	
唐 艶鴻	国立環境研究所	PB3-019	
東條 達哉	近畿大・農	PB3-081	
遠山 貴之	筑波大・生物		
富樫 辰也	千葉大・海洋バイオ研究セ	PA2-010	
時岡 あき子	東京大・農	PB3-027	
徳田 大輔	信州大・理	PB1-088	
徳地 直子	京都大・農	PB1-002	
徳永 憲治	金沢大・理	PA2-082	
戸口 協子	茨城大院・理工		
戸島 久和	横浜国立大・環境情報	PB1-052	

氏名	所属	発表番号	懇談会
戸田 哲也	京都大院・農	PB1-032	
戸田 裕子	近畿大・農	PB3-090	
飛田 礼子	東京都立大院・理	PA2-062	
戸丸 信弘	名古屋大院・生命農学		
富田 千賀子	宇都宮大院・農	PA1-036	
富田 瑞樹	東北大院・農	PA3-040	
富松 裕	北海道大院・地球環境科学	PA2-037	
富松 元	茨城大・生態	PA1-035	
外山 祐介	早稲田大・教育	PA1-066	
豊岡 了	埼玉大院・理工	PB2-050	
豊田 鮎	横浜国立大院・環境情報	PB2-021	
鳥丸 猛	名古屋大院・生命農学	PA2-044	
土肥 昭夫	九州大院・理学		
土居 秀幸	東北大院・生命科学	PB3-098	
堂園 いくみ	都立大学院・理		
土畑 正和	横浜国立大院・環境情報		
内藤 和明	姫路工大・自然研	PB3-126	
内藤 由香子	北海道大・低温科学研究所	PA1-114	
内藤 洋子	京都大院・農	PA3-065	
中井 亜理沙	三重大・生物資源	PB2-046	
仲岡 雅裕	千葉大院・自然科学	PB2-068	
中川 宏治	京都大・森林生態	PB2-091	
中川 弥智子	京都大・生態学研究セ	S1-2	
中川 恵	(株)環境研究センター		
中桐 斉之	静岡大・サテライトラボ	PA2-018	
中下 留美子	東京農工大・農学研究科	PA1-129	
中島 俊彦	佐賀大・農		
中嶋 康裕	宮城大・看護	PA2-132	
中路 達郎	国立環境研・地球環境研究セ	PA3-073	
中島 弘起	京都・農	PA1-063	
中島 真紀	(株)環境指標生物	PB2-128	
中田 兼介	長崎総合科学大・人間環境		
中坪 孝之	広島大院・生物圏		
中西 佐和子	横浜国立大院・環境情報	PB1-051	
中根 周歩	広島大院・生物圏科学	PB1-021	
中野 浩平	信州大院・農学研究科		
中野 千賀	東京大・農	PA1-090	
中原 立喜	北海道大・フィールド科学セ		
中原 美理	東京大院・農学生命	PA3-132	
中道 康文	筑波大・生命環境科学		
中村 晃規	金沢大・理	PB2-084	
中村 彰宏	大阪府立大院・農学生命科学	PA2-029	
中村 克典	森林総合研究所・九州		
中村 隆俊	北海道大・フィールド科学セ	PA1-067	
中村 裕	筑波大院・生命環境科学	PA1-087	
中村 太士	北海道大院	S1-1	
中村 道長	筑波大院・環境科学	PA3-070	
中村 優介	京都大・生態学研究セ	PA1-018	
中村 亮二	東京都立大・理		
中本 敦	琉球大・理	PA1-125	
中山 直樹	東京大院・農学生命科学	PB1-120	
長池 卓男	山梨県森林総合研究所		
長島 志津子	金沢大・理	PB2-120	
長嶋 寿江	東京大院・理・日光植物園	PA2-052	
長瀬 ほなみ	名古屋大院・生命	PA2-091	
永田 尚志	国立環境研究所・生物個体群	PB3-122	
永野 正弘	環境設計株式会社		

氏名	所属	発表番号	懇談会
永松 大	森林総合研究所・九州	PB1-065	
永光 輝義	森林総合研究所・北海道	PA3-046	
長山 泰秀	島根大・森林環境	PB1-033	
名倉 京子	京都大・生態学研究セ		
那須 浩郎	総研大・国際日本研究	PA1-006	
夏原 由博	大阪府立大院・農学生命科学	PA2-100	
名取 俊樹	国立環境研究所・生物圏環境	PB1-037	
名波 敦	水産工学研究所	PB2-073	
名波 哲	大阪市立大院・理	PB3-041	
鍋嶋 絵里	北海道大・苫小牧研究林	PA3-066	
成川 晃由	鹿児島大院・教育	PA3-033	
難波 利幸	大阪女子大・理	PA3-017	
新島 哲也	埼玉大院・理工	PA2-133	
新山 馨	森林総合研究所・森林植生	S3-4	
西尾 孝佳	宇都宮大・野生植物科学セ	PB1-039	
西上 愛	東京大院・農学生命科学		
西沢 徹	金沢大院・自然科学	PA1-042	
西島 博樹	新潟大院・自然科学	PB2-061	
西谷 里美	日本医科大・生物		
西田 伸	九州大院・比較社会文化	PA1-116	
西野 晃子	東北大院・生命科学	PA3-023	
西原 昇吾	東京大・農	PB2-124	
西平 守孝	東北大院・生命科学	S3-3	
西廣 淳	東京大・農学生命科学		
西村 欣也	北海道大・水産科学	PA2-014	
西村 誠一	農業環境技術研究所	PB1-014	
西村 千	国立環境研究所	PA3-056	
西村 尚之	佛教大・通信教育	S3-2	
西村 麻利子	新潟大・自然科学		
西本 孝	岡山県自然保護センター	PB2-114	
西脇 亜也	宮崎大・農	PA1-011	
新谷 健一	筑波大院・環境科学	PB1-019	
丹羽 里美	国立環境研究所	PB2-129	
丹羽 慈	東京大院・農学生命科学		
糠塚 ゆりか	東北大院・生命科学	PA3-097	
沼田 真也	国立環境研究所・生物圏環境	PA3-064	
根岸 知子	北海道大院・農	PA2-030	
根本 正之	東京農業大・地域環境		
野澤 洋耕	九州大・天草臨海実験所	PB2-075	
野島 智司	北海道大院・地球環境科学	PA1-137	
野田 周央	大阪市立大院・理	PB3-042	
野田 隆史	北海道大・水産	PB2-067,L3	
野田 英樹	金沢大院・自然科学	PA3-117	
野田 響	東京大院・農学生命	PA1-048	
野原 精一	国立環境研究所・生物圏環境	S1-6	
野間 直彦	滋賀県立大・環境科学		
野宮 治人	森林総合研究所	PB2-058	
野村 尚史	京都大学院・生態学研究セ	PA3-053	
野村 昌弘	科学技術振興事業団	S1-2	
野村 康弘	明治大・農		
箱山 洋	北海道区水産研究所	PA3-014	
羽柴 敬子	筑波大・生物資源	PB2-052	
橋本 和正	西海区水産研究所石垣支所	PB2-078	
橋本 徹	森林総合研究所・東北	PB1-023	
橋本 啓史	京都大院・農	PA3-091	
橋本 みのり	横浜国立大・環境情報	PB2-022	
長谷川 成明	京都大・農	PA1-056	

事前登録者名簿

氏名	所属	発表番号	懇談会
長谷川 功	北海道大・農	PB1-086	
長谷川 巧	宮城教育大・教育	PB3-039	
長谷川 夏樹	北海道大院・理		
長谷川 匡弘	九州大・理	PA1-084	
長谷川 元洋	森林総合研究所・木曾	PB2-082	
畑 憲治	東京都立大院・理	PB3-128	
畠瀬 頼子	(財)自然環境研究センター	PB1-048	
畑 啓生	京都大・人間環境	PA2-131	
畑田 彩	京都大・生態学研究セ	S1-2	
服部 昭尚	滋賀大・教育	PA3-098	
花村 慎介	名古屋大・人間情報		
浜崎 健児	農業環境技術研究所		
濱 健夫	筑波大・生物科学	PB3-001	
浜田 知宏	滋賀県立大・環境科学		
早川 武宏	名古屋大院・生命農学	PA3-038	
早坂 大亮	横浜国立大・環境情報	PB2-047	
林 秀剛	信州ツキノワグマ研究会		
林 寿則	(財)国際生態学センター		
林 文男	東京都立大・理	PA3-010	
林 良信	茨城大・理	PA3-112	
原 慶太郎	東京情報大・環境情報	PB2-032	
原田 直國	農業環境技術研究所	PA3-094	
原 正利	千葉県立中央博物館	PA3-029	
原本 真二	富山大院・理工		
原山 尚徳	森林総合研究所		
半澤 浩美	茨城県内水面水産試験場		
半田 孝俊	北海道育種場		
韓 慶民	科学技術振興事業団	PA3-074	
半場 祐子	岡山大・資源生物	PA3-077	
半谷 吾郎	京都大・霊長類研究所	PA1-130	
馬場 昭浩	鹿児島大院・教育	PB3-067	
潘 宇	信州大・理		
伴 邦教	神戸大・発達科学		
東浦 康友	東京薬科大・生命科学		
東 敬義	三重県埋蔵文化財センター	PA2-031	
東 直良	早稲田大・教育	PA3-044	
東山 了	信州大・農	PA3-104	
樋口 亜紀	早稲田大・教育	PA3-118	
樋口 広大	明治大・農	PB1-115	
彦坂 幸毅	東北大院・生命科学	PA3-085	
菱 拓雄	京都大・農	PA2-057	
肘井 直樹	名古屋大院・生命農		
日鷹 一雅	愛媛大・農・附属農場	S1-5	
檀間 岳	森林総合研究所・東北	PA3-072	
日野 輝明	森林総合研究所・関西	PA2-095	
日室 千尋	京都大院・農	PA2-123	
檜山 智嗣	琉球大院・理工	PA1-127	
兵藤 不二夫	総合地球環境学研究所	PA3-005	
平井 規央	大阪府立大院・農	PB1-092	
平尾 章	北海道大院・地球環境科学		
平尾 聡秀	帯広畜産大・生態系保護		
平田 聡之	北海道大・フィールド科学セ	PA1-032	
平塚 雄三	横浜国立大・教育人間科学		
平林 公男	信州大・繊維	PB3-084	
平吹 喜彦	宮城教育大・生物	PA3-055	
平山 大輔	大阪市立大院・理	PA3-060	
広木 詔三	名古屋大・人間情報	PB2-051	

氏名	所属	発表番号	懇談会
広木 幹也	国立環境研究所	PB2-003	
広瀬 忠樹	東北大院・生命科学	S3-1	
廣田 忠雄	国際基督教大・理	PA3-129	
広田 充	筑波大院・生物科学	PB3-013	
廣部 宗	宮崎大・農	PB1-031	
深澤 剛	富山大院・理工		
深津 武馬	産業技術総合研・生物機能	L2	
深谷 もえ	京都大・霊長類研究所	PA1-131	
福井 晶子	北海道大院・農	PB3-101	
福岡 公平	宮城教育大院・教育	PB3-109	
福岡 誠司	信州大院		
福澤 加里部	北海道大院・農	PB1-024	
福嶋 司	東京農工大・農		
福島 路生	国立環境研究所	PB1-104	
福田 朱里	筑波大・バイオシステム	PA2-109	
福田 淳子	京都大・農学研究科	PA2-094	
福田 貴文	東北大院・生命科学	PB2-041	
福田 真由子	東邦大・理	PB1-124	
福山 欣司	慶応大・生物	PB2-108	
藤岡 正博	中央農業総合研究センター		
藤田 治	広島大院・生物圏科学	PA2-138	
富士田 裕子	北海道大・植物園	S3-4	
藤田 正雄	(財)自然農法国際研究開発セ	PB3-093	
藤田 光則	帝京大		
藤田 素子	横浜国立大院・環境情報	PB1-081	
藤原 直子	豊橋市自然史博物館	PB1-119	
藤原 道郎	姫路工業大・自然環境	PB3-059	
藤巻 玲路	京都大院・農学研究科	PA2-056	
藤本 潔	南山大・総合政策	S3-3	
藤山 静雄	信州大・理		
藤原 一繪	横浜国立大院・環境情報		
藤原 直	京都工芸繊維大・化学生態		
古川 武文	東京都立大・理	PA2-045	
古川 祐美	横浜国立大院・環境情報	PB2-025	
古澤 仁美	森林総合研究所・関西	PB3-030	
逸見 泰久	熊本大・沿岸域環境科学セ	PB1-093	
部奈 千晶	琉球大・理工	PB2-076	
北條 優	東京大院・広域システム	PA3-004	
保坂 哲朗	京都大・農	PA2-087	
細川 貴弘	九州大・理	PA3-136	
堀田 万祐子	北海道大・苫小牧研究林	PB1-110	
保原 達	国立環境研・地球環境研究セ	PB1-030	
保谷 彰彦	東京大院・広域システム	PA1-013	
堀 正和	北海道大院・水産科学	PB3-099	
堀 良通	茨城大・理		
本郷 裕一	科学技術振興事業団	PA3-002	
本城 正憲	筑波大	PA1-045	
本間 淳	京都大・農	PA3-127	
本間 航介	新潟大・農・フィールドセ	PB2-055	
前川 光司	北海道大・フィールド科学セ		
前河 正昭	長野県自然保護研究所	PB3-114	
前迫 ゆり	奈良佐保短期大・生態	PB3-040	
前園 泰徳	東京大院・農学生命科学	PB1-127	
前田 祥子	岐阜大・地域科学	PB1-102	
前田 琢	岩手県環境保健研究センター	PB3-121	
前田 武志	近畿大・農	PB3-106	
前田 太郎	農業生物資源研究所	PA3-121	

氏名	所属	発表番号	懇談会
牧野 崇司	東北大院・生命科学	PA1-089	
牧野 真人	京都府立大院・農	PA1-003	
増井 直緒	神戸女学院大・人間科学		
榎元 敏也		PB1-089	
松井 哲哉	森林総合研究所・植物生態	PB2-036	
松浦 陽次郎	森林総合研究所	PB1-017	
松岡 美智子	大阪女子大・理	PB2-100	
松尾 奈緒子	京大・農	PA2-072	
松尾 洋	東京都立大院・理	PA2-119	
松木 佐和子	北海道大院・農	PA2-084	
松木 吏弓	電力中央研究所・応用生物	PA1-109	
松崎 潤	東京大院・農学生命科学		
松島 野枝	東北大院・生命科学	PA1-112	
松瀬 研也	名古屋大・人間情報		
松谷 乙音	信州大・農	PB1-117	
松田 久美子	横浜国立大院・環境情報学府	PB2-023	
松田 裕之	東京大学・海洋研究所	S1-5	
松原 圭	琉球大・理工	PB2-010	
松原 肇	日本大院・生物資源科学	PA3-128	
松村 千鶴	京大・農学生命科学	PB2-126	
松本 武尊	金沢大・理	PB2-119	
松本 崇	京大・農	PB1-091	
松本 忠夫	東京大院・総合文化		
真野 秋綱	愛媛大・農・付属農場	PA3-108	
真野 浩行	筑波大・生命環境科学	PA3-111	
鞠子 茂	筑波大・生物科学		
丸岡 英生	自然研		
丸山 薫	東北大・農		
丸山 立一	岩手大連合院	PB1-056	
三浦 収	東北大院・理	PA2-006	
三浦 和美	京大大院・農	PA3-125	
三浦 徹	東京大院・総合文化		
三浦 真弘	名古屋大院・生命農学	S3-2	
三上 修	東北大院・理	PA2-022	
三上 光一	横浜国立大・環境情報	PB3-058	
三島 慎一郎	農業環境技術研究所	PB1-004	
水野 一晴	京大大院・アジア・アフリカ	PB2-040	
水幡 正蔵		PB3-120	
三田村 理子	東邦大・理		
道前 洋文	北海道大院・理	PA3-116	
三井 健一	信州大院・農	PB1-108	
三井 雄一郎	兵庫県立淡路景観園芸学校	PB2-048	
光岡 佳納子	生物多様性センター	PA1-111	
見永 亜希子	広島大・総合科学		
嶺田 拓也	農業工学研究所		
峯松 理恵	広島大院・国際協力	PB1-105	
三村 奈津代	京都府立大・農		
三村 幸枝	奈良女子大院・人間文化	PA1-024	
宮内 大策	横浜国立大院・環境情報	PB2-019	
宮久保 知和子	明治大・農	PB1-118	
三宅 崇	九州大院・理	PA3-019	
三宅 尚	高知大・理	PA2-028	
三宅 康子	東北大院・生命科学	PA3-059	
宮崎 龍雄	千葉大・海洋バイオ研究セ	PA3-024	
宮澤 真一	大阪大学理学研究科生物科学		
宮沢 良行	京大大院・農	PA2-070	
宮下 直	東京大院・農学生命科学	S3-5	

氏名	所属	発表番号	懇談会
宮下 衛	国立環境研究所	PB1-111	
宮竹 貴久	岡山大・農	PA3-009	
宮本 和樹	森林総合研究所・関西	PB3-074	
宮脇 成生	(株)建設環境研究所	PB1-123	
三好 和貴	北海道大院・地球環境科学		
三好 順也	徳島大院・工	PB2-001	
向井 宏	北海道大・厚岸臨海実験所		
六車 秀士	北海道大院・水産科学	PA2-105	
向 草世香	九州大院・理	PA2-021	
宗原 慶恵	名古屋大・農	PA3-039	
村岡 裕由	岐阜大・流域圏科学研究セ	PA3-081	
村上 健太郎	きしわだ自然資料館	PB3-103	
村上 雄秀	(財)国際生態学センター	PB1-041	
村瀬 香	名古屋大院・生命農学	S1-2	
村田 浩平	九州東海大・総合農学	PB3-088	
村田 明久	千葉県立中央博・海の博物館		
村田 寛文	鹿児島大・教育	PB3-068	
村中 孝司	京大・農学生命科学	PB1-121	
目黒 伸一	(財)国際生態学センター	PA1-064	
莫 文紅	筑波大・生物科学	PB2-014	
最上 祥成	信州大		
望月 久美子	筑波大・生命環境科学	PA1-065	
望月 健児	信州大・理	PB2-097	
桃川 尚子	神戸大		
百瀬 邦泰	京大大院・アジア・アフリカ		
百原 新	千葉大・園芸	PA1-005	
森 章	京大大院・農	PB1-057	
森 光太郎	茨城大・農	PA2-011	
森 早苗	大阪市立大	PB3-029	
森 茂太	森林総合研究所・東北	PA2-074	
森 有希	信州大院・農	PB1-038	
森口 喜成	新潟大院・自然科学	PA3-037	
森貞 和仁	森林総合研究所		
森定 伸	(株)ウエスコ	PB3-061	
森田 厚	埼玉農林総合研究センター		
森長 真一	東北大・生命科学	PA1-081	
森広 信子	東京都高尾自然科学博物館	PA3-061	
森本 元	立教大院・理	PA1-134	
森本 信生	畜産草地研究所	PB1-078	
森本 幸裕	京大・地球環境院	S1-1	
森山 輝久	立正大・地球環境	PA1-059	
矢ヶ崎 朋樹	(財)国際生態学センター	PB2-038	
八木 健爾	神戸大院・総合人間科学	PB3-063	
八木 貴信	森林総合研究所・東北	PA2-063	
八木 立夫	近畿大・農	PB3-097	
八木橋 勉	森林総合研究所	PB2-034	
矢崎 友嗣	北海道大院・農	PB2-045	
矢崎 至洋	岐阜大・流域圏科学研究セ	PB1-026	
八代 裕一郎	筑波大・生物	PB1-016	
安井 行雄	香川大・農	PA2-117	
安井 さち子	東洋蝙蝠研究所	PA1-099	
安田 泰輔	茨城大・理	PB3-017	
安田 雅俊	森林総合研究所・鳥獣生態	PB1-007	
安村 有子	東北大院・生命科学	PA1-074	
安元 暁子	九州大院・理	PA1-010	
矢竹 一穂	電力中央研究所		
谷内 茂雄	総合地球環境学研究所	S1-3	

氏名	所属	発表番号	懇談会
矢内 晃子	横浜国立大院・環境情報	PB3-104	
柳 真一	岡山大・農	PA2-120	
矢野 慶介	林木育種センター		
矢野 修一	京都大院・農	PA3-120	
矢部 和夫	札幌市立高等専門学校	PB1-055	
矢部 徹	国立環境研究所		
山内 淳	京都大・生態学研究セ	PA2-016	
山北 剛久	千葉大・理		
山岸 洋貴	北海道大院・地球環境科学	PA1-044	
山口 恭弘	中央農研・鳥獣害研	PA2-104	
山崎 梓	京都大・農		
山崎 尚人	農薬検査所		
山崎 理正	京都大・農	PA2-092	
山崎 互	広島大		
山崎 一樹	明治大・農		
山崎 裕治	富山大・理	PB1-100	
山下 慎吾	広島大院・国際協力	PB1-073	
山下 飛鳥	名古屋大院・生命農学	S3-2	
山下 聡	名古屋大院・生命農	PB2-081	
山下 寿之	富山県中央植物園		
山下 はなえ	果樹研究所		
山路 恵子	Metla, 森林総研・東北	PB1-001	
山田(瀧)麻子	小田原女子短期大	PB1-106	
山田 明德	京都大・生態学研究セ	PB2-028	
山田 聡美	奈良女子大・理		
山田 智康	農業環境技術研・フラックス	PB1-015	
山田 文雄	森林総合研究所	S3-5	
山野井 貴浩	北海道大・水産	PA2-135	
山平 寿智	新潟大・理		
山村 則男	京都大・生態学研究セ	PA2-015	
山村 靖夫	茨城大・理		
山本 福壽	鳥取大・農	S3-4	
山本 恵利佳	信州大院・農学研究科		
山本 進一	名古屋大院・生命農学	S3-2	
山本 智子	鹿児島大・水産	PB2-069	
山本 真規			
矢守 航	大阪大院・理	PA1-068	
湯本 裕之	明治大・農	PB1-054	
由良 浩	千葉県立中央博物館	PA1-070	
尹 朝熙	広島大院・生物圏科学	PA3-083	
横井 智之	近畿大・農	PB3-076	
横井 洋太	北里大・基礎科学セ		

氏名	所属	発表番号	懇談会
横尾 誠	九州大院・理・臨海実験所	PA2-090	
横沢 正幸	農業環境技術研究所	PB1-027	
横田 岳人	奈良女子大・理	PA2-096	
横畑 泰志	富山大・教育	PB3-129	
横溝 裕行	九州大院・生物科学	PB3-119	
横山 潤	東北大・生命科学	PB2-127	
横山 将光	金沢大院・生態	PA3-054	
吉竹 晋平	広島大・総合科学	PB3-031	
吉田 勝彦	国立環境研究所・生物多様性		
吉田 圭一郎	国立環境研・熱帯生態系保全		
吉田 卓司	東北大院・生命科学	PA2-136	
吉田 智弘	名古屋大院・生命農学		
吉田 保志子	中央農業総合研究セ・鳥獣害	S1-5	
吉田 洋	岐阜大・農	PA1-128	
吉野 知明	横浜国立大	PA3-092	
吉丸 博志	森林総合研究所・森林遺伝	S3-2	
吉村 仁	静岡大・工		
吉村 真由美	森林総合研究所・四国	PB3-083	
吉本 治一郎	京都大院・農	PB2-086	
米倉 竜次	京都大・生態学研究セ	PB1-128	
米崎 史郎	長崎大院・生産科学		
米田 健	鹿児島大・農	PB3-069	
萬屋 宏	北海道大・低温科学研究所	PB2-105	
雷 耘	横浜国立大・環境情報	PB2-059	
梁 乃申	国立環境研究所	PB1-020	
若林 恭史	東邦大・理		
若松 伸彦	横浜国立大院・環境情報	PB1-064	
鷲頭 奈美	大阪女子大・理		
鷲谷 いづみ	東京大院・農学生命科学	S1-5	
渡辺 敦子	東京大院・農業生命科学	PB3-117	
渡辺 伸一	琉球大院・理工	PA2-003	
渡辺 園子	広島大・国際協力		
渡辺 哲広	埼玉大院・理工	PB3-038	
渡辺 肇	高岡法科大		
渡辺 肇	埼玉大院・理工	PA1-030	
渡辺 雅子	北海道大・厚岸臨海実験所	PA1-026	
渡邊 雅史	新潟大院・自然科学	PA2-115	
渡辺 守	筑波大・生物科学系	PA3-102	
和田 恵次	奈良女子大・理	S3-3	
和田 哲	高知大・海洋生物教育研究セ	PA1-122	
和田 美貴代	横浜国立大院・環境情報	PB2-057	

氏名	所属	発表番号	懇談会
Niels Anten	Dept. Plant Ecology, Utrecht Univ.	S3-1	
Bhatta, Balram K.	京都大	PB3-024	
Xiaoyong Cui	国立環境研究所	PB3-016	
Forood Azari Dehkordi	広島大	PB1-103	
Feroz S. M.	琉球大・理工	PB3-065	
Graham D Farquhar	Res. School of Bio. Sci., Australian Natl Univ.	S3-1	
Charles Godfray	NERC Centre for Population Biology, UK	L3	
B. Rosemary Grant	Princeton Univ., USA		
Peter R. Grant	Princeton Univ., USA	L1	
Ilkka Hanski	Univ. Helsinki, Finland	L1	
Henny Herwina	金沢大院・自然科学	PB2-090	
Sun-Kee Hong	Seoul National Univ, Korea	PS-001	
Huang Daming	茨城大・理	PB3-009	
Byung-Sun Ihm	Mokpo National Univ., Korea		
Khan Md. Nabiul Islam	琉球大・理工	PB1-018	
Shiromi Karunaratne	埼玉大・理工	PB2-117	
Eun-Shik Kim	Kookmin Univ., Korea		
Jae-Eun Kim	広島大院・国際協力	PB3-112	
Laode Alhamd	琉球大・理工	PB3-026	
Ma'ruf Kasim	北海道大・厚岸臨海実験所	PA2-127	
Onno Muller	東北大, Utrecht Univ.	PB3-008	
Nimal Priyantha Dodampe Gamage	埼玉大	PB3-025	
Chan-Ryul Park	森林総合研究所・関西	PB1-094	
Remy J. Petit	INRA, Unite de Recherches Forestieres	L2	
Eko Pudjadi	広島大院・生物圏科学	PB1-003	
S.Reza Pezeshki	Univ. Memphis, USA		
Sultana Parveen	広島大院・国際協力	PB1-005	
David Tilman	Univ. Minnesota, USA	L3	

第51回日本生態学会大会(2004年8月、釧路)のご案内

日本生態学会の第51回大会は2004年の夏(8月)に釧路で行う予定です。釧路大会に参加される方は釧路湿原をはじめとした広大な北海道東部の自然や、新鮮な魚介類を使った料理なども楽しんでいただけたらと思っています。大会は通常は春に開催されることが多いのですが、8月開催ということで、50回大会(筑波)から約1年半後に行うこととなります。お間違えなく。

会場は1993年のラムサール釧路会議(COP5)の会場となったコンベンションセンターを主会場とします。釧路市の中心部に位置し、主要なホテルや繁華街の近くです。ただ、会場の関係から一般講演はポスターセッションで行いたいと考えていますので、よろしくご協力いただきたいと思います。

日程(予定): 2004年8月25日(水)から28日(土)

会場: 釧路市観光国際交流センター(通称:ラムサールセンター)
釧路市幸町3-3、Tel.0154-31-1993

問い合わせ連絡先: 神田房行(下記)まで

北海道教育大学釧路校生物学教室 環境教育情報センター
kanda@kus.hokkyodai.ac.jp
Tel. & Fax. 0154-44-3335

日本生態学会50回大会実行委員会

(事務局) 305-8506 茨城県つくば市小野川 16-2
国立環境研究所 生物多様性プロジェクト 上席研究官室(椿 宜高気付)
Tel./Fax. 029-850-2482
E-mail: jes50@cool.ne.jp
大会ホームページ: <http://jes50.cool.ne.jp/>

日本生態学会50回大会実行委員

大会会長: 椿 宜高(国立環境研)
実行委員長: 竹中 明夫(国立環境研)
会計: 野原 精一(国立環境研)
渉外: 椿 宜高・竹中 明夫・奥田 敏統(国立環境研)
ウェブページ: 竹中 明夫(国立環境研)
プログラム: 藤岡 正博(中央農研)
要旨集: 永田 尚志(国立環境研)
受付: 内海 真生・徳永 幸彦・鞠子 茂(筑波大)
会場: 田中 浩・安田 雅俊・石田 厚・津村 義彦(森林総研)
ポスター展示: 池田 浩明(農環研)
公開講演会: 高村 健二(国立環境研)
懇親会: 五箇 公一(国立環境研)
託児所: 五箇 公一(国立環境研)
休憩所: 上條 隆志(筑波大)
アルバイト: 徳永 幸彦(筑波大)

R100

